

令和5年  
(2023年)

# 三重県立総合医療センター一年報

地方独立行政法人  
三重県立総合医療センター

# 令和5年三重県立総合医療センター年報

## 目 次

1	三重県立総合医療センターの基本理念・基本方針	1
2	病院の概要	
	(1) 沿革	2
	(2) 施設整備の概要	6
	(3) 学会認定状況	9
	(4) 組織機構図	11
	(5) 職種別定数及び現在員数	12
3	各診療科・部門の概要	
	(1) 診療部（各診療科診療実績）	13
	(2) 看護部	48
	(3) 中央放射線部	52
	(4) 中央検査部	53
	(5) 薬剤部	54
	(6) 栄養管理室	55
	(7) 地域連携課	57
	(8) 医療安全管理部	61
	(9) 研究センター	66
	(10) 学会・研究会発表及び論文発表実績	67
4	統計データ	
	(1) 患者統計	101
	(2) 病歴管理室統計	104
	(3) 図書蔵書状況	111

# 1 三重県立総合医療センターの基本理念・基本方針

## 基本理念

- 1 救命救急、高度、特殊医療等を提供することにより、県の医療水準の向上に貢献します。
- 2 安全・安心で互いにささえあう社会の実現に向けて医療面から貢献します。

## 基本方針

- 1 患者の皆様のご権利を尊重し、信頼と満足の得られるチーム医療を提供します。
- 2 県の基幹病院として医療水準の向上に努めるとともに、医療人材の育成に貢献します。
- 3 県内医療機関との連携を強化し、地域医療の充実に努めます。
- 4 職場環境を改善し、職員のモチベーションの向上に努めます。
- 5 責任と権限を明確にした自律的・自主的な経営を行います。

## 受診される皆様の権利

- 1 人として尊重され最善の医療を受ける権利があります。
- 2 医療行為についての情報提供と説明を受ける権利があります。
- 3 患者の皆様のご理解と同意に基づいた医療を受ける権利があります。
- 4 診療情報の保護により、プライバシーを尊重される権利があります。

## 守っていただく事項

- 1 心身の健康状態などの必要事項については、正確で詳細な情報をお伝えください。
- 2 医療行為は、理解と合意のうえで受けてください。
- 3 お互いに、礼儀正しく社会的ルールをお守りください。
- 4 医療費の支払い請求を受けたときは、速やかにお支払いください。

## 2 病院の概要

### (1) 沿革

昭和23年	8月	三重県医師会より旧海軍燃料廠附属病院を継承し、「三重県立医学専門学校・三重県立医科大学附属塩浜病院」として発足 <b>初代院長・渡辺篤就任</b> 病床数：113床
25年	4月	塩浜病院乙種看護婦養成所を設立
	6月	<b>第二代院長・高安正夫就任</b>
	12月	生活保護法に基づく保険医療機関指定 病床数：134床（普通病床：99床、結核病床：35床）許可
27年		借用中の国有財産（土地：7,270坪、建物：18棟1,809坪）を譲受
28年	2月	第6病棟（木造平屋建）竣工
	4月	三重県立大学医学部附属塩浜病院准看護婦学校を併設
	5月	「総合病院」の名称使用承認
30年	7月	鉱工業の医学に及ぼす影響及び産業従事者の特殊疾患の研究を目的として、病院敷地内に「産業医学研究所」を設立
31年	7月	第1病棟（鉄筋コンクリート2階建）竣工
32年	3月	第3病棟（鉄筋コンクリート2階建）竣工
	8月	健康保険法に基づく保健医療機関指定 病床数：307床（一般：220床、結核：87床）許可
33年	10月	基準看護（一般・結核）、基準給食承認
	11月	病床数：307床（一般208床、結核：87床・伝染病：12床）許可
34年	1月	国民保険法に基づく保険医療機関指定 東5病棟（鉄筋コンクリート4階建）竣工
	9月	病床数：465床（一般：354床、結核99床、伝染病：12床）許可
	11月	中央治療棟（鉄筋コンクリート3階建）竣工
35年	1月	県立大学行政機構改革に伴い、「三重県立大学医学部附属塩浜病院」、「県立大学医学部附属准看護婦学校」へ改称
36年	10月	手術室、ボイラー室及び変電室竣工
37年	5月	病床数：465床 （一般：354床、結核：91床、精神病：8床、伝染病：12床）許可
	8月	病床数：465床（一般：354床、結核：99床、伝染病、12床）許可
38年	3月	外来診療B棟（鉄筋コンクリート2階建）竣工
39年	3月	外来診療A棟（鉄筋コンクリート2階建）竣工
	7月	基準寝具承認
	12月	看護婦宿舎（鉄筋コンクリート4階建）竣工
40年	4月	第5病棟2階に公害患者のための空気清浄室設置 <b>第三代院長・藤野敏行就任</b>
41年	2月	病床数：465床（一般：354床、結核：52床、精神病47床、伝染病：12床）許可
	5月	「救急病院等を定める省令」に基づき救急病院の告示
44年	4月	<b>第四代院長・宮地一馬就任</b>
48年	3月	院内保育所（木造平屋建）竣工

昭和49年	4月	県立大学の国立移管により、三重県立大学医学部附属塩浜病院及び県立大学医学部附属准看護婦学校を廃止し、「三重県立中央病院」、「塩浜高等看護学院」として発足	
		<b>第五代院長・高崎浩就任</b>	
	9月	病院名称を三重県立中央病院から「三重県立総合塩浜病院」に改名	
50年	6月	<b>第六代院長・森幸夫就任</b>	
51年	4月	解剖霊安棟（木造）を鉄筋2階建に改築	
	5月	給水、ボイラー、焼却及び電気設備を改修	
52年	4月	第5病棟西棟（木造2階建）を鉄筋コンクリート4階建に改築	
53年	4月	第1病棟1階を検査室と薬品倉庫に改修	
54年	3月	防災設備（スプリンクラー等）を改修	
54年	9月	病院群輪番制病院	
55年	8月	外来棟冷房設置及び駐車場を整備	
57年	8月	基準寝具承認	
58年	1月	医事業務の電算化	
	3月	第3病棟の病床（産婦人科）を第5病棟に移設（7看護単位）、塩浜高等看護学院廃止	
	6月	X線コンピュータ断層診断装置を設置	
59年	3月	第6、第7病棟、第三宿舎、倉庫2棟の木造建築解体撤去、東5病棟改修、外壁塗装	
	8月	結核病床52床、精神病床47床、伝染病12床を廃止（一般病床354床許可）	
60年	3月	食器洗浄棟設置	
61年	12月	「県立総合病院整備基本計画」策定	
62年	3月	注射用与薬車を全病棟へ導入、錠剤自動分包機導入	
平成	2年	3月	高周波加速電界発生機器収納施設（ライナック治療棟）設置
	3年	3月	県立総合医療センター建設用地取得
		4月	<b>第七代院長・杉山陽一就任</b>
	4年	1月	県立総合医療センター建設工事着工
		3月	県立総合医療センター（一般：350床、救命救急センター：30床）開設許可
		7月	ヘリポート設置許可承認
	5年	4月	夜間看護等加算の承認
	6年	6月	医師公舎、看護婦宿舎、院内保育所建設工事着工
		4月	医事課を医事経営課に改める
		6月	県立総合医療センター竣工
		9月	県立総合塩浜病院閉院
6年	10月	県立総合医療センター開院	
		救急病院指定	
		身体障害者福祉法による更生医療指定病院承認	
		結核予防法指定病院の承認・生活保護指定病院承認	
		母子保健法による養育医療指定病院承認	
		臨床研修指定病院承認	
		保険医療機関指定承認	
		労災保険指定病院の変更承認・労災保険義肢採型指導医指定変更承認	
		労災アフターケア実施医療機関指定変更承認	
	7年	4月	NICU 施設認定

- 平成8年 2月 「エイズ治療拠点病院」指定  
4月 **八代院長・宗行万之助就任**
- 9年 1月 「基幹災害医療センター」指定（24年4月より「基幹災害拠点病院」指定）
- 11年 4月 **九代院長・鈴木宏志就任**  
適時適温給食導入
- 12年 1月 西棟・手術棟完成
- 13年 3月 6階東病棟改修  
4月 「第二種感染症病床指定医療機関」指定  
病床数（一般412床、救命救急センター30床、感染症4床）許可  
7月 セミオープンベット開設
- 14年 8月 「地域がん診療連携拠点病院」指定  
10月 **十代院長：小西得司就任**
- 15年 3月 地域周産期母子医療センター指定（NICU3床、GCU7床）  
4月 「へき地医療拠点病院」指定  
8月 新オーダーリングシステム導入  
9月 救命救急センター HCU ICU CCU に分離（ICU CCU 7床→6床）
- 16年 3月 日本医療機能評価機構による病院機能評価認定取得（Ver.3）  
パーキングシステム設置  
4月 患者相談窓口設置  
6月 外来化学療法室を開設（6床）
- 17年 11月 太陽光発電システム設置
- 18年 1月 緩和ケア外来開設  
8月 初代電子カルテシステム導入
- 20年 3月 放射線治療システム（ライナック）設置更新  
4月 **十一代院長：高瀬幸次郎就任**  
クレジットカード決済開始  
災害用地下水供給システム設置  
7月 セカンドオピニオン外来開設  
10月 外来化学療法室の移転（2階）及び増床（7床→10床）  
11月 自治会との災害給水協定締結  
血管造影撮影装置（心臓・頭腹部アンギオ）設置
- 21年 3月 三重DMAT派遣協定締結（三重DMAT派遣病院）  
4月 DPC（医療費定額支払制度）開始  
6月 日本医療機能評価機構による病院機能評価認定取得（Ver.5）  
8月 がんサポート室開設  
10月 7対1看護基準取得
- 22年 6月 地域連携室移転整備（「かけはし」の開設）  
10月 320列マルチスライスCT設置
- 23年 8月 2代目電子カルテシステム導入
- 24年 4月 地方独立行政法人化  
**初代理事長：高瀬幸次郎就任（院長兼務）**
- 25年 3月 内視鏡棟完成（内視鏡センター設置）  
病床数（一般409床、救命救急センター30床、感染症4床）許可

平成25	4月	周産期棟完成
	6月	「地域医療支援病院」承認
26年	2月	MFICU 5床を供用開始 NICU増床（3床→6床）、GCU増床（7床→12床）
	6月	日本医療機能評価機構による病院機能評価認定更新取得（3rdG Ver1.0）
27年	1月	3.0テスラMRI増設
	4月	NPO法人卒後臨床研修評価機構認定病院認定
	10月	「北勢呼吸器センター」開設 「三重県がん診療連携拠点病院」指定
	12月	院内コンビニエンスストア開店
28年	11月	1.5テスラMRI更新
30年	4月	<b>2代目理事長：新保秀人就任（院長兼務）</b>
	11月	小児外科設置
令和元年	5月	手術支援ロボット導入
	6月	日本医療機能評価機構による病院機能評価認定取得（3rdG Ver2.0）
	9月	「高難度新規医療技術評価部」設置 中央手術部内に「ロボット手術センター」設置
令和2年	8月	病床数変更（一般389床、救命救急センター30床、感染症4床）
	11月	形成外科設置
5年	3月	病床数変更（一般385床、救命救急センター30床、感染症4床）
	4月	感染症内科設置

## (2) 施設設備の概要

●所在地 四日市市大字日永 5450 番地 132

### ●病床数

一般……………	381 床
感染症病床……………	4 床
救命救急センター……………	28 床
計	413 床

### ●診療科目

総合内科	呼吸器内科	消化器内科	循環器内科
脳神経内科	消化器・一般外科	乳腺外科	小児外科
呼吸器外科	心臓血管外科	脳神経外科	小児科
産婦人科	整形外科	皮膚科	泌尿器科
眼科	耳鼻いんこう科	精神科	放射線診断科
放射線治療科	麻酔科	病理診断科	救急科
形成外科	感染症内科		

### ●本館敷地・建物概要

敷地面積……59,450.90 m<sup>2</sup>

建物規模……地下1階、地上7階、塔屋2階

建物構造……高層部SRC造、低層部RC造

建築面積……9,764.56 m<sup>2</sup>

延床面積……29,977.74 m<sup>2</sup>

※病棟部門……11,935.69 m<sup>2</sup>

※外来部門……4,867.88 m<sup>2</sup>

※中央診療部門……5,023.67 m<sup>2</sup>

※管理・サービス部門……8,150.50 m<sup>2</sup>

駐車台数……約985台

※敷地内駐車場……約642台（患者：365台、職員：208台、その他：69台）

### ●附属施設

医師公舎 RC2階建、延床面積：517.86 m<sup>2</sup>（12戸）

看護師宿舎 RC3階建、延床面積：1,758.99 m<sup>2</sup>（68室）

院内保育所 RC平屋建、延床面積：233.40 m<sup>2</sup>

### ●厚生施設

食堂（7階）、コンビニエンスストア、自販機コーナー

### ●付帯設備

電子カルテオーダリングシステム



院外処方 FAX ステーション  
災害備蓄倉庫  
駐車場ゲートシステム

●電気設備

受変電設備	受電電圧 6.6kV 変圧器容量 4,570kVA
非常用発電機設備	ガスタービンエンジン 3相3線 6.6kV1,000kVA×1台 ディーゼルエンジン 3相3線 220V200kVA×1台 ディーゼルエンジン 3相3線 220/100V150kVA×1台 ディーゼルエンジン 3相3線 220V150kVA×1台
非常用発電機燃料設備	地下タンク 40,000L (A重油)
無停電電源設備	医療用定格出力 75kVA×1台 医療用定格出力 50kVA×1台
電気時計設備	親時計、子時計
電話交換設備	電子交換機中継台方式 一般電話機、多機能電話機、コードレス電話機、PHS
放送設備	非常・業務兼用定格出力 1,440W 系統 50
ナースコール	ベッド単位方式同時通話 PHS 対応
自動火災報知設備	GR型複合型受信機
その他	照明制御装置、避雷設備、中央集塵設備、投薬表示設備、電気錠、防犯カメラ設備、太陽光発電装置、緊急地震速報システム、非常通報装置

●空気調和設備

主熱源	空冷ヒートポンプチラー 9台、ターボ冷凍機 1台 (ESCO) 合計 1,061 冷凍トン
主空調方式	空気調和機、ファンコイルユニット、パッケージエアコン
空調制御設備	中央監視設備による自動制御 (病室用パッケージエアコンを除く)
換気設備	給気設備、排気設備

●給排水衛生設備等

給水設備	上水受水槽 216,000L×1台 井水受水槽 102,000L×1台 上水高架水槽 60,000L×1台 井水高架水槽 40,000L×1台
排水設備	厨房・洗濯排水系、人工透析・解剖室排水系、生活排水系、検査系の4系 統処理能力 712 m <sup>3</sup> /日 R I 排水処理設備処理能力 0.2 m <sup>3</sup> /日
災害用地下水供給システム	8.0 m <sup>3</sup> /h
ボイラー設備	小型貫流蒸気ボイラー (ESCO) 最高圧力 0.98Mpa 相当蒸発量 1,500kg/h
医療ガス設備	液体酸素、気体酸素、笑気、窒素、圧縮空気、二酸化炭素
エレベータ設備	一般用 2台、業務用 4台、配膳用 1台、ヘリポート搬送用 1台、検体搬送用 1台

- 気送管搬送設備                    23 ステーション  
   外来系・病棟系 2系統
- ヘリポート設備                    陸上ヘリポート（屋上）耐重量6.8t  
   着陸帯 22メートル（長さ）×18メートル（幅）
- 高額備品一覧

	資産名称	メーカー	規格	数量
2010	X線CT診断装置	東芝	Aquilion ONE	1
2010	ハイビジョンカメラシステム	カールストルツ	IMAGEL HDカメラコントロールユニット	1
2011	麻酔記録モニタシステム	日本光電	CAP-0500, CNS-9601他	1
2012	汎用超音波診断装置	GEヘルスケア		1
2012	関節鏡視下カメラシステム	ジンマー	IM4000	1
2012	生体情報監視装置	フィリップス		1
2012	高度集中治療用サプラインユニット	ドレゲル		1
2012	眼底カメラ	日本ルミナス		1
2013	マンモトーム付乳房撮影装置	富士フィルムメディカル 他	AMULET F, SCM1 他	1
2013	高圧蒸気滅菌装置	ウドノ医機	SHS-U1413-D/FL	3
2013	生化学自動分析装置	日立ハイテクノロジーズ	LABOSPECT006	2
2013	レーザー光凝固装置	トプコン	PascalStreamLineYellow	1
2013	超音波診断装置	GEヘルスケア	VolusonE8	1
2014	3.0T-MRI	フィリップス	Ingenia 3.0T R5	1
2014	泌尿器用X線検診システム	島津製作所	UROVISION II	1
2014	超音波診断装置	フィリップス	EPIQ7	1
2015	泌尿器電子内視鏡システム	オリンパス	VISERA ELITE 他	1
2015	心臓超音波診断装置	フィリップス	EPIQ7G	1
2016	1.5T-MRI	フィリップス	Ingenia 1.5TCX	1
2016	内視鏡システム	オリンパス	VISERA 4K	1
2016	X線テレビ装置	東芝	ZEXIRA	1
2016	血液検査システム	シスメックス	XN-3000	1
2017	新医療情報システム(電子カルテ・オーダリングシステム)	ソフトウェア・サービス	Newton2 他	1
2017	新医療情報システム(放射線システムPACS)	ピー・エス・ピー	Evince 他	1
2018	超音波気管支ファイバースコープ	オリンパス	BF-UC290F	2
2018	超音波診断装置	GEヘルスケア	LOGIQ E10	1
2018	調剤支援システム	トーショー	Xana-2720EU 他	1
2018	X線撮影装置	島津製作所	RADspeedPro 他	4
2019	アンギオ装置(心臓)	フィリップス	Azurion 7 C12	1
2020	アンギオ装置(頭腹部)	フィリップス	Azurion 7 B20/15	1
2020	CT装置	キャノン	AquilionONE (TSX-305A)	1

### (3) 学会認定状況

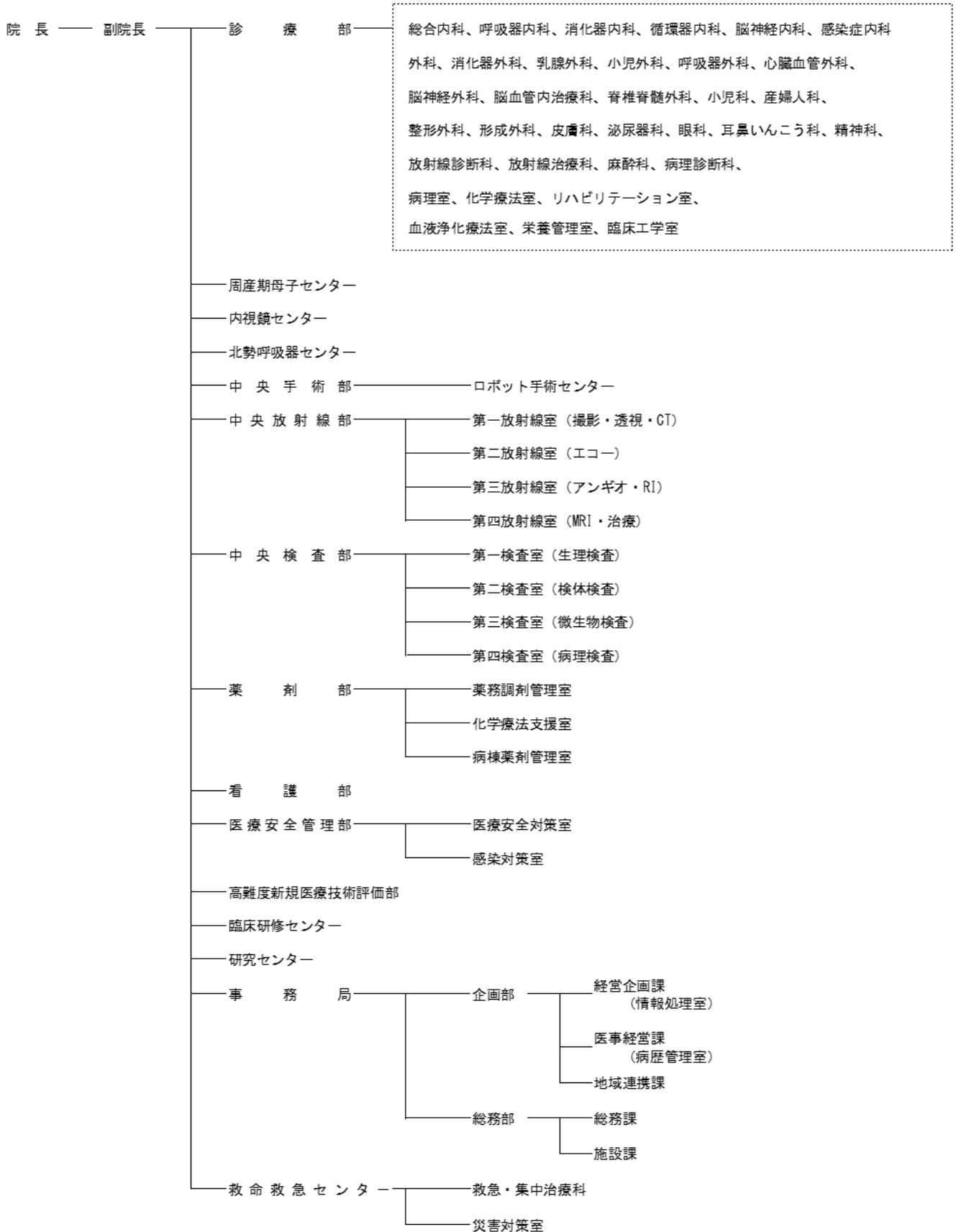
- ・日本内科学会認定教育関連病院
- ・日本小児科学会小児科専門医研修施設
- ・日本皮膚科学会認定研修施設
- ・日本外科学会外科専門医制度修練施設
- ・日本整形外科学会専門医研修施設
- ・日本産科婦人科学会専攻医指導施設
- ・日本泌尿器科学会専門医教育施設
- ・日本脳神経外科学会専門医教育施設
- ・日本医学放射線学会専門医修練機関
- ・日本麻酔科学会認定麻酔科認定病院
- ・日本消化器病学会認定施設
- ・胸部外科教育施設協議会修練施設
- ・日本循環器学会循環器専門医研修施設
- ・日本肝臓学会認定施設
- ・日本神経学会准教育施設
- ・日本脳卒中学会一次脳卒中センター認定施設
- ・日本消化器外科学会専門医修練施設（認定施設）
- ・日本消化器内視鏡学会認定指導施設
- ・日本大腸肛門病学会認定施設
- ・日本周産期・新生児医学会新生児指定施設
- ・日本周産期・新生児医学会母体・胎児指定施設
- ・日本呼吸器内視鏡学会認定施設
- ・日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設
- ・三学会構成心臓血管外科専門医認定機構認定修練施設
- ・呼吸器外科専門医合同委員会認定基幹施設
- ・日本乳癌学会認定施設
- ・日本呼吸器学会認定施設
- ・日本がん治療認定医機構認定研修施設
- ・日本臨床腫瘍学会認定研修施設
- ・日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設
- ・日本高血圧学会専門医認定施設
- ・日本救急医学会救急科専門医指定施設
- ・日本眼科学会専門医制度研修施設
- ・日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
- ・日本緩和医療学会認定研修施設
- ・日本臨床衛生検査技師会精度保証認証施設
- ・婦人科悪性腫瘍研究機構登録参加施設
- ・日本集中治療医学会専門医研修施設
- ・日本ステントグラフト実施基準管理委員会胸部ステントグラフト実施施設
- ・日本ステントグラフト実施基準管理委員会腹部ステントグラフト実施施設
- ・日本小児外科学会認定教育関連施設

- ・日本産婦人科学会専門研修連携施設
- ・日本栄養療法推進協議会NST稼動施設
- ・日本産科婦人科学会ロボット支援下婦人科良性疾患手術実施施設
- ・日本病理学会登録施設
- ・日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療協力施設
- ・日本胃癌学会認定施設 B 認定施設

(4) 組織機構図

地方独立行政法人 三重県立総合医療センター 組織機構図

令和5年4月1日～



## (5) 職種別定数及び現在員数

令和5年4月1日現在（単位：人）

職種	区分	配置数	現在員	過不足	嘱託/業務補助等
一般職	一般事務職	30	30	0	36
	電気技師	2	2	0	0
	情報技師	2	2	0	0
	建築技師	1	1	0	0
	保育士	0	0	0	0
	医師	120	117	▲ 3	0
	薬剤師	24	24	0	1
	管理栄養士	4	4	0	3
	臨床検査技師	27	27	0	4
	診療放射線技師	28	28	0	3
	理学療法士	9	9	0	0
	作業療法士	4	4	0	0
	言語聴覚士	2	2	0	0
	臨床工学技士	9	9	0	0
	臨床心理士	1	1	0	0
	看護師・助産師	470	465	▲ 5	59
	准看護師	1	1	0	1
	医療福祉技師	7	7	0	0
	診療情報管理士	3	3	0	0
	司書	0	0	0	1
	保健師	0	0	0	0
	医師事務補助職員	0	0	0	0
小計		744	736	▲ 8	108
現業職	病院施設管理員	0	0	0	0
	施設管理専門員	0	0	0	0
	看護助手	0	0	0	16
	看護補助	0	0	0	4
	小計		0	0	0
合計		744	736	▲ 8	128

\*現在員数には県等からの派遣職員を含む

### 3 各診療科・部門の概要

#### (1) 診療部（各診療科診療実績）

##### ➤ 呼吸器内科

主な疾患について記します。

##### ＜肺癌＞

肺癌薬物療法の進歩は目覚ましく、遺伝子変異陽性例に対する分子標的治療薬や、免疫チェックポイント阻害薬の登場で、進行がんであっても5年以上の生存が得られることは珍しくなくなってきました。当科では患者さんの人間性を尊重し、病名はもちろん、病状、治療法、予後についても患者さんご本人及びご家族に説明し、理解していただいたうえで、一緒に癌と向き合う姿勢をとっています。たとえ進行癌や高齢者であっても、本人の治療希望があり、化学療法に耐えうるとこちらが判断した場合には、延命を目指して積極的に化学療法を行っています。

また生活の質を重視し、外来化学療法を推進することで、入院日数の短縮や在宅期間の延長に努めています。局所麻酔下胸腔鏡や超音波気管支鏡導入により診断率もさらに向上してきています。また、院内緩和外来の開設により、痛みなどの症状にも、より対処できるようになりました。

##### ＜気管支喘息＞

急性期病院として大発作による呼吸不全に対しては、人工呼吸管理を含む集中治療を行っています。慢性安定期には吸入ステロイドを主体とした治療とピークフローメーターや喘息日記を用いた自己管理指導を行っています。呼気中一酸化窒素濃度測定による気道炎症の評価や、モストグラフによる気道抵抗評価を行うことでより客観的な管理が可能になりました。吸入薬を使ってもしばしば発作を起こすような難治性喘息には経口ステロイドからの離脱を目指して積極的に抗体製剤の注射を行っています。

##### ＜慢性閉塞性肺疾患 COPD＞

かつて肺気腫と呼ばれていた「タバコ病」です。効果を実感できるすぐれた薬が多く登場してきましたが、正常に服さない閉塞性肺機能障害がCOPDの特徴であるため、薬物療法だけでは十分とは言えません。進行性の息切れが特徴である本疾患に対しては、当科では、肺機能だけでなく運動能力や栄養状態を含めた総合評価を行い、外来通院または入院で呼吸リハビリテーションを行っています。重症例には在宅酸素療法や在宅人工呼吸管理を行っています。また、本疾患は肺炎併発リスクが高く、インフルエンザワクチンや肺炎球菌ワクチンによる感染予防を推奨しています。急性増悪による呼吸不全にはマスク型人工呼吸器を用い救命を目指しています。

##### ＜間質性肺疾患＞

間質性肺疾患のカテゴリーには特発性間質性肺炎、膠原病関連間質性肺炎、過敏性肺炎、肺胞蛋白症、塵肺症、サルコイドーシス、薬剤性肺障害など様々な疾患が含まれます。気管支肺胞洗浄のほか、同意が得られたケースにおいては外科的肺生検（肺部分切除）を行い、正確な診断のもとステロイドや免疫抑制剤などによる治療を導入しています。また進行性の肺線維症に対しては積極的に抗線維化薬による治療を行っています

## <肺炎>

当科では学会ガイドラインに基づいた正確な肺炎重症度評価を行ったうえで治療を行っています。その一方、非高齢者や基礎疾患のない患者さんに対しては、不要な入院は避けて経口抗菌薬による通院での治療を推奨しています。

また高齢化社会を反映して肺炎による死亡は非常に多くなっていますが、その中には老衰や他疾患による終末期の誤嚥性肺炎が多く含まれており、そのようなケースでは自然な最期を迎えることができるよう延命一辺倒にならない対応をするよう心がけています

## <その他、留意していただきたいこと>

1. 気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患などの慢性疾患については、その増悪時には管理・治療を行います。急性期を過ぎれば地域の開業医さんを紹介させていただいておりますので、ご理解をお願いいたします。
2. 当院には結核病棟がありませんので、排菌性結核の方は他病院を紹介させていただくことになります。
3. 睡眠時無呼吸症候群に関しては、検査機器の関係でスクリーニング検査しか行っていません。
4. 禁煙外来は開設していません。
5. 訪問診療はおこなっていません。

## ◆2023年入院疾患の概要

---

のべ 876 例入院

疾患名	事例数	備考
肺癌	302	
肺炎	172	
慢性閉塞性肺疾患 COPD	29	肺炎等と重複あり
自然気胸	66	特発性 28、続発性 38
間質性肺炎	62	
気管支喘息	30	

## ◆主疾患（悪性疾患）を含む治療成績（5年生存率など）

---

肺癌は治療成績がよくない癌の一つです。長年の喫煙で肺機能が損なわれている高齢者に多いことや、進行例での発見が多いことなどが、その理由です。

手術可能例は呼吸器外科にて手術を行っていますが、手術不能進行例や術後再発例は当科にて化学療法や放射線照射を行っており、平均を上まわる治療成績を出しています。

## ◆その他

---

日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、  
日本感染症学会認定施設、日本アレルギー学会認定施設



◆診療方針

消化器内科は消化器疾患全般について診療しております。

胃十二指腸潰瘍に対して、内視鏡的止血術、ピロリ菌感染の診断と除菌治療。また、消化管悪性腫瘍に対して、内視鏡検査を中心に、早期診断・内視鏡的治療・外科手術が必要な場合は外科との連携による的確な紹介を行っています。

また、B型あるいはC型肝炎ウイルスによる慢性肝炎、肝硬変に対するインターフェロンによるウイルス排除、肝臓に対する動脈塞栓術・リザーバ動注療法を行っています。またラジオ波焼灼療法や肝移植が適応となる患者様については三重大学病院等と密に連絡をとり適切に御紹介させていただいています。

今後は、消化器癌の症例増加を踏まえて、これまでの治療方針に加えて、さらに、大腸内視鏡検査数の増加・超音波内視鏡検査による癌診断の充実・進行癌に対する抗癌剤治療さらに、末期癌症例に対する緩和医療などにも取り組んでいきたいと考えています。

◆主疾患を含む治療性成績

2023年 消化器科入院診療実績

疾患名	事例数
肝臓	41
食道癌	5
胃癌	54
十二指腸・小腸癌	3
大腸癌	36
胆道癌	16
膵癌	38
胃ポリープ	5
大腸ポリープ	129
胃・食道静脈瘤	20
胃・十二指腸潰瘍	40
胃腸炎	85
消化管出血	44
腸閉塞	45
肝炎	20
肝硬変・肝不全	19
胆石症・胆道炎	194
膵炎	41
その他の消化器疾患	48
その他	211
総数	1,094

## ◆主疾患治療プロトコール

大腸ポリープ内視鏡治療クリニカルパス  
 早期胃癌、早期大腸癌内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)クリニカルパス  
 肝癌に対する肝動脈塞栓術、ラジオ波焼灼療法クリニカルパス  
 食道静脈瘤内視鏡的治療クリニカルパス  
 肝生検クリニカルパス  
 経皮的ドレナージクリニカルパス  
 超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診(EUS-FNA)クリニカルパス  
 内視鏡的胃瘻造設術クリニカルパス  
 などがあります。

## ◆その他

2023年 消化器検査および治療施行数 (下記は当院全体の施行数です)

疾患名	事例数
上部消化管内視鏡	1,616
上部拡大内視鏡	158
経鼻内視鏡	138
超音波内視鏡(上部消化管)	20
上部消化管内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	15
上部消化管内視鏡的ポリープ切除術	1
食道静脈瘤結紮術(EVL)/硬化療法(EIS)	25/ 17
上部消化管内視鏡的止血術	89
内視鏡的上部消化管ステント挿入術	3
内視鏡的胃瘻造設術(PEG)	29
経皮経食道胃管挿入術(PTEG)	2
下部消化管内視鏡	1,210
下部拡大内視鏡	33
下部消化管内視鏡的ポリープ切除術	510
下部消化管内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	9
内視鏡的下部消化管ステント挿入術	4
内視鏡的逆行性胆管膵管造影	151
内視鏡的胆道ドレナージ(ENBD/ERBD)	4/ 37
内視鏡的総胆管結石除去術(EST/EPBD)	66/ 31
内視鏡的胆管ステント挿入術	7
超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診(EUS-FNA)	22
カプセル内視鏡(小腸/大腸)	1/ 2
肝動脈塞栓療法 (TAE/TAI)	17/ 1
肝腫瘍ラジオ波焼灼術(CT/エコーガイド下)	0/ 2
B-RTO	2

当科は心臓血管疾患および高血圧、脂質異常症、糖尿病、肥満などの生活習慣病など広範囲にわたる診療を行っております。

心臓血管疾患では、虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）、心臓弁膜症、心筋症、不整脈、ペースメーカー植込み、先天性心疾患、肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症、大動脈疾患などを扱い、さらに救急診療としましては、心不全、急性心筋梗塞、不安定狭心症、不整脈、大動脈解離、肺血栓塞栓症などの循環器救急に 24 時間迅速に対応できる体制をとっています。また心臓血管外科医と密に連携をとり、常に最適な医療が提供できる体制を整えています。

虚血性心疾患の方には、外来で施行可能な 3 つの非侵襲的な画像診断を整えています。核医学検査（心筋シンチ）は年間 250-280 件程の検査数があり、県下でも最も多い検査数となっています。320 列マルチスライス CT による冠動脈 CT は 15 分程度で冠動脈の形態、狭窄度、石灰化の分布などが評価でき、冠動脈疾患の可能性の有無を非侵襲的に判別するのに非常に有用で、年々検査数が増加しています。さらに 2022 年からは冠動脈 CT からさらに進化した FFR-CT も新たに導入し、外来レベルで冠動脈狭窄と心筋虚血を非侵襲的に同時に評価できるようになりました。また心臓 MRI 検査も行っており、心機能・梗塞の範囲・虚血の有無、心筋症の鑑別など心臓に関する多くの情報が一度に得られる画像診断方法として活用されています。入院下で行う心臓カテーテル検査においては、なるべく患者さんの負担にならないよう極力手首の動脈を選択して検査を行っております。血行再建の選択においては、患者さんの背景、重症度、年齢、糖尿病の有無などに応じて、内科的保存療法（投薬観察）か、バルーン、ステントなどによる冠動脈形成術か、冠動脈バイパス術かを厳密に選択しております。冠動脈形成術においても、検査時と同様に大部分の症例で手首の動脈より治療を行っており、侵襲が少なく治療後も安楽にお過ごしいただけます。更に、複雑重症病変や高度石灰化病変に対しては、ロータブレーターやダイヤモンドバック、DCA といった特殊機器を用いたカテーテル治療にも習熟しており、良好な治療成績を収めています。

高齢化に伴い種々の心疾患を基礎とする心不全患者さんが激増しており、必要性および重症度に応じて入院の上で薬物療法の導入・調整をし、補助循環装置、ペースメーカーなどを駆使して病態に則した治療を行い、再入院を減らすよう努めております。

不整脈疾患に対しては、まずは薬物療法を試みますが、必要な方にはカテーテルアブレーションによる不整脈の根治療法も行っています。三重大学 循環器内科の協力を得ながら発作性・慢性心房細動、心房粗動、発作性上室性頻拍、心室頻拍などに対してアブレーション治療を行っております。徐脈性不整脈に対しては、ペースメーカー植え込みによる治療を行っております。最近では皮膚に手術痕を残さず短期間（2泊3日）の入院で済む経静脈植え込み型のリードレスペースメーカーの植え込み術も行っています。

肺血栓塞栓症・深部静脈血栓症に対しては、下肢静脈エコー、静脈造影、心エコー、マルチスライス CT、肺血流シンチ、肺動脈造影などを使用して、正確な診断と適正な治療（抗凝固療法、血栓溶解療法、回収可能型下大静脈フィルター留置術など）を行っております。

大動脈疾患に関しては、当院の血管外科と連携により、迅速かつ最も安全で確実な治療を提供しています。

以上、循環器疾患は症例数も多く、緊急性が高い疾患が多いため、当科では 24 時間、365 日体制で複数の医師が当直または待機をし、診療させていただいております。当院にかかりつけの患者さんのみならず、近隣遠隔を問わず、他医、他院よりの紹介患者さんに対しても

病診連携の意味から、幅広く対応させていただいております。

◆入院疾患の概要（令和5年1月1日～令和5年12月31日）

疾患名	事例数	疾患名	事例数
狭心症	236	閉塞性動脈硬化症	35
心不全	312	大動脈弁狭窄症	17
急性心筋梗塞	99	大動脈弁逆流症	5
慢性虚血性疾患	141	僧帽弁狭窄症	2
肥大型心筋症	2	僧帽弁逆流症	9
拡張型心筋症	1	肺塞栓症	15
心房細動	92	静脈血栓症	11

◆主要検査件数（令和5年1月1日～令和5年12月31日）

検査名	件数	備考
心臓超音波検査（経胸壁） （経食道）	4,673 54	
心臓MRI検査	67	
心臓CT検査	267	(FFR-CT 70件)
心筋シンチ検査	223	
トレッドミル検査	45	
CPX	55	
マスター心電図検査	119	
ホルター心電図検査	565	

◆主疾患を含む治療成績（令和5年1月1日～令和5年12月31日）

	件数	備考
経皮的冠動脈形成術数	243	初期成功率 99.5%
ロータブレーター	18	
ダイヤモンドバック	17	
DCA	1	
ショックウェーブバルーン	2	
末梢動脈血管内治療	25	(内、重症下肢虚血に対するもの 6例)
カテーテルアブレーション	25	
ペースメーカー植え込み術	45	新規 32例 (内 リードレスペースメーカー 3例) 電池交換 13例

## ◆主疾患プロトコール

---

冠動脈造影検査 経皮的冠動脈形成術 急性心筋梗塞 末梢動脈血管内治療

急性大動脈解離 ペースメーカー植込み・電池交換 カテーテルアブレーション

脳神経内科は「内科的な神経疾患」を中心に診療を行います。

脳卒中を始め、頭痛、めまい、手足のしびれなど日常的な症状から、筋肉・末梢神経の疾患やパーキンソン病・脊髄小脳変性症・多発性硬化症・痴呆症などの各種変性疾患や専門疾患などを担当します。

CTやMRIなどの画像検査を始め、神経の機能を調べる神経生理検査や高次脳機能検査などの専門検査での評価・治療を行います。

脳卒中に対しては、当院では脳卒中ユニットによるチーム医療を特徴とし、脳神経外科との合同診療を行っています。

#### ◆主疾患を含む治療方針と概要

---

##### ・脳卒中

脳神経外科との合同チーム医療(脳卒中ユニット)を形成。年間200から250人、主に虚血性脳血管障害中心に担当。

毎日24時間迅速なる対応が可能としています。急性期脳血管障害の判定を行い、可能例には血栓溶解療法を始め、最適な治療方法を選択し加療を行います。

##### ・超急性期加療

脳梗塞の超急性期加療として当院では脳卒中学会ガイドラインに基づきt-PAを用いた加療を行っており、脳外科とのチーム医療で必要例には、投与後血管内手術の併用療法を行っている。

##### ・ボツリヌス局所療法

眼瞼痙攣・顔面痙攣・痙性斜頸・上下肢痙性に対する局所注射療法

短時間で、外来で可能。併行して頭蓋内画像検査、神経生理検査で評価を施行。年間50人から70人ほど施行。

##### ・変性疾患

パーキンソン病脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化用症など多数が通院加療中。地域の医療機関と連携し在宅医療も充実させ、必要例にはレスパイト入院も受け入れている。

##### ・認知症

画像検査などを用いて診断を行い、地域医療機関と連携して治療を行っている。

#### ◆主疾患治療プロトコール

---

①脳梗塞：三重脳卒中医療連携研究会の急性期基幹病院として登録され、統一連携パスを使用

②眼瞼痙攣・顔面痙攣・痙性斜頸・上下肢痙性：ボツリヌス局所注射療法

③パーキンソン病その他、神経変性疾患の精査入院

④多発性硬化症の免疫調整薬導入入院

⑤CIDPなど免疫疾患のγグロブリン大量療法(IVIg療法) 短期入院

⑥他

・日本内科学会認定医2名・総合内科専門医1名・指導医1名

・日本神経学会専門医常勤2名・指導医1名

- ・日本神経学会准教育施設

#### ◆その他

---

逆紹介制度：基本的に外来・入院を問わずに、病状が安定した後にはかかりつけ医の医療機関へ逆紹介させていただきます。

## ➤ 消化器・一般外科

当科では消化器外科専門医、小児外科専門医、日本内視鏡外科学会・技術認定医が常勤しており小児から成人に対する手術が可能で、腹腔鏡下手術を積極的に施行しています(食道癌、胃癌、大腸癌、胆嚢結石、虫垂炎、腸閉塞、鼠径ヘルニア、腹壁ヘルニアなど)。

消化器癌診療は各臓器の癌診療ガイドラインに準拠しています。さらに早期消化管癌は消化器内科と内視鏡治療の適応を検討しています。2018年4月より手術支援ロボット(ダビンチ)を用いて、低侵襲手術の向上に努めております。

抗癌剤治療は外来化学療法室にて原則施行しており、術後補助化学療法のほか進行再発癌に対するQOL改善、延命を目指す治療を行っています。院内では月1回の化学療法安全運営会議が開かれ、治療レジメンの吟味・処方内容の院内統一を図っています。



疾患名	症例数
食道癌根治術	3
食道良性手術	0
胃十二指腸良性手術	10
胃十二指腸悪性手術	35
イレウスを除く小腸手術	20
イレウス手術	43
虫垂炎手術	61
大腸肛門悪性根治術	91
大腸良性手術	25
肛門良性手術	22
胆道良性手術	95
胆道悪性手術	1
肝切除術	6
膵良性手術	0
膵悪性腫瘍根治術	6
門脈、脾手術	1
外傷手術	6
ヘルニア手術	89
その他	47
計	561

このうち腹腔鏡下手術は 280 例

## ◆主疾患治療プロトコール

主疾患治療プロトコール（クリニカルパスによる術後入院期間）

胃癌	胃全摘術	術後 14 日間
	幽門側胃切除術	術後 12 日間
大腸癌	大腸癌手術	術後 10 日間

## ◆その他

当科が資格を有する当院の施設基準：

日本外科学会認定医制度修練施設、日本消化器外科学会専門医修練施設、日本消化器病学会認定施設、日本大腸肛門病学会専門医修練施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設

## ➤ 乳腺外科

診療ガイドラインに準拠した治療を施行しており、個々の乳がんの性質に合わせ、手術、術前・術後薬物療法（ホルモン療法，化学療法，分子標的薬），放射線療法を行っています。術前薬物療法を行った場合は，手術標本にて腫瘍残存の有無を確認し，術後薬物療法を考慮しています（レスポンスガイド治療）。術前診断にて腋窩リンパ節転移のない早期乳癌には縮小手術としてセンチネルリンパ節生検術を適応しています。

手術は，温存術については根治性と整容性を追求したオンコプラスチックサージャリー（Oncoplastic breastconserving surgery:OPBCS）を行っています。乳房再建については2020年夏に体制を整え，形成外科医師と連携しながら希望症例に実施できるようにいたしました。

薬物療法は，原則外来にて行い，副作用が出現した場合には入院加療も含めた対応を適宜行っています。

転移再発乳癌に対しての薬物療法、放射線療法等も原則外来で行っておりますが、病状に合わせて入院加療も行っています。治療に際して，ご本人・ご家族と十分に相談しながら，QOL を考慮し個人個人に合わせた適切な治療を関係部署と連携をとりチーム医療を行っています。

### ◆手術症例の概要 手術内訳 2023年1月1日～12月31日

疾患名	症例数
乳癌手術(乳房再建を含む)	74
良性腫瘍手術・その他	7
計	81

### ◆主疾患治療

#### ◆プロトコール

主疾患治療プロトコール（クリニカルパスによる術後入院期間）

乳癌手術	乳房部分切除かつセンチネルリンパ節生検術	術後 3-5 日間
	乳房切除(乳頭乳輪/皮膚温存乳房切除かつ組織拡張器留置)	
	かつセンチネルリンパ節生検術	術後 5-7 日間
	乳房切除又は部分切除かつリンパ節郭清を伴う手術	術後 7-10 日間

### ◆その他

資格を有する当院の施設基準：日本乳癌学会専門医制度認定施設

乳房再建用エキスパンダー実施施設

子どもは大人と比べて体が小さくて、臓器も脆弱で、身体的、精神的にも発達段階にあり、年齢によって対応は大きく異なります。子どもについての専門的な知識を持った外科医、それが小児外科医であり、将来をになう子ども達を、誇りと情熱をもって治療しています。小児外科医は、一般外科、成人消化器外科のトレーニングを受け外科専門医を取得し、その後小児外科の専門的なトレーニングを受けて、専門医資格を取得しています。

小児外科とは、いわゆる「小児一般外科」であり、当科では脳、心臓、大血管、整形外科の病気を除く、こどもの一般外科の病気の診療を行っております。つまり、小児の消化器外科疾患（食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、肛門、肝臓、胆道、膵臓）だけでなく、気管・肺疾患、腎臓・膀胱などの泌尿器疾患、卵巣疾患、陰部異常、臍の異常、鼠径ヘルニア・陰嚢水腫、辜丸異常（停留辜丸、移動性精巣、精巣捻転）などの外科疾患を中心に治療を行っています。また、便秘や、潰瘍性大腸炎やクローン病といった炎症性腸疾患などの小児消化器疾患も専門としています。

近年、国の施策として、お子さんが小児診療科から、移行期を経て成人医療診療科に移るトランジション医療が重要視されています。当科でも、患者さん個々人の状態やご家族と相談し取り組んでいます。もちろん、小児外科疾患の特殊性から、15歳を超えても、成人診療科にトランジションせずに、外科専門医としてそのまま小児外科でのフォローアップを継続している患者さんも多くみえます。

本院では、2018年11月1日より当院に小児外科が標榜され、2019年1月1日より日本小児外科学会教育関連施設にも認定され、北勢地域の医療機関の先生方や三重大学医学部附属病院と密に連携を保ちつつ、お子さんとご家族にベストの小児外科・小児消化器病医療を提供することを心がけております。

#### ◆主疾患と治療プロトコール

- ・鼠径ヘルニア、陰嚢水腫、停留精巣、臍ヘルニアなど 入院期間 1泊2日
- ・虫垂炎 入院期間 3-7日 単孔式腹腔鏡補助下虫垂切除術（おへその中の傷だけで行います）
- ・全身麻酔下消化管内視鏡検査（小児の胃カメラ、大腸カメラともに可能です）  
入院期間 1泊2日（検査後の治療が必要ない場合）
- ・直腸肛門内圧検査（重症便秘症、ヒルシュスプルング病の鑑別）  
入院期間 日帰り入院（乳幼児では鎮静が必要です）
- ・その他、副耳、耳前瘻孔、消化管異物、頸部腫瘤・膿瘍、リンパ管腫、胃食道逆流症、胃軸捻転、上部消化管出血、肥厚性幽門狭窄症、中腸軸捻転、腸重積、メッケル憩室、腸管重複症、小腸捻転、腸閉塞、クローン病、潰瘍性大腸炎、若年性ポリープ、便秘症、内・外痔核、裂肛、肛門周囲膿瘍、肛門ポリープ、臍肉芽腫、臍腸管遺残、尿管遺残、腹壁ヘルニア、包茎、水腎症、卵巣嚢腫、気管切開、胃瘻造設などの治療が可能です。

## ◆手術症例の概要

手術内訳 2023年1月1日～12月31日

入院全身麻酔下手術名	例数
腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術（腹腔鏡）	8
鼠径ヘルニア根治術（鼠径切開法）	28
陰嚢水腫手術	12
精巣固定術	10
臍ヘルニア・臍形成術	5
腹腔鏡下虫垂炎手術	8
肥厚性幽門狭窄症（Ramstedt）手術	2
気管切開・気管孔拡大術	1
腸回転異常症（腸捻転）手術	1
腹壁ヘルニア根治術	2
臍腸管遺残	2
直腸肛門脱手術	1
皮下腫瘍切除	2
耳前瘻孔手術	1
内視鏡的食道胃異物除去	3
上部消化管内視鏡検査	3
下部消化管内視鏡検査	1
顔面裂創縫合	1
頸部リンパ管腫ピシバニール局所注入	1
マムシ交渉感染除去	1
総数	93

## ◆その他

当院が資格を有する当院の施設基準：日本小児外科学会認定の教育関連施設\*

\*2019年より当院は日本小児外科学会より教育関連施設に認定されております。

日本小児外科学会認定の教育関連施設とは専門医育成のための専門研修施設群のひとつであり、小児外科専門医を目指す若手医師の修練の場として、患者様に安全で適切な医療を行うことができるよう心がけております。

### 1. 心臓血管外科の診療内容

当科は、1994年10月に三重県立総合医療センター開設時に発足し、心臓疾患・大動脈疾患を対象にした外科治療を行ってきました。主に成人の心臓疾患および大血管疾患を対象にしています。心疾患では狭心症に対する冠動脈バイパス手術・弁膜症に対する弁形成術や弁置換術・不整脈(心房細動)に対するメイズ手術、大動脈疾患に対しては、従来の人工血管置換術に加え血管内治療(ステントグラフト内挿術)も始める予定です。

心臓血管外科医療も、低侵襲医療、ロボット手術、ステントグラフトやカテーテル大動脈弁置換などがさまざまな新しい治療が発達してきています。

当科では安全第一に手術を行っています。患者さんが元気に退院できるように、常に安全を第一に考え、手術適応、手術時期、手術方法などを、スタッフ間で十分に話し合いを行い選択しています。

標準となる手術を確実に安全に患者さんに提供することが第一であると考えています。そのうえで新しい治療方法を含め、患者さんのために最も有益となる治療方法を提供いたします。

### 2. 冠動脈バイパス手術について

冠動脈に狭窄や閉塞が生じ、胸痛息切れを起こす狭心症や急性心筋梗塞に対して、冠動脈バイパス術を行っています。患者さんご自身の血管(内胸動脈、胃大網動脈、橈骨動脈、下肢の大伏在静脈)を使用して、新しく血液の通り道(バイパス)を作成する手術です。当科では狭心症や心筋梗塞に対し、人工心肺を用いない心拍動下に行うオフポンプバイパス術での低侵襲治療を導入しています。もちろん手術は安全第一なので、必要時は人工心肺を使用し冠動脈バイパス術を行います。

### 3. 心臓弁膜症の手術について

近年、高齢化社会に伴って大動脈弁狭窄症・僧帽弁閉鎖不全症が増加しています。

高齢者では、抗凝固療法を避けるのが望ましいと考え、ワーファリン・フリーの治療法を選択しています。

また、心房細動に対する、不整脈手術(メイズ手術)も積極的に行っています。

大動脈弁狭窄症に対しては、生体弁を用いた人工弁置換術、僧帽弁閉鎖不全症に対しては自己弁を温存した弁形成術を積極的に行っています。

### 4. 大動脈疾患の手術について

大動脈の正常径は一般的には胸部で3cm・腹部で2cmとされており、壁の全周が拡大(紡錘状)し直径が正常径の1.5倍(胸部で4.5cm・腹部で3cm)を超えた場合や、壁の一部が局所的に拡張(こぶ状に突出:囊状)した場合を瘤といいます。また、動脈瘤の壁の形態により、真性・仮性・解離性に分けられます。

真性大動脈瘤では、紡錘状の場合には胸部大動脈で6cm以上、腹部大動脈瘤で5cm以上になると破裂の危険が高くなり、破裂すると突然死につながることから治療の対象となります。なお、囊状の場合は破裂の危険が高いため大きさに関係なく手術の適応となります。一方、突然発症する急性大動脈解離は、心臓から出てすぐの大動脈(上行大動脈)に解離が及ぶ場合、約90%が発症1週間以内に破裂するとされており、緊急手術の対象となります。

今後導入予定ではありますが、現在ステントグラフト治療の適応のある方に関しましては血管内治療(ステント治療)を三重大学放射線科にご紹介し治療を行っています。

#### **5. 末梢動脈疾患の手術について**

下肢の血流障害についての手術を行っています。

動脈硬化等で下肢の血管が狭窄、閉塞し血流障害を起こす閉塞性動脈硬化症が最も多い疾患です。足が冷たい、歩くと足が痛い(休まないと歩けない)などの症状を認めます。

手術は自家静脈グラフトや人工血管によるバイパス術による血行再建術を行います。

#### **6. 脈疾患の手術について**

下肢の血流障害についての手術を行っています。

動脈硬化等で下肢の血管が狭窄、閉塞し血流障害を起こす閉塞性動脈硬化症が最も多い疾患です。足が冷たい、歩くと足が痛い(休まないと歩けない)などの症状を認めます。

手術は自家静脈グラフトや人工血管によるバイパス術による血行再建術を行います。

#### **7. 静脈疾患(下肢静脈瘤)の手術について**

静脈瘤とは、静脈の逆流を防止する弁が壊れてしまい、血液がうっ滞して下肢静脈が腫れてしまう病気です。足がだるい、むくむ、色素沈着、潰瘍形成などの症状を来す場合があります。

手術方法は、静脈抜去術が主流でありましたが、最近ではレーザー治療が導入され、より専門的な治療となりました。残念ながら当院ではレーザー治療等は行っておらず、外科的治療が必要と判断された場合には、より専門的な病院へ紹介させていただいております。

当科では標準的な手術を安全第一で迅速に手術を行っています。患者さんが元気で退院できるように手術適応、手術時期、手術方法などをスタッフ間で十分に話し合い選択しています。

入院死亡0を目標としています。

呼吸器外科は、肺癌、気胸、炎症性肺疾患、膿胸、悪性中皮腫、縦隔腫瘍、手掌多汗症、胸部外傷等、呼吸器外科全般にわたる手術を行っています。

### 1. 肺癌

日本における呼吸器外科手術件数は1990年には2万例、2013年では7万例というように一年に2,000例ずつ直線的に増えています。このうち約48%を占める肺癌は喫煙する方の高齢化とともに増えており、加えて、非喫煙者の腺癌も増加の一途をたどっており、肺癌の手術件数は今後も増加が見込まれます。最近では、肺癌手術を受けられる3万数千人の平均年齢は70歳近くとなり、約10%が80歳以上の方々です。

肺癌の治療方針を決定するに当たり、画像診断でその進行度（病期）を判定します。具体的には癌の大きさや周囲臓器への浸潤の有無、リンパ節転移の有無、他臓器への転移の有無等で、11段階の病期（IA1、IA2、IA3、IB、IIA、IIB、IIIA、IIIB、IIIC、IVA、IVB期）に分かれています。画像診断による病期（臨床病期と言います）IA～IIIAが手術適応となってきます。手術後に実際に切除した肺癌の大きさや、郭清したリンパ節に癌細胞がいるかどうかを調べ、術後の病期（病理病期と言います）を判定します。

2004年に切除された肺癌症例についての全国集計が2010年に行なわれましたが、参加施設数は呼吸器外科専門医修練認定施設605施設中253施設（41.8%）で、症例数は11,663例でした。病期関係なしの全体の5年生存率は69.6%で、そのうち男性の5年生存率は63.0%、女性では80.9%でした。尚、病理病期別の5年生存率は、IA期：86.8%、IB期：73.9%、IIA期：61.6%、IIB期：49.8%、IIIA期：40.9%、IIIB期：27.8%、IV期：27.9%でした。

肺癌の標準手術は癌のある肺葉（人間の肺は、右は3つの肺葉、左は2つの肺葉に分かれています）の切除と、癌の転移経路であるリンパ節を切除（郭清）することです。

一方で近年、CT等の画像診断装置の進歩により肺の末梢に存在する小さい肺癌が発見される頻度が増加してきました。これらの末梢小型肺癌に対しては肺の切除範囲を小さくしても（区域切除：癌病巣を肺葉がさらに細かく区画された区域単位で切除する）予後が変わらないという報告がみられるようになってきました。肺の切除範囲が少なければ少ないほど呼吸機能が温存されるため、当科でも2cm以下の末梢小型肺癌に対しては、患者さんの同意を得たうえで区域切除を積極的に行っております。

### 2. 気胸

気胸の手術は、日本では1年間に約13,000人に行われています。気胸は若い男性に多く見られる病気ですが、高齢化社会とともに高齢者の気胸も確実に増加しているのが現状です。高齢者の気胸は肺気腫、間質性肺炎などの合併症が多く難治性のものが多いのが特徴です。当科では早期の社会復帰ができるように努めております。

### 3. 炎症性肺疾患、膿胸

当科では近隣のかかりつけの医院、近隣の総合病院と連携し膿胸の手術を積極的に行っており良好な成績を各学会でも発表しております。膿胸の患者さんは体力が低下している方が多く患者さんのQOL（生活の質）が保てるような手術を行うよう努めています。

#### 4. 手術の傷について

手術のアプローチ方法には開胸手術と胸腔鏡手術があります。開胸手術の利点は直視下に質の高い手術が行えることにありますが、手術創（からだに残る傷痕）がやや大きくなるという欠点があります。また、開胸器にて肋骨と肋骨の間を開大するため痛みも大きくなります。胸腔鏡手術では手術創が小さく痛みが少ない利点がある反面、急に出血した場合の対処が不十分といった欠点を指摘されています。当科では癌の根治性と手術の安全性を確保するために、12cm 前後の皮膚切開創で行う開胸手術を標準術式としてきましたが、胸腔鏡手技の習熟に伴い 2009 年から創のサイズを縮小し、現在では 5～8cm 程度の切開創での胸腔鏡下手術を中心に行っております。

#### 5. ロボット支援下手術について

2018 年 4 月より、肺悪性腫瘍(肺癌、転移性肺腫瘍)に対する肺葉切除術、および縦隔腫瘍手術に対し、基準を満たした施設においてロボット支援下手術を保険診療で行うことが可能となりました。

これを受けて当院では、2019 年 5 月に手術支援ロボット(ダヴィンチ)を三重県下で三重大学病院に次ぐ 2 施設目として導入しました。

ロボット支援下手術では、術者が 3D 画像を見ながら手術操作できる点、胸腔内で自由度の高い関節のある鉗子を使用できる点、手ぶれが全く無い点などで優れており、術後疼痛の軽減などのメリットがあります。

当科では、胸腔鏡下手術の経験により培った技術を基に、より繊細な手術操作が可能、かつ低侵襲であるロボット支援下手術を 2019 年 11 月から開始し、今後も進めて参ります。

ロボット支援下手術の詳細な内容や従来の手術との違いなど、ご理解いただけるよう詳しくご説明いたします。是非、当科へご相談ください。

#### ◆ 入院手術症例の概要 (2023 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

疾患名	例数
肺癌（原発性）	64
膿胸	17
縦隔腫瘍・その他の縦隔疾患	5
気胸	32
上記以外の呼吸器外科手術	31

#### ◆ 主疾患の治療成績 (2023 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

- 1) 原発性肺癌手術：64 例
  - ・胸腔鏡下手術：61 例 (95.3%)
  - ・入院死亡：0 例 (0.0%)
- 2) 他の呼吸器外科疾患手術：85 例
  - ・入院死亡：0 例 (0.0%)



## ➤ 脳神経外科

頭部外傷、脳血管障害などの緊急疾患に対する迅速な診断、治療はもちろんのこと、脳腫瘍や脊椎変性疾患（椎間板ヘルニア、変形性脊椎症、後縦靭帯骨化症）などを中心に治療をおこなっていますが、2016年以降からは血管内治療も増えてきています。

当院は一次脳卒中センター（Primary Stroke Center）として認可され、急性期脳梗塞の患者を365日24時間受け入れています。最近では治療の迅速化を図るために急性期脳梗塞の緊急診断治療プロトコールを作成し、来院から治療開始までを1時間以内で施行できる院内体制を構築し、t-PA 静脈投与ならびに経皮的血栓回収術を積極的におこなっています。

また、専門外来である「脊椎・脊髄外来」には外傷を含めた脊椎・脊髄疾患を多数ご紹介いただいております、手術症例は年々増加しています。

### ◆入院疾患の概要 2023年1月1日～2023年12月31日

症例・手術	件数
手術総数	335
脳動脈瘤	29
脳腫瘍	15
脳血管内治療	65
脊椎脊髄	146

### ◆その他

地域医療に対しては、救急患者の積極的な受け入れのみならず、早期のリハビリテーション、早期の退院およびかかりつけ医師への紹介を心がけております。

高齢者の方に対しても、＜生活の質＞の向上を目指して、積極的な手術治療をすすめております。脳卒中患者における地域連携クリニカルパスの運用開始により、急性期を経過した患者様のすみやかな回復期リハビリテーション施設への移行などをはかっています。

## ➤ 小児科

当院のカバーする北勢地域は三重県の小児人口の半数が在住しており、量的にも質的にも充実した医療の提供が求められています。

当科は小児科専門医、神経専門医、新生児専門医、アレルギー専門医らでチーム医療を行い、地域の医療機関の皆様と連携しながら、また、院内各科の先生方の援助もいただきながら診療を行なっております。以下に当科の各部門の概略を示します。

### ◆ 周産期母子センター（3階東病棟）

---

周産期母子センター・未熟児新生児集中治療室（NICU 6床、GCU12床）

県内で初めてNICUの認可を受けた歴史があり、平成27年には増改築による増床も行われ、周産期新生児専門医が診療にあたっております。また、NCPR（新生児蘇生法）インストラクターにより、NCPR-Aコース、Bコース、Sコースを開催し、院内の周産期スタッフのみならず、地域の周産期医療施設のスタッフ教育に取り組み、北勢地域の新生児予後の向上に尽力しております。

### ◆ 一般小児科病棟（21床）

---

感染症、神経・代謝性疾患、川崎病などの急性・炎症性疾患の治療に加え、内分泌・代謝疾患・神経疾患などの入院精査も行っています。また近年要望の増えている食物アレルギー負荷試験も行っています。集中治療を要する疾患についても当院の救命救急センターの協力のもと、治療にあたっております。

### ◆ 外来診療

---

小児科専門医により小児疾患全般の診療にあたっており、小児神経専門医、アレルギー専門医の専門外来、周産期新生児専門医による発達外来も行っております。また、月に1回、三重大学より小児心臓専門医による専門外来も行っております。

### ◆ 救急外来

---

小児救急の特殊性、地域からのニーズを考慮して対応しております。特に、紹介いただいた患児は原則24時間お断りすることなく対応させていただいております。

### ◆ 2023年診療実績

---

一般小児科病棟入院患者数：703人

うち、食物アレルギー負荷試験42人、内分泌負荷試験22人

一般小児科外来患者数：11,901人

救急外来小児科患者数：1,559人

NICU+GCU入院患者数：250人

うち超低出生体重児：4人

極低出生体重児：7人

## 産婦人科

当科では、産婦人科疾患全般を診療対象としていますが、三重県がん診療連携拠点病院および地域周産期母子医療センターの指定を受けています。婦人科悪性腫瘍の治療、ハイリスク妊娠の治療、腹腔鏡手術を中心に診療を行っています。

### ◆入院疾患の概要 2023年1月1日～2023年12月31日

疾患名	事例数	備考
産科手術	180	帝王切開 132 例、頸管縫縮 2 例、流産ほか 40 例
ハイリスク分娩	61	全分娩数 306 例 母体搬送 59 例
婦人科手術	450	円錐切除 48 例 子宮鏡 48 例を含む
腹腔鏡手術	266	
全手術件数	896	

### ◆主疾患（悪性疾患）を含む治癒成績 2023年1月1日～2023年12月31日

疾患名	事例数	備考
子宮頸部悪性腫瘍	31	(CIN3 上皮内癌を含む) (円切含む)
子宮体部悪性腫瘍	3	
卵巣悪性腫瘍	4	
その他婦人科悪性腫瘍	1	(胃癌卵巣転移 )

### ◆手術実績 2023年1月1日～2023年12月31日

疾患名	事例数	疾患名	事例数
腹式単純子宮全摘術	20	腹式良性卵巣腫瘍手術	6
腹式子宮筋腫核出術	4	悪性卵巣腫瘍手術	5
腔式単純子宮全摘術	15	子宮外妊娠手術(腹腔鏡)	9
広汎子宮全摘術	0	円錐切除術	48
腹腔鏡手術	266	子宮鏡下手術	48

### ◆主疾患治療プロトコール (クリパスを含む。)

婦人科癌:化学療法 卵巣癌・子宮体癌を中心に、子宮頸癌再発に対し外来化学療法を積極的にを行っています。

:放射線治療 子宮頸癌を中心に行っています。

:腹腔鏡手術 2007年から婦人科疾患の腹腔鏡手術、またダビンチ手術も積極的に行っております。

子宮脱に対する腹腔鏡下とロボット補助下の仙骨脛固定術を行っています。

#### ◆その他

---

高齢化に伴う疾患として子宮脱、子宮下垂の症例が増加傾向にあり、保存的治療（外来）・手術（入院）を行っています。

2013年4月からNICU（新生児）棟が完工・オープンしました。それに伴い母体搬送も積極的に受けています。

隔日に定期検討会を開き、各患者さんごとに、原因、症状、経過、種々検査結果、そして治療法と予測される治療結果につきスタッフ全員で検討した上で、患者さんの希望を第一とし、可能な限りより侵襲が少なくかつ最も効果的な治療法を選択しています。

#### ◆治療の実際

外傷を中心に整形外科全般の治療を行っておりますが、特に関節外科・スポーツ外科に力を入れていきます。

2023年の手術数は約1,039例でそのうち、関節鏡視下手術は262例で、中心となる膝関節以外に足、肩、肘関節等にも対応しています。また人工関節置換術は162例となっております。

膝関節では若年者のスポーツ障害から末期変形性関節症に対する人工関節まで全ての年齢の方に対する手術加療を行っています。

関節鏡視下手術においては可能な限り半月板温存を心がけており、従来修復が困難であった症例に対しても技術的な工夫を用いて積極的に修復するケースが増えてきました。

通常半月板手術では3泊4日のクリティカルパスとなっております。

スポーツ整形において主な手術となる靭帯再建術は前十字靭帯再建を中心に、膝蓋骨脱臼に対する内側膝蓋大腿靭帯(MPFL)再建や複合靭帯再建にも対応しており2023年は40例でした。

軟骨損傷に対する治療では三重県で先駆けて3D-MRI(VINCENT)を導入し、軟骨欠損の状態が正確に把握できるようになってきました。

治療は、軟骨損傷部の面積や深さによりmicrofracture法・自家骨軟骨柱移植術(モザイク移植術)・再生医療である自家培養軟骨移植術を選択します。

自家培養軟骨移植術は2013年の保険適応とともに三重県で最初に手術を開始し、

現在42例を経験し症例数では全国第8位となっております、当科の特色ともなっています。

変形性関節症に対しては、下肢軸(アライメント)不良を伴う初期例から積極的に介入し

骨切り術ないしは骨切り術と半月板修復を行うことで将来的な人工関節置換を回避することを狙っています。脛骨近位骨切り術は2023年は23例となっております。

末期関節症に対しては人工関節置換術を行っており、全関節置換術(TKA)・人工単顆関節置換術(UKA)を症例に応じて使い分けており、TKAでは手術用ロボットの使用や患者適合型手術支援ガイド(PSI)を用いた正確な手術を、UKAでは手術用ロボットの使用を行っており、2023年は合わせて116例でした。

変形性股関節症に対しては、人工股関節全置換術(THA)を行っており

主にセメントレスタイプのインプラントを用いており、3Dテンプレティングやポータブルナビゲーション等も使用し、正確な手術に取り組んでいます。

2023年は46例と年々症例数が増加してまいりました。

なお、脊椎の手術は当院では脳外科担当となっており、手術加療は行っておりません。  
また、指再接着等、手外科の特殊例に関しては専門病院へ紹介させていただくことになりま  
す。  
ご了承ください。

#### ◆主疾患治療プロトコール

---

人工膝関節全置換術：術後3週間にて退院

人工単顆膝関節置換術：術後2週間にて退院

人工股関節置換術：術後3週間にて退院

高位脛骨骨切り術：術後3週間にて退院

半月板切除術：最短で3泊4日にて退院

前十字靭帯再建術：術後2週間にて退院

大腿骨頸部骨折・転子部骨折：術後2週間前後で地域連携クリニカルパスにて近隣病院へ転  
院

#### ◆その他

---

第三次救急病院及び基幹病院として、あらゆる分野の整形外科的疾患の治療を行ってお  
りますが、症状によってはより専門性の高い医療機関を紹介させていただいております。

当科では他院との病診連携に力を入れており、他院からの紹介も多く、紹介患者さん優先  
で診察を行っております。

また、症状の落ち着いた方に関しましては積極的に近隣の信頼できる整形外科の先生方  
にご紹介申し上げております。

## ➤ 皮膚科

現在、皮膚科専門医1名が常勤し診療を行っています。外来は、月曜・木曜午前は、大学よりの非常勤医師が、それ以外の時間帯は常勤医師が診察を担当しています。湿疹皮膚炎群、皮膚感染症、皮膚良性腫瘍、一部の皮膚悪性腫瘍、膠原病、自己免疫疾患（水疱症）など、皮膚科一般の診療を行っています。治療は外用療法や内服療法が中心ですが、化膿部の排膿処置、熱傷などの創傷処置、疣贅や腫瘍への冷凍凝固療法、小腫瘍の摘出術、感染性皮膚疾患の点滴療法なども行っています。あわせて局所処置方法の指導やスキンケア指導、生活環境指導を行うとともに、近年高齢化社会により増加している褥瘡の治療、予防ケアなどにも力を入れています。

### ◆入院疾患の概要 2023年1月1日～2023年12月31日

疾患名	事例数	備考
皮膚感染症	0	
熱傷	4	
水疱症	0	
湿疹皮膚炎	0	

入院患者4件/年

### ◆主疾患（悪性疾患）を含む治癒成績 2023年1月1日～2023年12月31日

外科的処置・治療領域では、診断及び治療方針決定のための皮膚生検、比較的簡単な局所麻酔下での皮膚腫瘍の切除術などを行っています。

年間手術・処置件数 213件/年（皮膚生検・外来小手術 125件、手術室手術 88件）

表皮嚢腫 73件、角化腫 12件、母斑 11件、線維腫 10件、皮膚癌（上皮内癌）9件など

### ◆主疾患治療プロトコール

皮膚疾患の入院治療

帯状疱疹 抗ウイルス剤点滴 5～7日間

蜂窩織炎 抗生剤点滴 7～14日間

水疱症 ステロイド内服, 局所処置 14～20日間

褥瘡パス入院 10～20日間

など

## 泌尿器科

当科では主として尿路性器悪性腫瘍(前立腺癌、膀胱癌、腎癌、精巣癌など)の診断・治療を中心に行っております。治療としては手術のみならず、放射線療法、抗癌剤や免疫チェックポイント阻害剤などを使用した化学療法なども積極的に行っております。その他、前立腺肥大症・尿失禁などの女性泌尿器疾患・神経泌尿器疾患も増加しており、適宜対応しています。なお、下部尿路結石(膀胱・尿道結石)は当院にても治療可能ですが、上部尿路結石(腎・尿管結石)の結石破砕術に関しては、四日市羽津医療センター泌尿器科と連携し、治療を行っています。

### ◆入院疾患の概要

疾患名	手術名	1995年-2022年の件数	2023年の件数
前立腺癌	ロボット支援下腹腔鏡下手術を含む根治的前立腺摘出術	242	59
膀胱癌	膀胱全摘術、尿路変向術	86	0
膀胱癌	経尿道的膀胱腫瘍切除術	1,378	82
腎癌	根治的腎摘出術/部分切除術	138	9
腎盂癌・尿管癌	腎尿管全摘術	106	7
精巣癌	高位精巣摘出術	74	0

2020年度よりロボット支援下根治的前立腺全摘術の施設基準の認可を得て、同年5月よりを開始しました。また、2022年よりロボット支援下腎部分切除術も開始しています。両者とも年々症例は増加しています。

また、前立腺肥大症や膀胱癌に対する経尿道的前立腺切除術や経尿道的膀胱腫瘍切除術などの内視鏡的治療法である経尿道的切除術(TUR: transurethral resection)では電解質溶液下で良好な切開性能が得られるTURis (TUR in saline)システム導入に加え、経尿道的前立腺レーザー蒸散術(ThuVAP)を開始しました。

### ◆手術支援ロボット(ダヴィンチ)を使用したロボット手術について

2019年5月より当院に手術支援ロボット(ダヴィンチ)が導入されました。手術支援ロボットは専用の器機を使用した腹腔鏡手術であり、ロボットアームを使用した手術器具操作は自由度に優れるため術者が意図する操作を行うことも容易であり、さらには立体的に最大10倍まで拡大した映像が得られることで周囲臓器損傷の回避や機能温存手術、癌の取り残しの軽減などが期待できます。ロボット手術は拡大視野や手術侵襲性(手術が体へ与える負担)が少ないなど腹腔鏡手術の良いところに開腹手術のような操作性の良さを併せ持った手術と言えます。2020年5月より泌尿器科でも前立腺癌に対するロボット手術を開始しました。海外で行われた前立腺癌根治手術の開腹手術とロボット手術の前向き比較では、手術時間はほぼ同等ですが(開腹手術234分、ロボット手術202分)、出血量(開腹手術1,338ml、ロボット手術443ml)と術後の疼痛、入院期間でロボット手術が優っていたと報



告があり、開腹手術と比較してロボット手術の侵襲性が少ないことに異論はありません (*Lancet* 2016; 388: 1057-66)。また 24 ヶ月まで経過観察を延長した報告では、開腹手術とロボット手術で尿禁制や性功能などに違いはありませんでしたが、生化学的再発（術後 PSA0.2ng/ml 以上が続く場合）は開腹手術 9%、ロボット手術 3%とロボット手術が優れていたと報告されています (p=0.019、ただしロボット手術で術後補助放射線治療が加わった症例が少し多いため解釈には注意が必要です。 *Lancet Oncol* 2018; 19: 1051-60)。現在アメリカでは前立腺癌に対する根治手術のほとんどがロボット手術で行われており、本邦でも 2012 年 4 月から前立腺癌根治手術のロボット手術が保険適応となって以来、ロボット手術の割合が非常に多くなっています。アメリカ人より痩せていて開腹手術でも行い易そうな日本人の患者さんでさえ、前立腺癌のロボット手術を選択する医師が増えているのは、より質の高い手術を患者さんに提供できるからに他なりません。現在当科では月 3~4 症例の前立腺癌に対するロボット手術を行っております。ここに当科での入院と手術の概略を説明します。手術前日に入院、麻酔科医師の術前回診などがあります。手術日は 9 時 30 分に手術室に入室、麻酔の導入後に手術のための体位（頭低位、頭を下に下げた仰向きの姿勢）をとります。創はロボットアーム 4 本と助手の 2 本を加えた 6 つの創（一つずつは 2cm 程度の大きさです）となり、うち臍上の創は前立腺を取り出すため 4~5cm ほどに切開します。手術時間は 237 分（うちロボット操作は 154 分、リンパ節郭清は閉鎖領域のみ）、出血は 260ml ほどで、輸血を要した症例はありません（数値はいずれも中央値）。麻酔を醒ました後に手術室を退室（手術室滞在時間はおおよそ 5 時間）、翌朝まで救命センターで管理をします。手術翌日（1 日目）に一般病棟へ戻り離床し（最初は介助付きでベッドから降りて歩きます）、水分摂取を再開します。消化管の動きが良ければ手術翌々日（2 日目）に食事摂取も再開します。6~7 日目に尿道留置カテーテルを抜去し、その翌々日で退院されるのが一般的な流れであり、入院期間は 10 日間ほどです。治療成績は切除断端の腫瘍露出（断端陽性）は 12%、術後 3 か月での尿失禁の程度は尿パット使用 1 枚/日以下が 85%でした。術者（神田）は前立腺癌のロボット手術について執刀医として 100 例以上、助手や指導医としての参加を含めると 200 例以上の経験があり、300 例を超える症例の術前術後経過を理解しています。また泌尿器科内視鏡手術認定医資格と泌尿器科内視鏡学会が認定するロボット手術のプロクター資格（ロボット手術が適正に行われているか評価できる資格）も有しています。前立腺癌ロボット手術などでご不明な点がございましたら、当院泌尿器科までご相談いただけますと幸いです。入院費用について DPC（包括医療費支払い制度）に基づいた前立腺癌ロボット手術に関わる入院費（食事、差額ベット代は除きます）は、おおよそ 15 万点（150 万円）になります。健康保険適応の治療であるため自己負担額はその 3 割になりますが、高額療養費制度を利用すれば自己負担額は収入に応じた上限まで抑えられます。この制度を利用するには保険組合への申請と手続きが必要ですので、詳しくは当院医療事務部までお問い合わせください。

さらに泌尿器科では 4cm 以下の小径腎癌に対するロボット手術（腎部分切除術）や膀胱

癌に対する膀胱全摘出術も行われます。術者は腎部分切除術のロボット手術は施設認定をクリアできる経験数を有していますが、現在のところ当院は腎部分切除術と膀胱全摘出術の保険診療施設認定を頂けておりませんので、これらのロボット手術を行う場合は三重大学泌尿器外科などへ紹介しています。腎癌症例の半数以上は 4cm 以下の小径腎癌であり腎部分切除術の適応ですので、当院でも腎部分切除術のロボット手術を行えるよう準備を整え、地域の皆様のお役に立てるよう努力して参ります。

#### ◆経尿道的前立腺レーザー蒸散術 (ThuVAP) について

前立腺肥大症に対しては電気メスで前立腺腺腫を切除する経尿道的前立腺切除術 (TURP) が国内で最も広く普及していますが、近年では多くのレーザー機器が登場し、レーザーによる前立腺肥大症の手術が広まりつつあります。当院では 2020 年 8 月に前立腺肥大症の新しい治療レーザー Thulium レーザー (Quanta Cyber TM) を導入しました。このツリウムレーザーによる前立腺蒸散術 (ThuVAP) は 2017 年のヨーロッパ泌尿器科ガイドラインでグレード A と認められている治療法で、日本泌尿器科ガイドライン (2017 年) でも B に認められています。当院では 2020 年 8 月の導入以降、8 月から 12 月にかけて 19 件の ThuVAP を行い、いずれも安全に施行しております。入院期間はおよそ 1 週間で、手術後は排尿状態のチェックのため、定期的に外来を受診していただきます。

2021 年には 35 例、2022 年には 47 例、2023 年には 22 例施行し、良好な成績を得ております。



#### ◆主疾患治療プロトコール (クリニカルパスを含む)

症例数の多い経直腸的前立腺針生検や経尿道的膀胱腫瘍切除術をはじめ、各入院検査・手術ではクリニカルパスを用いています。また、疾患別標準資料・説明書を作成し、患者さんの説明に用いています。一方、悪性疾患 (癌) に対する化学療法も積極的に行っております。腎細胞癌においてはニボルマブ、ニボルマブ+イピリムマブあるいはカボザンチニブ、ペムブロリズマブ+アキシチニブあるいはレンバチニブなども導入しています。一方、進行尿路上皮癌 (膀胱癌や尿管癌、腎盂癌) の全身化学療法としてはジェムシタビンやタキサン系抗癌剤を中心とした化学療法その他、ペムブロリズマブ、エンホルツマブ ベドチンなどを使用した治療を行っています。少量の抗癌剤を併用した化学放射線療法も行っています。また、内分泌療法抵抗性となった去勢抵抗性前立腺癌でもタキサン系抗癌剤を用いた化学療法を積極的に行っております。さらに、前立腺癌の多発骨転移に対して、塩化ラジウムの放射線内用療法も施行しています。

前立腺癌を診断する経直腸的前立腺生検は前立腺体積にもよりますが、初回生検であれば少なくとも12ヶ所以上の多数ヶ所生検を1泊2日の入院で行っています。また、通常では難しかった領域での検出率を上げるため、2016年度よりMRI同期エコーガイド下前立腺狙撃（ターゲット）生検も施行し、経直腸的前立腺系統的生検を組み合わせることにより経直腸的前立腺系統的生検単独よりも有効な検出率を得ています。2023年は39例に施行しています。

#### ◆その他

---

当科では患者さんとの十分な説明と話し合い・相談の上で、治療法の選択を行い、患者さんに満足頂ける最善の治療を行うことを目指しております。

2013年1月から、当センター眼科の外来診療を開始しました。月曜日から金曜日までの午前の一般診療、月、水、木、金曜日の午後の予約診療を行なっております。2014年1月からは最新のパターンスキャンレーザー装置を導入し、網膜血管閉塞性疾患、網膜裂孔、黄斑浮腫の治療に使用しております。

＜角結膜疾患＞

点眼治療のみでなく、塗抹鏡検・培養等の特殊検査にも対応します。

＜緑内障＞

光干渉断層計（OCT）と精密視野検査による綿密な病期判定を行なったうえで点眼薬・内薬・レーザーによる治療を行ないます。

＜糖尿病網膜症・網膜血管閉塞性疾患・網膜裂孔＞

レーザー治療を中心に対応します。

＜ブドウ膜炎・視神経炎＞

点眼、内服治療が主ですが、ブドウ膜炎の特殊型にはトリアムシノロンテノン嚢注射にて治療し、入院による薬剤点滴治療にも対応します。

2013年7月1日、日本眼科学会専門医制度研修施設の認定を受けました。

## ➤ 精神科

当科は統合失調症、躁うつ病、不安障害など精神障害全般に対する外来診療を行っております。

診察日は毎週月曜から金曜までですが、初診、再診共に予約制となっております。

なお当科には入院設備がありませんので、入院治療が必要な方などは他の精神科施設に紹介させていただく場合もあります。

### ◆診療実績（2023年1月1日～12月31日）

---

外来延患者数	2,577人
一日平均外来患者数	10.6人

## ➤ 放射線診断科

放射線診断科は、内科系診療科、外科系診療科、救急などすべての診療科から依頼を受けて、CT、MRI、血管造影、IVR (interventional Radiology)、核医学検査の施行と画像診断を行っています。そして、各診療科のカンファレンス等に参加し、密接な連携の元に診療を行っています。

また、四日市医師会等との病診・病病連携システムにより、地域医療機関からの検査および画像診断を行っています。

## ➤ 放射線治療科

### ◆診療体制

直線加速器（リニアック）を使用した放射線治療を行っています。近年のコンピュータ技術の進歩とともに、放射線治療も急速に高度なものになっており、放射線治療医、診療放射線技師、看護師が、それぞれ専門知識を持って診療にあたります。

当院には、放射線治療専門医、放射線治療品質管理士、医学物理士の資格を有するスタッフが在籍し、他科と協力しながら最善の治療ができるよう取り組んでおります。

当院で行っていない放射線治療（IMRT、定位照射、小線源治療など）が必要な場合は他院へ紹介しています。

### ◆診療方針

必要に応じて多門照射や回転原体照射を用い、患部へ放射線を集中させつつ周囲の正常臓器にできるだけ放射線が照射されないよう工夫をしています。また、治療目的に応じて、効果を落とさずにできるだけ治療期間を短くし、患者さんの負担を軽減するよう心がけています。

### ◆治療実績（2023年1月1日～2023年12月31日）

治療患者数総数 216例 （うち新規患者数 129例）

#### 疾患（部位）別症例数

疾患（部位）	症例数	疾患（部位）	症例数
脳	0	大腸・直腸	21
頭頸部	1	腎膀胱	37
肺	66	婦人科	16
乳腺	51	骨軟部	1
食道	10	不明	3
肝・胃	10		

### ◆保有する機器

-リニアック（直線加速器）：Varian medical systems 社製 CL-21EX

-治療計画用CT：東芝 Aquilion NATURE Edition

## ➤ 麻酔科

手術を受ける患者さんが、安全に手術を受けることが出来るよう麻酔を担当しています。  
手術中は患者様のそばで、手術部位以外の全身状態を管理しています。

### ◆診療実績 2023年1月1日～2023年12月31日

---

手術症例数

全手術症例数：3,292件

うち麻酔科管理症例数：2,347件

麻酔法	件数
全身麻酔	1,332
全身麻酔+硬膜外麻酔	747
硬膜外・脊髄くも膜下麻酔・硬脊麻	266
緊急手術	362

### ◆その他

---

全身麻酔、重症の方を中心に術中管理しています。

麻酔科担当外の手術でも、手術中に問題が起こった場合は麻酔科医が対応し、全ての方が安

全に手術を受けることが出来るよう努力しています。



## ➤ 耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科では常勤耳鼻咽喉科専門医 1 名が診療を行っています。外来診察については月曜日から金曜日まで診療を行っています。現在手術加療については、現在対応しておりません。頭頸部疾患については CT, MRI, 頸部エコーに加え、甲状腺等の FNA 検査等の精査を行い、加療可能な病院への紹介を行っています。

外来診察では、純音聴力検査、ティンパノグラム、耳小骨筋反射、その他、通常の耳鼻咽喉科クリニックでは施行しにくい、語音明瞭度検査、脳波聴力検査、を施行しています。末梢性眩暈については、赤外線 CCD カメラによる眼振検査、重心動揺検査、等可能です。その他、基準嗅覚検査、電気味覚検査、簡易型アプノモニター等の生理学的検査に対応しております。

また、2022 年 10 月より補聴器適合検査を開始しました。補聴器適合検査については補聴器の利用を検討されており、補聴器の試聴を希望の患者様はもとより、補聴器をお持ちでも補聴器の適合がうまくいかない場合等の患者様も対象となります。御希望の患者様は、かかりつけ医院にて紹介状をご持参いただきますようお願いいたします。近年では高齢者に対し会話能力をおとろえさせないために軽度の神経性難聴についても補聴器を装用する場合もあり、当院では補聴器の効果を測定し精査することが可能です。

アレルギー性鼻炎については鼻粘膜レーザー焼灼術、舌下免疫療法（スギ、ダニ）等、アレルギー疾患に対し加療を行っています。当科では現在副鼻腔手術等には対応しておりません。

嚥下障害については、外来通院の患者様には随時嚥下内視鏡検査を行っています。

耳鼻咽喉科クリニックおよび耳鼻咽喉科以外の内科等かかりつけ医療機関からの患者様のご紹介も対応しています。

### ◆診療実績 (2023 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

	事 例 数
甲状腺 FNA (針細胞診) の数	62
甲状腺以外の FNA (針細胞診)	8
重心動揺検査	117
電気味覚検査	7
簡易型アプノモニター	7
基準嗅覚検査	5
嚥下内視鏡検査	190
補聴器適合検査	25

## (2) 看護部

### ◆ 看護部の理念

気づき (feel) ・ 対話 (communication) ・ 協働 (collaboration) ・ 笑顔 (smile)

気づき：患者さんの思いを感じ、察して

対話：対話（聴く・伝える）を大切に

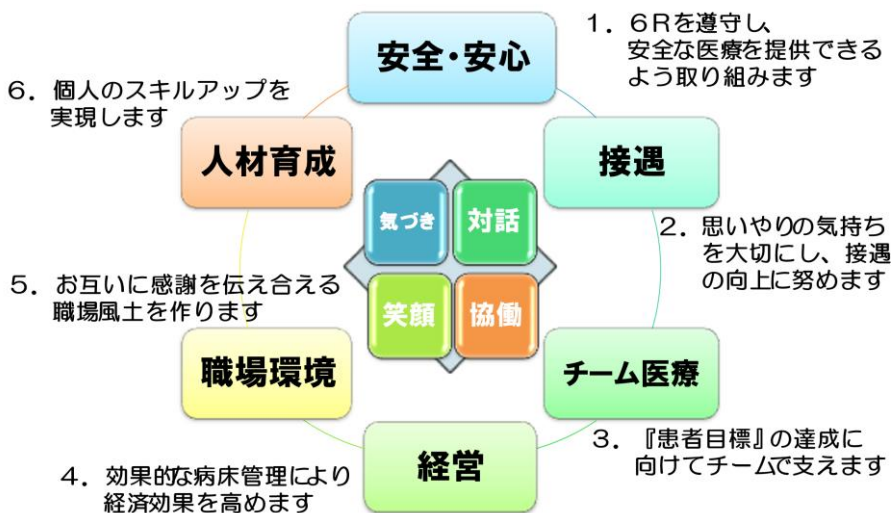
協働：他職種や地域の医療機関等の方と協働し安心・安全なチーム医療を実現することで

笑顔：笑顔あふれる職場を作り、患者さん・地域の皆様も自然に笑顔になれるような看護を目指します。

### ◆ 2023 年度看護部目標

#### 2023年度 看護部目標

県立総合医療センターの職員として役割を果たし  
質の向上に努めます



### ◆ 看護職員配置

【正規職員】看護師 466 名（内 男性看護師 25 名 助産師 24 名 准看護師 1 名）

【非正規職員】看護師 60 名（内 助産師 3 名 准看護師 1 名）  
看護補助者 20 名

### ◆ 2023 年度看護部実践報告

#### 1. 看護職員の確保

##### 1) 就職説明会

(1) 院内就職説明会の開催は、コロナ感染拡大中のため中止し、Web 就職説明会に切り替え、3 月～4 月に開催した。

(2) 外部の説明会への参加

- ・マイナビ看護学生就職セミナー（令和 6 年 3 月）
- ・県立看護大学就職説明会（7 月）

##### 2) 看護大学・学校訪問

- ・実習校4校へ訪問

### 3) 広報活動

- ・Web 交流会、Web 就職説明会、採用試験のポスター作成
- ・看護学生へインターンシップの案内
- ・ホームページの更新

### 4) インターンシップ開催

コロナ感染の拡大で中止となっていたインターンシップを再開した。  
学校からの要望もあり大学2年生を対象とした企画も追加で実施した。

### 5) 実習環境の充実

#### (1) 実習指導者の育成

- ・三重県看護協会実習指導者講習会に3名が参加、修了した。
- ・院内の実習指導者研修では、段階別研修を実施し、育成に努めている。

#### (2) 実習施設としての体制づくり

- ・実習環境の整備、院内における実習指導者の育成を検討するための委員会を設置し、開催している。
- ・コロナ5類移行後についても感染防止に配慮しながら、臨地実習を経験してもらえるよう、教育機関とも相談しながら最大限の受け入れを行った。

## 2. 職場環境の改善と活性化

### 1) WLB の取り組みについて

- ・新人研修での制度説明会を実施した。
- ・各部署の師長における管理マニュアルに沿った勤務表の作成を行っている。
- ・勤務表作成時には、チェック表による看護部の確認を実施している。

### 2) 子供参観日（職員のお子さんの、親の職場見学）

\*イベントは、コロナ感染拡大防止のため中止した

### 3) 看護の日

- ・入院患者、内視鏡検査や化学療法の外来患者にカードの配布のみ実施した。
- \*イベントは、コロナ感染拡大防止のため中止した

### 4) 業務改善活動

TQM 活動

- ・院内 TQM への取り組み 看護部 12 題。
- ・活動報告会を行い、各セクション、委員会、認定看護師の活動内容を共有した。

## 3. 人材育成

### 1) キャリアラダーによる教育

#### (1) キャリアラダー

JNA ラダーとの統合を図り、改訂版のラダーを令和2年度より運用を開始している。  
実践能力項目を、実践、管理、教育、研究、対人関係とし、ステップのステップ別教育として、段階的に研修を企画・開催した。

#### (2) 手術室ラダー

平成30年度より手術室のラダーを作成し、運用を開始した。手術室は特殊性が強く、看護部の作成したラダーでは表現しきれないものも多い。そのため、日本手術学会のラダーをもとに、当院の手術室のラダーを作成し運用している。

### (3)助産師ラダー

助産師については、日本看護協会の助産師のクリニカルラダーに沿ったラダーを作成し運用している。

(4)マネジメントラダーは、日本看護協会版との統合を図り、改訂版のラダーを令和2年度より導入している。

## 2)新人看護師育成研修

新人看護職員研修要綱・企画を見直し研修を実施した。昨年同様に臨地実習経験が少ないことを考慮した研修体制とした。フォローアップ研修では演習を多く取り入れ、多重課題シミュレーションやローテーション研修を行い、実践的な研修を行った。

### 【 新人看護職員技術等の支援室 ひよっこクラブ実施技術内容 】

研修実施日	実施技術内容
4月6日	バイタルサイン、その他
4月12日	電子カルテ操作、その他
4月13日	採血、導尿、その他
4月17日	輸液、電子カルテ操作
4月21日	電子カルテ操作、その他
4月25日	採血、点滴
4月28日	採血、点滴、輸液ポンプ、シリンジポンプ
5月2日	採血、輸液ポンプ、シリンジポンプ、アンプル
5月8日	採血、輸液ポンプ
5月10日	採血、電子カルテ操作
5月18日	点滴固定
5月25日	膀胱留置カテーテル、搾乳指導

### 3) その他 院内研修

業務に必要な研修・指導者育成研修・専門コース研修を実施。前年度から3年計画として、全員対象研修(災害・スキンケア・感染管理)が開始となった。

### 4) BSCシートを活用した目標管理

- ・進捗管理を行いながら、看護部長と看護師長・副師長の部署面談や、看護師長・副師長と看護師の個人面談を年3回実施している。
- ・年度末には、師長によるBSCの取組結果の報告会を実施している。

### 5) 院外研修受講

- ・三重県看護協会のファーストレベル研修を3名が受講し、修了した。
- ・院内研修のみならず、三重県看護協会や日本看護協会、自治体病院協議会等の研修も活用している。現在オンライン研修が増加しているため、当院に必要な内容であると判断した研修の受講を推奨している。

## 4. 地域への貢献

研 修 名	参加人数
地域（海山道）研修会：温度湿度を管理して冬を元気に乗り切ろう	13

## 5. 実習等の受け入れ

### 1) 看護学生実習受け入れ状況

三重県立看護大学・四日市看護医療大学・鈴鹿医療科学大学・三重県立桑名高校衛生看護専攻科・四日市医師会看護専門学校・聖十字看護専門学校・弥富看護専門学校より実習生を受け入れた。

### 2) 高校生一日看護師体験受け入れ

\*イベントは、コロナ感染拡大防止のため中止となった。

### 3) 中学生の職場体験受け入れ

常磐中学校、西笹川中学校、楠中学校の受け入れを行った。

### 4) 養護教諭学科の学生受け入れ

名古屋学芸大学の学生を受け入れ、外来、病棟、救急外来などでの見学や実習等を実施した。

## 6. 講師派遣

- ・県内の看護職員の育成のために、三重県立看護大学・四日市看護医療大学・桑名高校衛生看護課・医師会看護専門学校等看護師養成校や三重県看護協会への講師派遣を行った。
- ・講師派遣要請を受けた近隣の病院・施設など数カ所に対し、講師を派遣した。

### (3) 中央放射線部

#### 【令和5年総件数】

令和5年(1~12)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均/月	集計
一般撮影(含ポータブル)	3,743	3,656	4,078	3,701	3,851	3,771	3,839	3,929	3,543	3,792	3,777	3,952	3,802.67	45,632
骨密度(DXA)				37	49	57	50	56	36	75	53	47	51.11	460
外科用イメージ(Cアーム)				28	30	36	38	40	30	36	36	38	34.67	312
透視	142	115	147	123	132	117	123	135	100	113	115	130	124.33	1,492
血管造影 心臓	42	45	46	52	59	64	55	60	41	63	62	54	53.58	643
頭腹部	11	15	20	11	10	20	23	13	22	13	15	14	15.58	187
放射線治療 新規	18	10	13	12	30	19	17	18	14	27	15	18	17.58	211
照射数	218	249	227	205	271	466	230	307	220	320	232	214	263.25	3,159
(LG)	18	14	14	15	34	26	17	22	20	29	16	21	20.50	246
C T 単純	1,687	1,523	1,799	1,613	1,756	1,738	1,827	1,785	1,751	1,901	1,737	1,857	1,747.83	20,974
造影	226	200	252	244	221	224	243	215	238	216	251	221	229.25	2,751
C T (治療)	16	13	12	14	26	20	12	18	15	19	16	14	16.25	195
(病診連携)	73	60	62	64	84	87	81	71	79	97	75	80	76.08	913
R I	102	89	107	97	104	112	96	103	79	102	94	86	97.58	1,171
(病診連携)	2	1	1	4	3	4	0	1	2	2	4	1	2.27	25
MR I (1.5T) 単純	195	118	257	190	211	219	194	222	192	213	203	91	192.08	2,305
造影	67	43	85	54	55	51	50	50	43	56	51	21	52.17	626
MR I (3.0T) 単純	246	284	290	258	261	284	261	259	244	255	271	302	267.92	3,215
造影	45	46	54	82	75	89	78	75	85	81	63	98	72.58	871
(病診連携)	61	63	75	69	69	72	66	76	70	68	71	59	68.25	819
超音波 心臓	466	439	488	402	416	472	439	457	389	446	431	409	437.83	5,254
腹部	275	316	390	333	316	351	316	318	316	327	330	268	321.33	3,856
血管等	296	303	313	294	304	301	306	303	263	329	334	275	301.75	3,621
(病診連携)	13	13	13	9	12	17	9	11	13	13	8	8	11.58	139
コピー(CD, DVD, Film)	572	486	607	457	535	574	578	523	491	591	506	581	541.75	6,501
取込み	291	314	352	351	311	294	318	334	304	309	313	316	317.25	3,807
合計	8,640	8,254	9,524	8,546	8,993	9,260	9,076	9,202	8,402	9,257	8,890	8,988		106,717

	1~3	4~6	7~9	10~12	総計
病診連携/C T	4.15	5.09	4.56	4.87	4.67
病診連携/R I	1.34	3.51	1.08	2.48	2.10
病診連携/MR I	11.50	11.48	12.09	11.61	11.67
病診連携/U S	1.19	1.19	1.06	0.92	1.09

#### (4) 中央検査部

##### ◆中央検査部概要

部門	中央検査部
部門長	白木克哉(検査部長)・和田英夫(検査副部長)・坂下文康(検査技師長)
認定資格	細胞検査士、認定病理検査技師、認定臨床微生物検査技師、感染制御認定臨床微生物検査技師(ICMT)、二級臨床検査士(微生物学)、輸血認定技師、日本臨床神経生理学会専門技術師(脳波分野)、日本臨床神経生理学会専門技術師(筋電図・神経伝導分野)、日本臨床神経生理学会術中脳脊髄モニタリング認定技術師、心血管インターベンション認定技師、超音波検査士(循環器)、認定救急検査技師、臨床工学技士、遺伝子分析科学認定士、NST 専門療法士、認定認知症領域検査技師、医療機器情報コミュニケーター
常勤技師	27名 (育児休暇中1名)
業務補助職員	5名

##### ◆外部精度管理参加状況

毎月	eQAP	シスメックス株式会社
2月	東ソーTRC 抗酸菌コントロールサーベイ	東ソー
6月	日本臨床衛生検査技師会精度管理調査	日本臨床衛生検査技師会
8月	三重県臨床検査精度管理調査	三重県臨床検査精度管理協議会
9月	臨床検査精度管理調査 EQCS TM MIC、EQCS TM IC	日本医師会 栄研化学
12月	シグマ・アズ分子疫学解析 POT キット ユーザーズサーベイ	関東化学

##### ◆施設認定

- ・日本臨床衛生検査技師会品質保証施設認証
- ・三重県輸血療法委員会 I&A 認定
- ・日本臨床細胞学会施設認定

##### ◆診療支援

支援	内容
感染症レポート	週報、月報、年報
病棟採血管準備	毎日(各病棟に配送)
病棟診察前検査報告	1時間早出勤務
外来迅速検査報告	24時間勤務体制
チーム医療への参画	NST、ICT、AST、DST 心臓カテーテル業務、術中モニタリング等
各種認定技師の育成	必要に応じて対応

##### ◆病診連携検査件数

トレッドミル	2
ホルター心電図	2
脳波	26
ABI	6
神経生理検査	83
計	119

##### ◆検査件数

2023年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
検体検査	114,755	107,812	122,094	110,231	107,570	112,365	115,868	117,372	108,096	113,419	111,954	113,639	1,355,175
微生物検査	1,876	1,797	1,759	1,584	1,969	1,861	1,995	1,722	1,548	1,887	1,633	1,941	21,572
生理検査	2,199	2,200	2,518	2,238	2,218	2,397	2,432	2,491	2,136	2,309	2,347	2,277	27,762
病理検査	856	868	1,067	928	916	943	923	916	913	945	939	993	11,207
	119,686	112,677	127,438	114,981	112,673	117,566	121,218	122,501	112,693	118,560	116,873	118,850	1,415,716

## (5) 薬剤部

### ◆ 投薬等に関わる収入

単位：千円

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
投薬収入	15,202	13,698	19,410	19,317	10,259	20,197	21,743	15,503	21,710	20,969	16,876	19,994
調剤料収入	146	110	102	88	92	104	126	131	126	125	134	140
調剤技術基本料収入	97	63	60	59	66	68	88	87	79	69	69	74

### ◆ 薬剤管理指導等の件数

単位：件

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
薬剤管理指導料算定件数	501	453	684	560	523	604	555	535	421	499	519	452
薬剤情報提供料算定件数	674	458	546	469	485	541	631	633	567	596	604	557

### ◆ 診療科別外来処方箋発行件数

院外処方箋

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
内科	172	140	153	100	135	132	144	140	142	148	155	173	1,734
外科	310	314	386	318	331	334	309	333	312	314	338	358	3,957
心外	54	55	68	64	52	54	47	56	53	55	60	64	682
脳外	157	155	203	172	148	189	160	162	213	189	161	181	2,090
小児	397	480	559	444	513	526	535	530	417	467	490	517	5,875
産婦	279	279	331	288	283	287	285	330	277	271	273	273	3,456
整形	101	116	144	139	144	164	154	129	120	130	148	152	1,641
皮膚	468	440	489	524	458	546	471	481	497	526	504	481	5,885
泌尿	294	246	289	283	301	280	325	298	277	332	301	296	3,522
眼科	94	73	110	106	94	111	100	100	92	100	89	108	1,177
耳鼻	154	166	214	196	171	161	139	143	149	182	155	146	1,976
精神	154	161	175	170	160	172	168	183	164	169	176	162	2,014
放射	8	10	5	11	8	19	11	15	13	13	24	14	151
神経	204	197	255	271	236	257	244	288	227	265	240	275	2,959
循環	742	703	843	766	619	778	703	731	665	741	722	757	8,770
呼吸	740	780	818	786	740	771	725	797	706	712	751	787	9,113
消化	602	595	650	615	673	620	583	665	602	651	626	639	7,521
呼外	4	1	4	4	5		1	4	4	1	2	2	32
乳外	166	133	167	173	151	154	161	153	156	196	166	169	1,945
救外	11	13	23	12	15	20	24	18	19	18	18	28	219
小外	49	45	39	36	33	31	31	42	30	25	32	32	425
形外	5	3	6	5	9	9	7	4	5	8	14	5	80
合計	5,165	5,105	5,931	5,483	5,279	5,615	5,327	5,602	5,140	5,513	5,445	5,619	65,224

全件処方箋

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
内科	350	237	258	191	255	249	313	351	280	256	291	317	3,348
外科	409	364	458	386	417	408	397	418	387	391	406	413	4,854
心外	55	56	71	64	54	54	48	56	54	57	60	64	693
脳外	161	158	204	173	149	194	168	166	215	191	164	182	2,125
小児	491	541	635	505	579	628	651	620	504	544	577	584	6,859
産婦	306	298	349	304	301	305	297	342	293	285	291	289	3,660
整形	106	122	149	143	146	166	155	132	123	133	153	155	1,683
皮膚	485	455	507	536	466	560	487	501	514	543	521	492	6,067
泌尿	298	250	296	286	305	282	330	301	281	336	302	304	3,571
眼科	98	74	112	108	98	114	104	105	96	102	92	113	1,216
耳鼻	154	167	217	198	173	168	144	145	152	183	156	151	2,008
精神	201	203	228	203	210	221	213	234	213	212	221	205	2,564
放射	8	10	5	11	8	20	11	15	13	13	24	14	152
神経	212	199	258	274	238	259	251	292	230	270	245	282	3,010
循環	756	721	855	784	630	789	720	747	689	751	736	773	8,951
呼吸	772	801	845	808	760	796	752	828	735	741	779	817	9,434
消化	632	614	676	646	685	644	611	687	624	677	649	664	7,809
呼外	4	3	10	9	9	2	2	8	6	5	6	4	68
乳外	168	134	168	175	155	155	163	155	157	197	167	170	1,964
救外	34	23	33	20	22	33	36	34	27	25	26	40	353
小外	50	45	40	37	34	31	31	42	31	25	33	33	432
形外	5	3	6	5	9	9	9	5	6	9	14		80
合計	5,755	5,478	6,380	5,866	5,703	6,087	5,893	6,184	5,630	5,946	5,913	6,066	70,901

### ◆ 院外処方率

単位：％(休日・夜間を除く)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
院外処方率	89.7%	93.2%	93.0%	93.5%	92.6%	92.2%	90.4%	90.6%	91.3%	92.7%	92.1%	92.5%



(6) 栄養管理室

◆2023年 年間栄養指導件数

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
入院・外来合計		96	88	99	99	93	113	102	97	98	110	99	111	1,205
個別指導	人数 (名)	96	88	99	99	93	113	99	95	92	103	94	108	1,179
	入院 (名)	33	36	43	55	40	49	42	32	41	40	42	53	506
	外来 (名)	63	52	56	44	53	64	57	63	51	63	52	55	673
集団指導	母親教室 (名)	0	0	0	0	0	0	3	2	6	7	5	3	26

◆2023年 栄養指導件数(個別指導)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
腎臓病	0	0	2	2	5	7	1	3	2	8	4	3	37
高血圧症	10	6	3	3	6	3	6	5	8	2	12	5	69
心臓病	31	28	25	21	25	24	29	27	19	22	21	27	299
肝臓病	0	3	5	3	3	3	4	3	2	2	1	4	33
糖尿病	30	26	33	31	28	40	30	26	32	32	26	28	362
潰瘍	0	0	1	2	1	0	1	0	0	0	1	0	6
膵臓病	0	0	1	0	0	0	0	1	1	1	2	1	7
脂質異常症	6	2	4	4	2	4	2	4	4	8	2	7	49
肥満症	3	2	3	7	3	4	1	2	0	3	4	4	36
妊娠中毒症	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
炎症性腸疾患	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3
貧血症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
癌	6	12	14	17	14	16	13	13	12	13	14	15	159
嚥下	1	2	2	5	2	3	3	2	3	2	1	3	29
低栄養	2	2	3	1	0	1	3	2	5	4	2	3	28
アレルギー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
COPD	4	1	1	1	2	2	2	1	1	1	1	1	18
その他	3	4	1	1	1	5	4	6	3	5	3	7	43
合計	96	88	99	99	93	113	99	95	92	103	94	108	1,179

◆2023年 給食食数実績

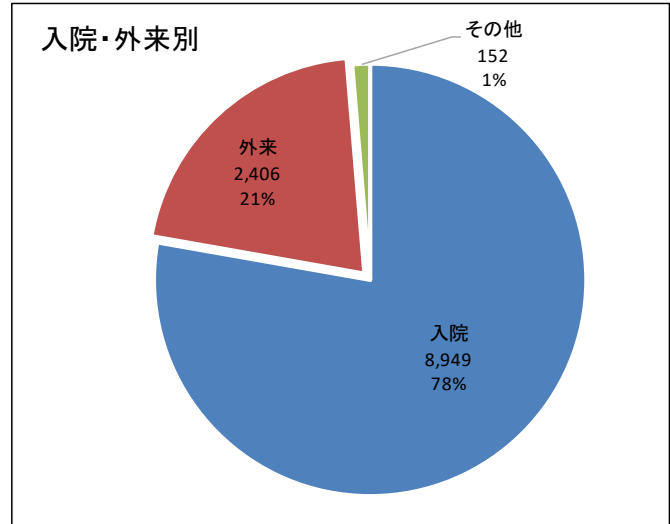
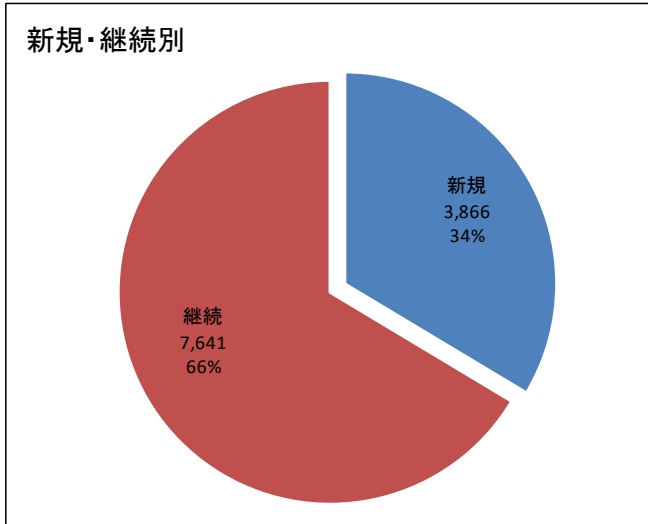
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
一般食	7,392	6,603	7,024	6,756	6,926	7,513	7,525	8,110	7,675	7,845	6,587	6,968
常食	5,792	5,452	5,808	5,565	5,419	6,234	6,239	6,577	6,278	6,378	5,323	5,996
軟食	1,549	1,105	1,150	1,120	1,423	1,228	1,238	1,474	1,358	1,427	1,181	921
流動食	51	46	66	71	84	51	48	59	39	40	83	51
特別治療食	13,660	11,328	12,302	11,380	11,946	10,849	12,243	12,074	11,258	13,196	12,908	13,900
加算食	8,274	7,181	7,409	7,423	7,416	6,911	7,891	7,257	6,426	7,736	8,158	9,113
非加算食	5,386	4,147	4,893	3,957	4,530	3,938	4,352	4,817	4,832	5,460	4,750	4,787

腎臓食	189	201	78	127	124	249	320	103	67	226	30	219
糖腎食	3	0	22	11	59	61	59	19	84	9	54	154
透析食	93	136	25	41	72	88	211	227	84	101	102	39
腎臓高血圧・糖尿病食	8	16	10	0	0	0	11	46	5	0	1	28
減塩食	4,064	2,952	3,392	2,939	2,995	2,712	2,714	2,803	2,576	2,865	3,155	3,996
肝臓食	160	79	47	100	192	194	217	137	206	167	121	281
EC食	1,639	1,443	1,859	1,939	1,704	1,912	2,543	1,946	1,517	1,957	2,234	2,414
脂質異常症食	126	192	159	83	75	18	18	92	67	92	28	8
貧血食	0	0	25	0	11	0	0	12	0	85	79	27
脂肪制限食	192	565	304	446	468	273	317	403	468	509	358	485
潰瘍食	59	30	25	132	41	72	83	14	78	41	84	119
炎症性腸疾患	2	0	2	11	0	39	23	0	42	0	44	67
濃厚流動食	1,178	874	1,067	1,045	1,149	1,044	1,332	1,373	1,157	1,576	1,424	1,699
術後食	254	519	544	654	439	685	672	652	565	585	830	401
易消化食	962	876	1,545	844	1,315	1,181	996	977	968	944	1,131	1,158
低残渣食	260	153	244	175	231	128	168	131	294	275	288	307
離乳食	25	38	54	60	75	111	66	36	31	39	15	40
嚥下訓練食	3,399	2,204	1,904	1,780	1,946	1,353	1,632	2,015	2,088	2,525	1,986	1,683
検査食	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	929	943	878	879	932	615	743	970	961	1,200	944	775
ミルク	118	107	118	114	118	114	118	118	0	0	0	0
合計	13,660	11,328	12,302	11,380	11,946	10,849	12,243	12,074	11,258	13,196	12,908	13,900

## (7)地域連携課

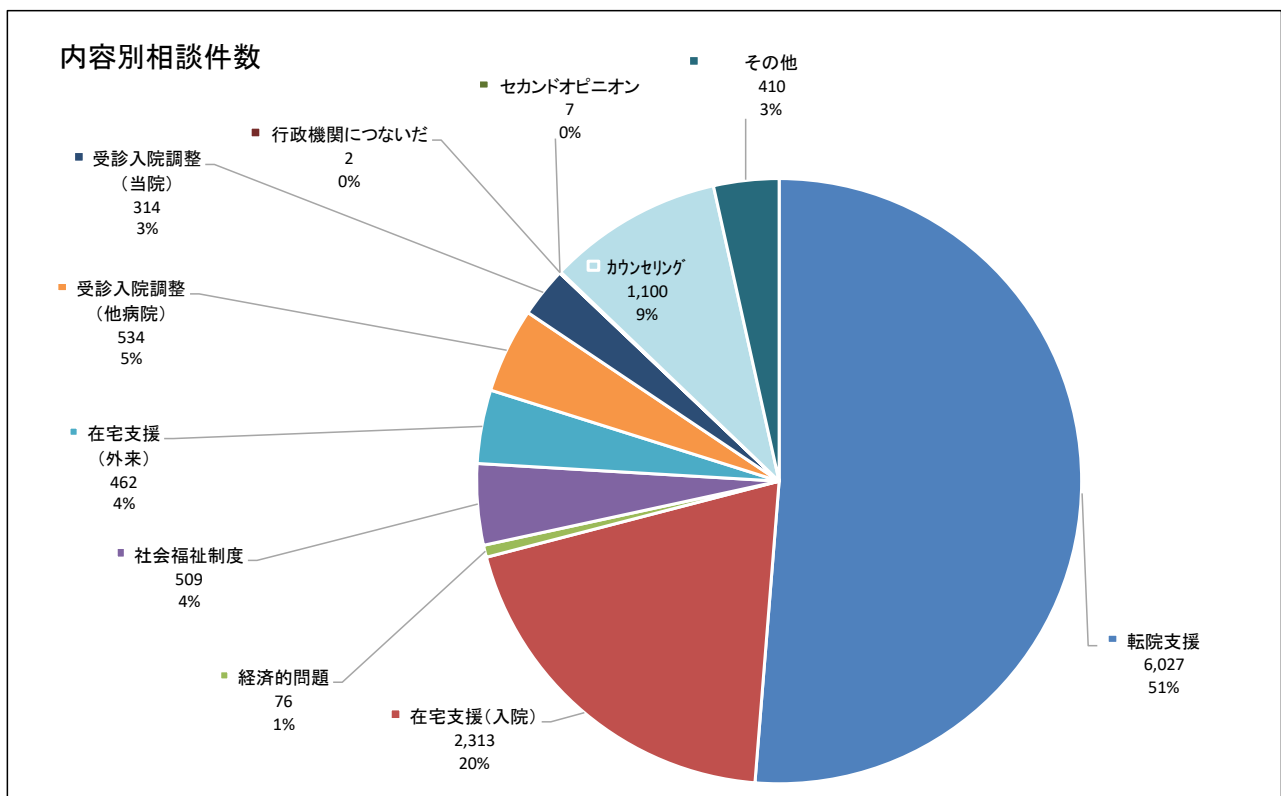
### 1. 2023年医療福祉相談件数（延べ件数）

新規				継続				合計			
入院	外来	その他	計	入院	外来	その他	計	入院	外来	その他	計
2,734	1,071	61	3,866	6,215	1,335	91	7,641	8,949	2,406	152	11,507



### 2. 2023年内容別相談件数（延べ件数）

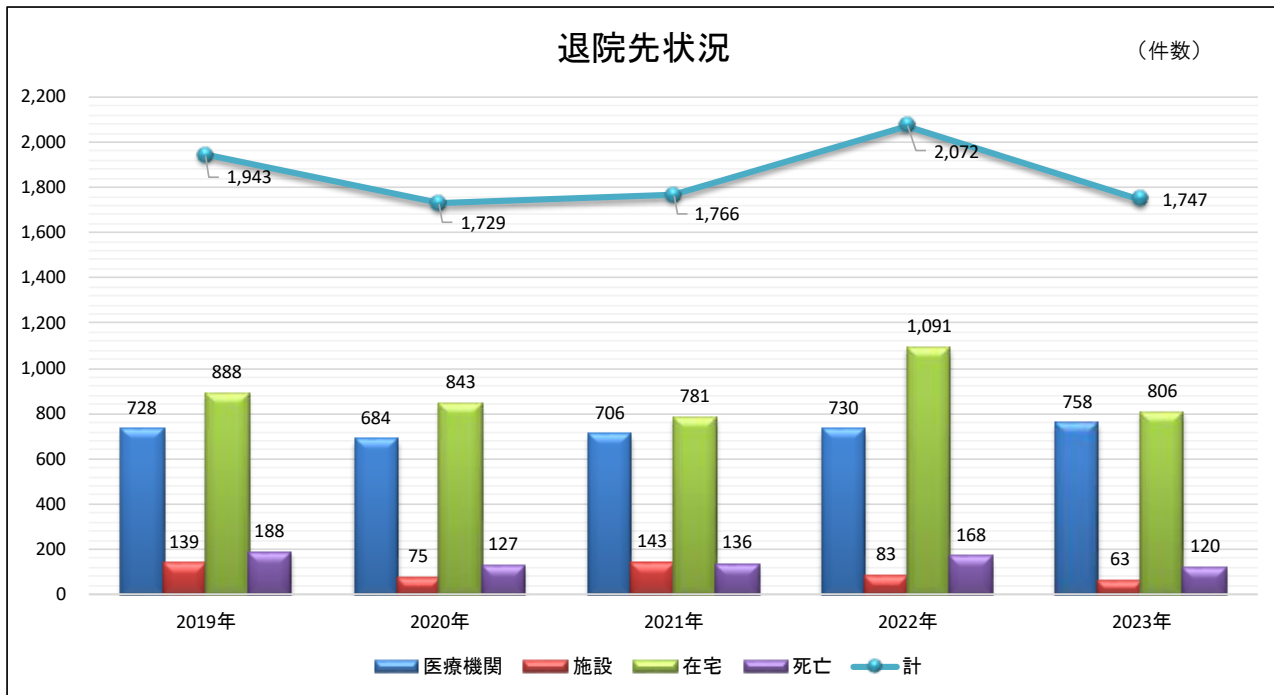
転院支援	在宅支援 (入院)	経済的問題	社会福祉制度	在宅支援 (外来)	受診入院調整 (他病院)	受診入院調整 (当院)	行政機関につないだ	セカンドオピニオン	カウンセリング*	その他	計
6,027	2,313	76	509	462	534	314	2	7	1,100	410	11,754



### 3. 退院先状況

(件数)

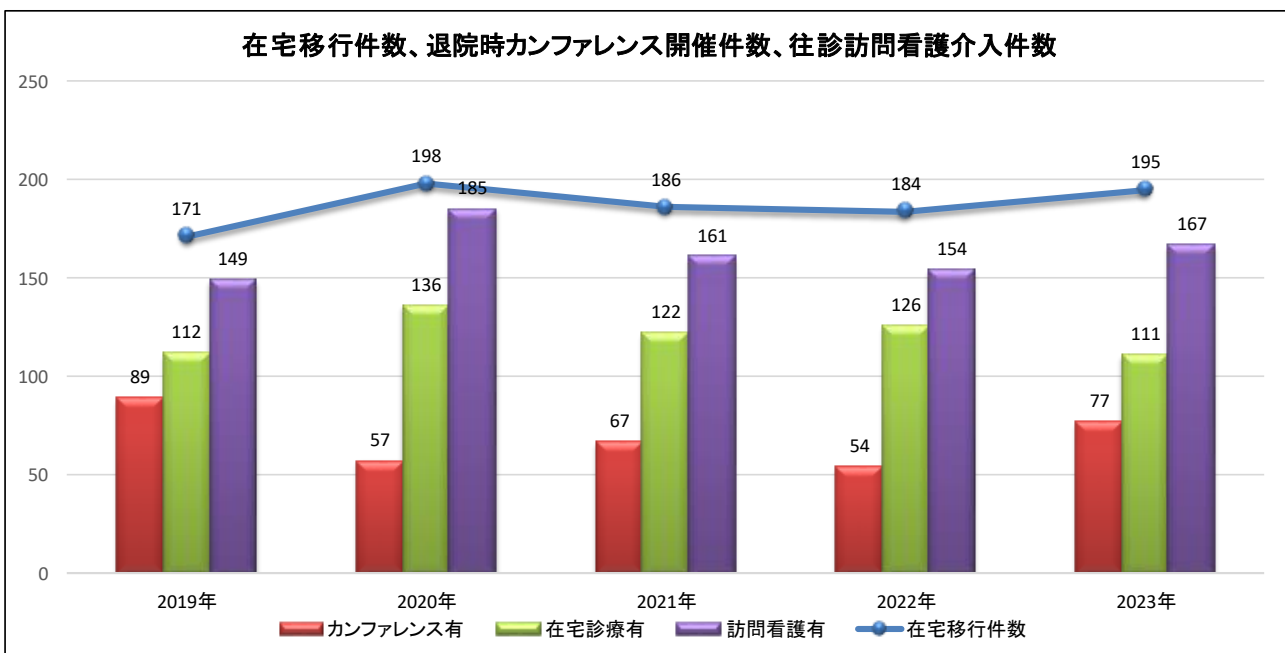
年 退院先	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
医療機関	728	684	706	730	758
施設	139	75	143	83	63
在宅	888	843	781	1,091	806
死亡	188	127	136	168	120
計	1,943	1,729	1,766	2,072	1,747



### 4. 在宅移行件数、退院時カンファレンス開催件数、往診訪問看護介入件数

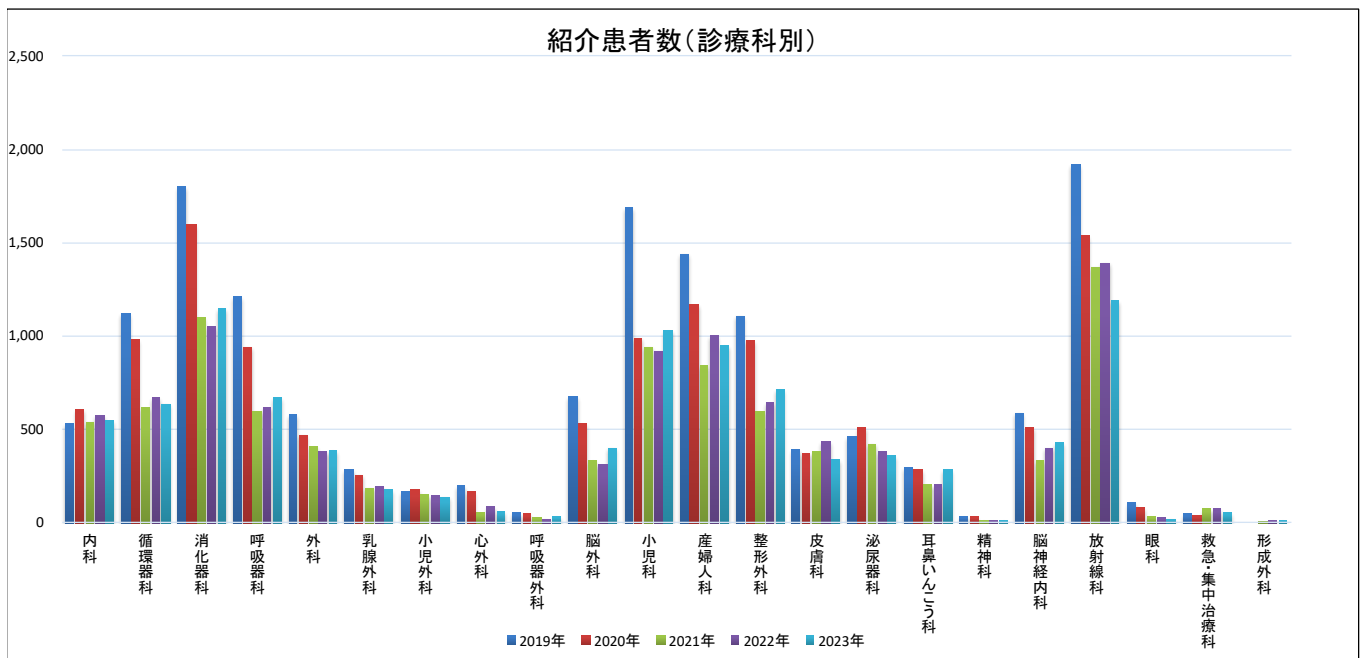
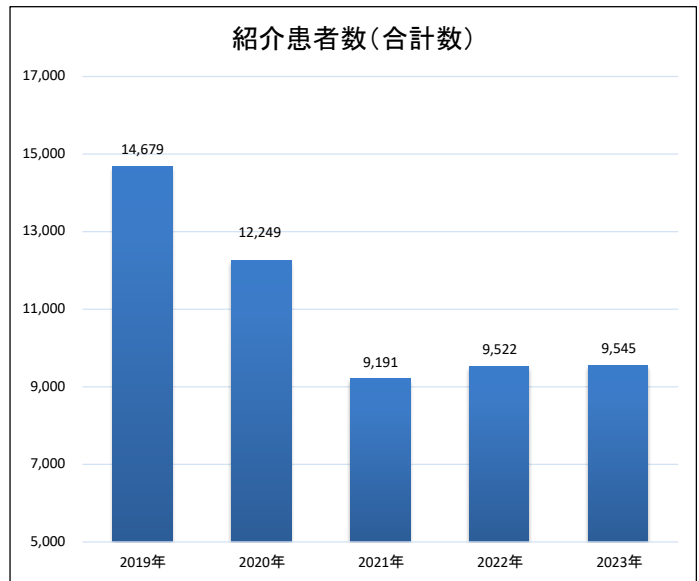
(件数)

	在宅移行件数	カンファレンス有	カンファレンス無	在宅診療有	在宅診療無	訪問看護有	訪問看護無
2019年	171	89	82	112	59	149	22
2020年	198	57	141	136	62	185	13
2021年	186	67	119	122	64	161	25
2022年	184	54	130	126	58	154	30
2023年	195	77	118	111	84	167	28



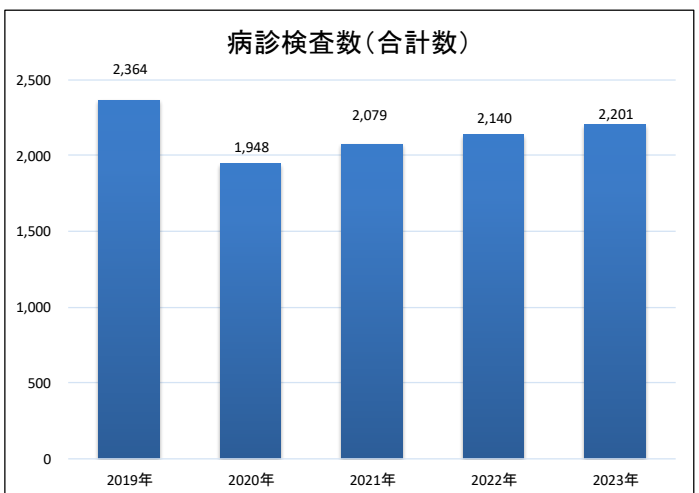
## 5. 紹介患者数

診療科	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
内科	532	610	541	569	545
循環器科	1,120	984	612	667	636
消化器科	1,800	1,595	1,097	1,052	1,147
呼吸器科	1,213	943	594	613	666
外科	577	466	403	376	384
乳腺外科	280	252	186	193	177
小児外科	163	180	146	139	133
心外科	198	163	53	85	59
呼吸器外科	53	46	27	21	33
脳外科	673	529	331	308	397
小児科	1,691	988	940	917	1,030
産婦人科	1,437	1,171	845	1,004	947
整形外科	1,106	977	596	644	713
皮膚科	389	372	379	432	334
泌尿器科	463	507	418	380	354
耳鼻いんこう科	294	281	202	207	283
精神科	31	28	13	12	11
脳神経内科	584	507	327	400	425
放射線科	1,919	1,537	1,372	1,391	1,188
眼科	109	78	33	24	19
救急・集中治療科	47	35	73	76	53
形成外科			3	12	11
合計	14,679	12,249	9,191	9,522	9,545



## 6. 病診検査件数

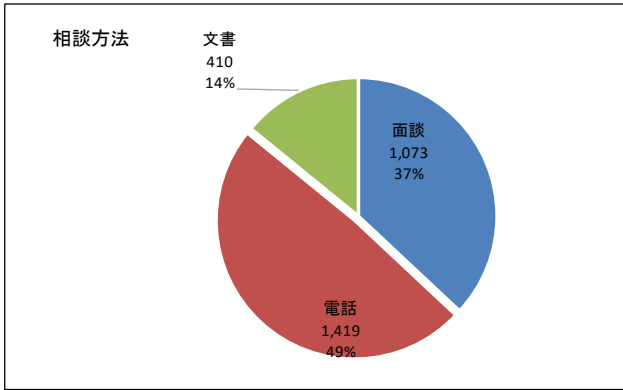
検査種類	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
CT	979	800	891	894	899
MRI	862	690	748	821	816
甲状腺エコー	20	7	7	13	14
腹部エコー	57	47	45	59	59
心エコー	42	24	22	32	41
下肢静脈エコー	3	4	10	13	13
下肢動脈エコー	2	2	2	4	1
頸動脈エコー	9	6	7	6	10
胃カメラ	75	69	92	67	72
トレッドミル	4	7	4	4	2
ホルターEKG	3	3	2	1	2
脳波	14	16	23	17	26
神経生理検査	79	75	68	61	83
ABI	8	9	8	2	6
マンモグラフィ	0	1	0	0	0
気管支内視鏡	6	10	4	4	3
CF	201	178	146	142	154
計	2,364	1,948	2,079	2,140	2,201



7. 2023年がん相談支援センター相談実績（延べ件数）

がん相談件数	2,342
--------	-------

相談方法			新規・継続		相談者			
面談	電話	文書	新規	継続	本人	家族	医療関係者	その他
1,073	1,419	410	872	1,470	680	599	1,389	17



地域連携課	がん相談件数	2,184
-------	--------	-------

がんサポート室	がん相談件数	158
---------	--------	-----

内訳	面談	928
	電話	1,406
	文書	410

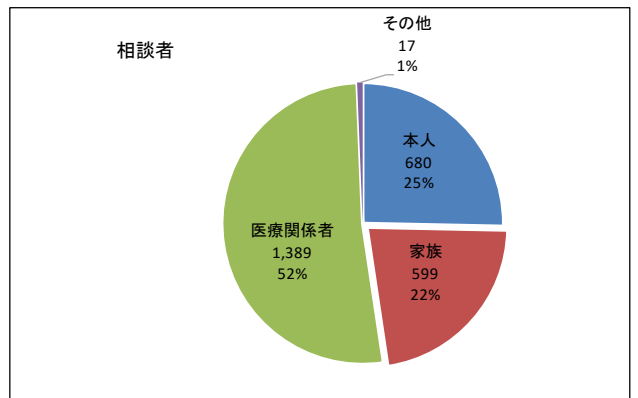
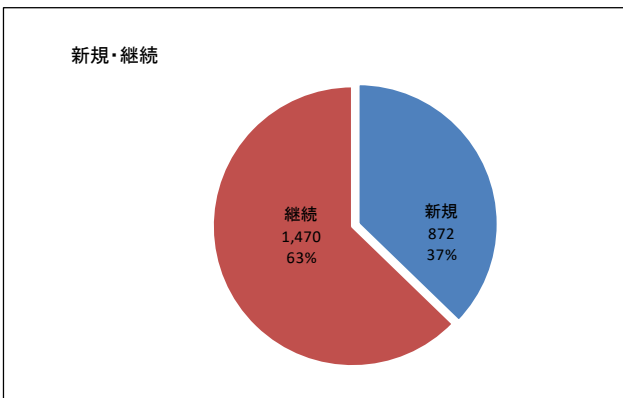
内訳	面談	145
	電話	13

	本人	591
	家族	560
	医療関係者	1,359
	その他	17

	本人	89
	家族	39
	医療関係者	30
	その他	0

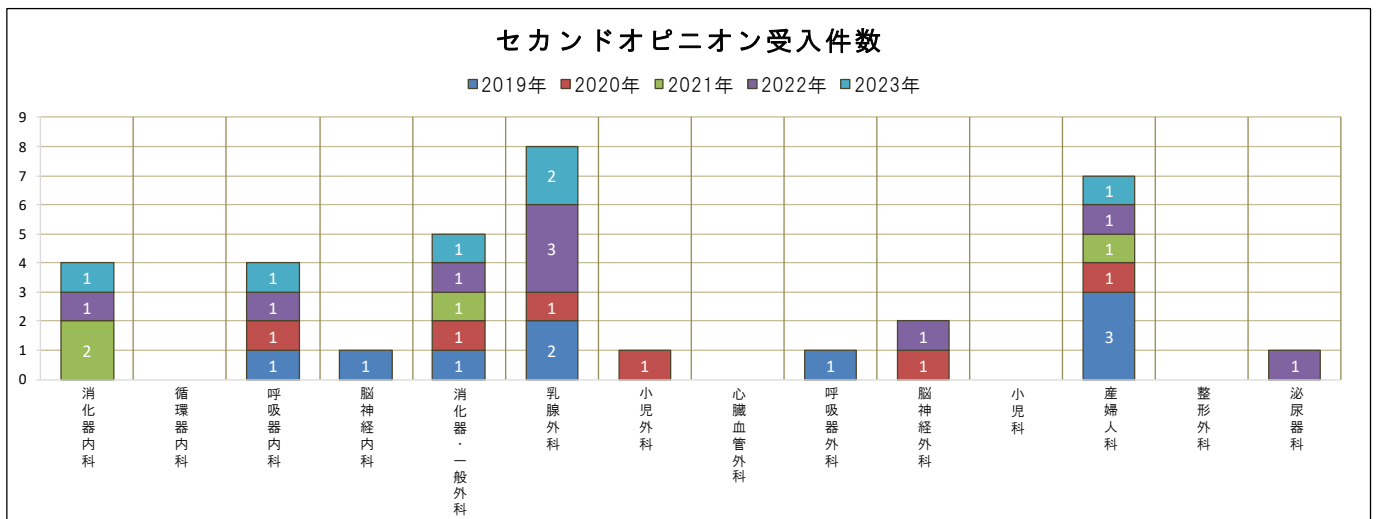
	新規	755
	継続	1,429

	新規	117
	継続	41



8. セカンドオピニオン受入件数

診療科	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	計
消化器内科			2	1	1	4
循環器内科						0
呼吸器内科	1	1		1	1	4
脳神経内科	1					1
消化器・一般外科	1	1	1	1	1	5
乳腺外科	2	1		3	2	8
小児外科		1				1
心臓血管外科						0
呼吸器外科	1					1
脳神経外科		1		1		2
小児科						0
産婦人科	3	1	1	1	1	7
整形外科						0
泌尿器科				1		1
計	9	6	4	9	6	34

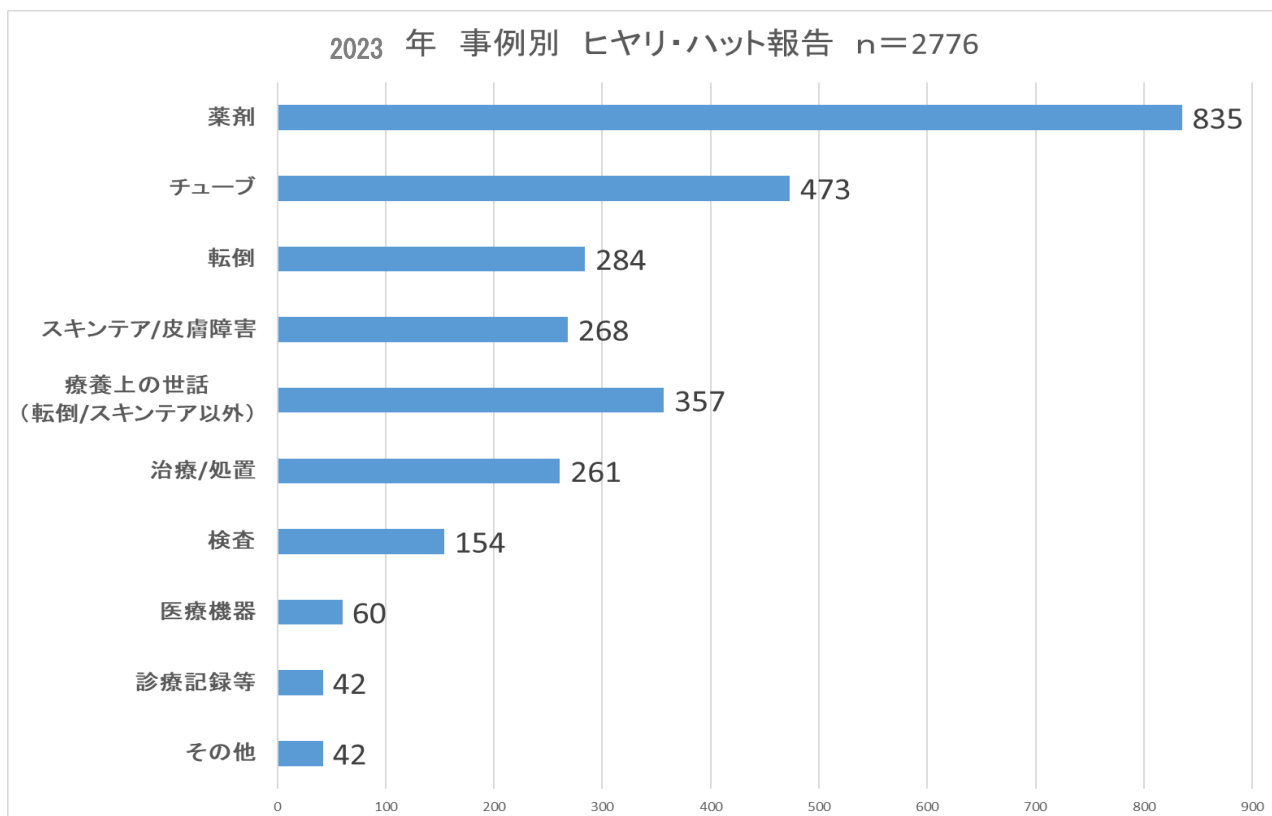
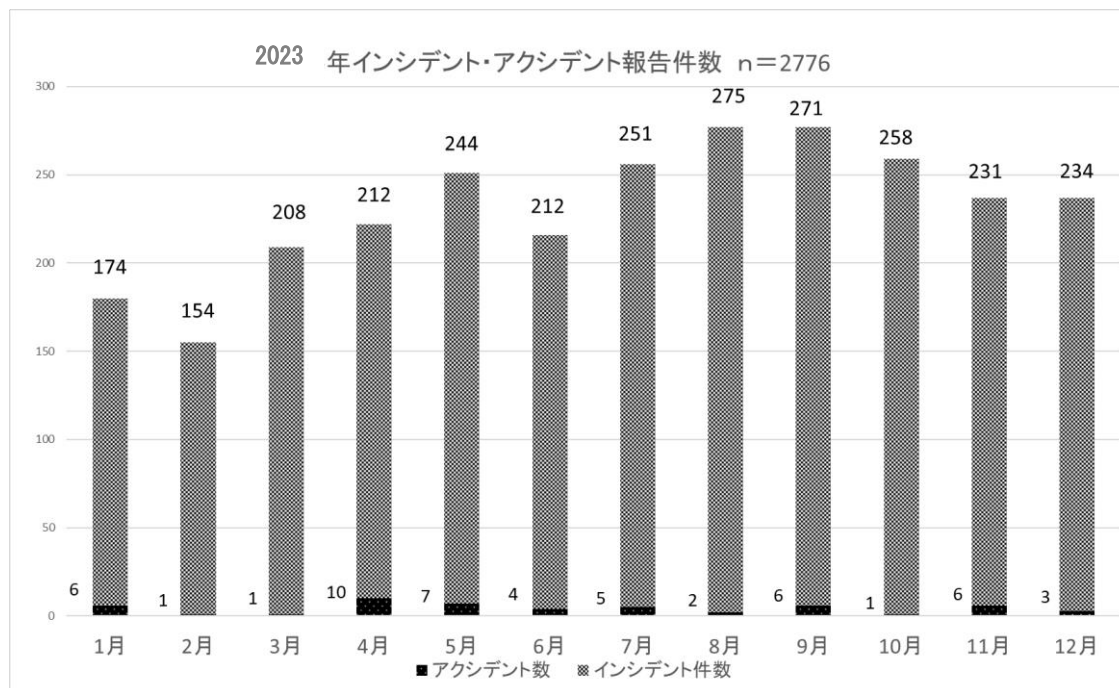


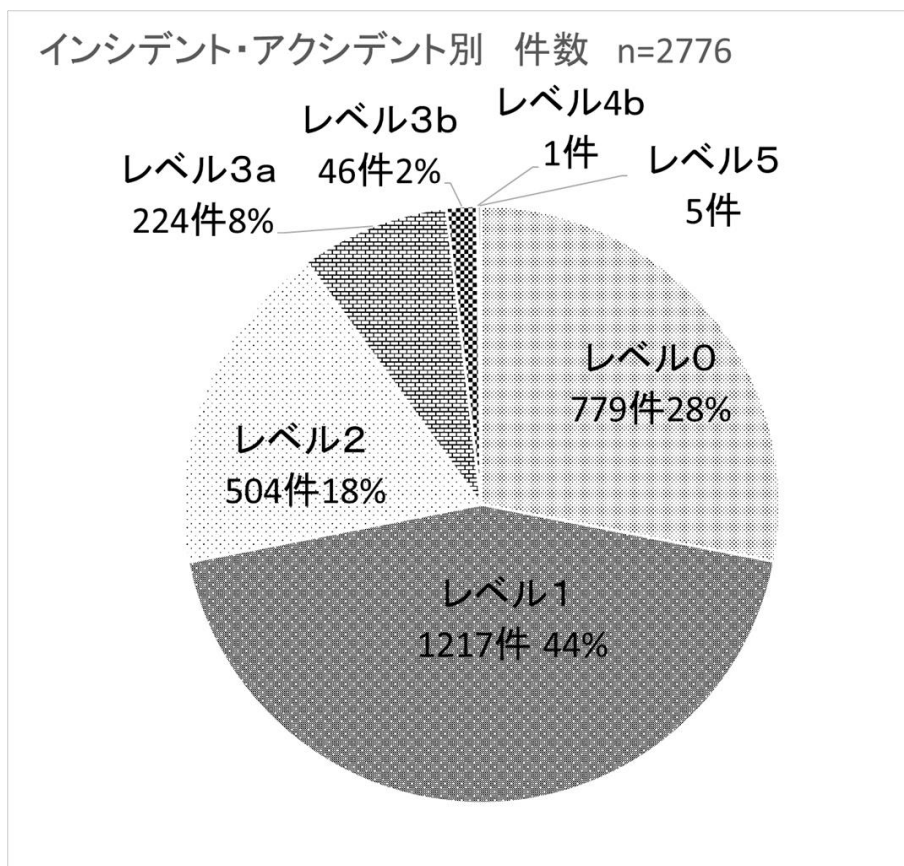
## (8) 医療安全管理部

### 【医療安全対策室】

#### ◆ 2023年のインシデント・アクシデントについて

全職員から、日常の業務における「ヒヤリ」「ハッ」とした経験（インシデント：間違いには至らなかった、または患者さんに有害な結果が発生しなかったこと）や、結果的に患者さんにとって本来の治療目的に反した有害な事象（アクシデント：事故）が報告されます。





#### ◆ 2023年に実施した医療安全対策について

院内からのインシデント・アクシデント報告を受け、あるいは院外で起こった事故の情報を収集して、事故防止のための対策を立てています。2023年に実施した主な対策・取り組みは次のとおりです。

- \* 医療安全マニュアルの改訂
- \* 医療安全ラウンドの実施
- \* 画像レポートの既読サインチェック
- \* 医療安全推進週間（11/19～11/25）に合わせた院内啓発活動

これらの対策は、各部門の代表者からなるリスクマネジメント部会で決定し、毎月メールマガジンとして院内に配信して周知を図るなど、情報の共有に努めています。

#### ◆ 研修会の実施について

職員を対象に医療安全管理の研修・講習会を実施しています。

第1回：「ヒヤリ・ハットについて」（2023年6月19日～7月7日）

第2回：「身体拘束0（ゼロ）に向けた取り組み／経管栄養チューブ挿入・運用マニュアルの改定について／報告書管理体制加算について／コードホワイトについて」（2024年1月24日～2月16日）

#### ◆ 院内迷惑行為対策について

近年、患者や家族等から病院職員に対する暴言・暴力行為など、病院の運営を妨げる迷惑行為が全国の病院で問題となっています。当院では院内でのこのような迷惑行為に対し、警察OB職員を院内に配置し体制を強化しているほか、110番に直結する非常通報装置の設置など、迷惑行為に対応しています。また、2024年2月14日にコードホワイト（院内で発生した暴力等の事案に対して組織で対応する仕組み）の研修会を、四日市南警察署のご協力の下で開催しました。



## 【感染対策室】

### ◆院内感染対策チーム（ICT）構成メンバー

- ・リーダー：感染対策室 室長（専従：感染管理認定看護師）
- ・メンバー：感染症専門指導医・ICD（専任）1名、ICD 3名  
感染管理認定看護師（兼務）1名、薬剤師 5名  
微生物検査技師 5名  
（内2名は感染制御認定臨床微生物検査技師：ICMT）  
必要時：事務 1名。
- ・オブザーバー：ICD 1名。

### ◆抗菌薬適正使用支援チーム（AST）構成メンバー

- ・リーダー：感染症専門指導医・ICD（専任）
- ・メンバー：ICD 3名、感染対策室室長（専従：感染管理認定看護師）  
感染管理認定看護師（兼務）1名、薬剤師 5名、  
細菌検査技師 5名（内2名は感染制御認定臨床微生物検査技師：ICMT）
- ・オブザーバー：ICD 1名。

## ◆実 績

### 1. 地域医療機関との連携、ネットワーク事業への参画

- （1）他施設の感染対策チームと4回／年の合同カンファレンスを開催し、1回／年の相互評価を実施しています。四日市医師会の医療機関にも、2回／年以上合同カンファレンスに参加いただき、感染症の発生状況、抗菌薬の使用状況等について事前に提出いただいたデータを元に報告し、感染管理に関する意見交換を行っています。  
新興感染症の発生等を想定した訓練として、感染対策の基本となる手指衛生について再確認し、日頃、正しく手指衛生が実践できているか、演習を行いました。
- （2）2015年度より、三重県感染対策支援ネットワーク（Mie Infection Control Network：MieICNet）の運営にも参画しており、県内医療機関等が行う感染対策等の取り組みを支援しています。令和5年度より、北勢地域の相談窓口を担っております。

### 2. サーベイランス

- （1）高度耐性菌、ESBL 産生菌、CD、血液など無菌材料からの細菌検出状況、MRSA 検出状況（MIC 値や POT 値の比較もあわせて実施）など  
各種サーベイランスを継続し、感染対策の確認、指導に活用しています。
- （2）抗 MRSA 薬使用状況、カルバペム系抗菌薬使用状況、抗 MRSA 薬 TDM 実績、  
抗菌薬使用実績、抗菌薬適正使用支援件数、介入状況のまとめ（薬剤部）
- （3）アンチバイオグラム（主要菌種）、材料別、病棟別分離菌のまとめ、ESBL 耐性菌、  
高度耐性菌分離割合、流行性ウイルス検出状況など（微生物検査室）

- (4) 針刺し・切創報告集計、分析。
- (5) 厚生労働省「院内感染対策サーベイランス事業」JANIS への参加。
- (6) 厚生労働省委託事業「感染対策連携共通プラットフォーム」J-SIPHE への参加。
- (7) 日本看護協会 DiNQL 事業への参加。

### 3. 院内ラウンド

毎週（木）15時～検討会を行い、その後ICTメンバー3名でチェックリストを用いて現場をラウンドし、遵守状況を評価しています。毎週ラウンドする病棟を5部署決め、その他は1回／月、手術室・内視鏡センター・外来化学療法室・透析室は1回／2ヶ月実施しています。改善が必要な箇所や、改善が確認できた箇所についてフィードバックを行い、院内掲示板に掲載し周知しています。リンクナースラウンドにもICTメンバーが参加することで、他職種の視点で評価ができ、情報共有の機会となっています。

### 4. 感染管理教育

#### 〈病院内〉

- ・新人看護師・研修医研修・看護部全体研修
- ・全職員への院内感染防止研修会、AST研修会
- ＊約3週間の期間中に動画を閲覧しアンケートに回答いただく形式としました。

#### 〈地域〉

- ・三重県立看護大学地域交流センター B課程感染管理認定看護師教育課程 専門科目講師、研修生の実習受け入れ
- ・リンクナース講師の新人研修支援 2回
- ・養護教諭コースの研修講師
- ・医療機関職員、在宅介護・看護に携わる施設職員・訪問職員への感染症対策に関する研修講師
- ・三重県消防学校救急科教育病院研修講師
- ・救急救命士養成課程における臨床実習講師

### 5. 職業感染対策

- (1) B型肝炎、麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎ウイルスの抗体価測定
- (2) (1) の陰性者へワクチン接種。(入職者と現職者で未実施の職員に実施)
- (3) 結核健診(6月、10月)、結核接触者健診(3事例)
- (4) インフルエンザワクチン接種(10月～11月)
- (5) コロナワクチン接種 6回目 (7月)

### 6. 新型インフルエンザ等の新たな感染症に対する対応

新型コロナウイルス感染症については、2023年5月8日に感染症法上の取り扱いが5類に移行されました。病床確保にはよらず、感染症患者を引き続き受け入れるため、体制を整えました。引き続き、院内における感染拡大を最小限とするため、感染の早期発見、対応に努めてまいります。

2021年の医療法改正により「新興感染症発生、まん延時における医療」が追加され、

平時に、都道府県と医療機関がその機能や役割に応じた協定を締結する仕組みなどが法定化されました。これを受け、第8次三重県医療計画で新たに追加される「新興感染症発生、まん延時における医療対策」に対する取り組みとして、医療措置協定の締結や同計画に基づく取り組みを実施するための体制整備をはかっていきます。

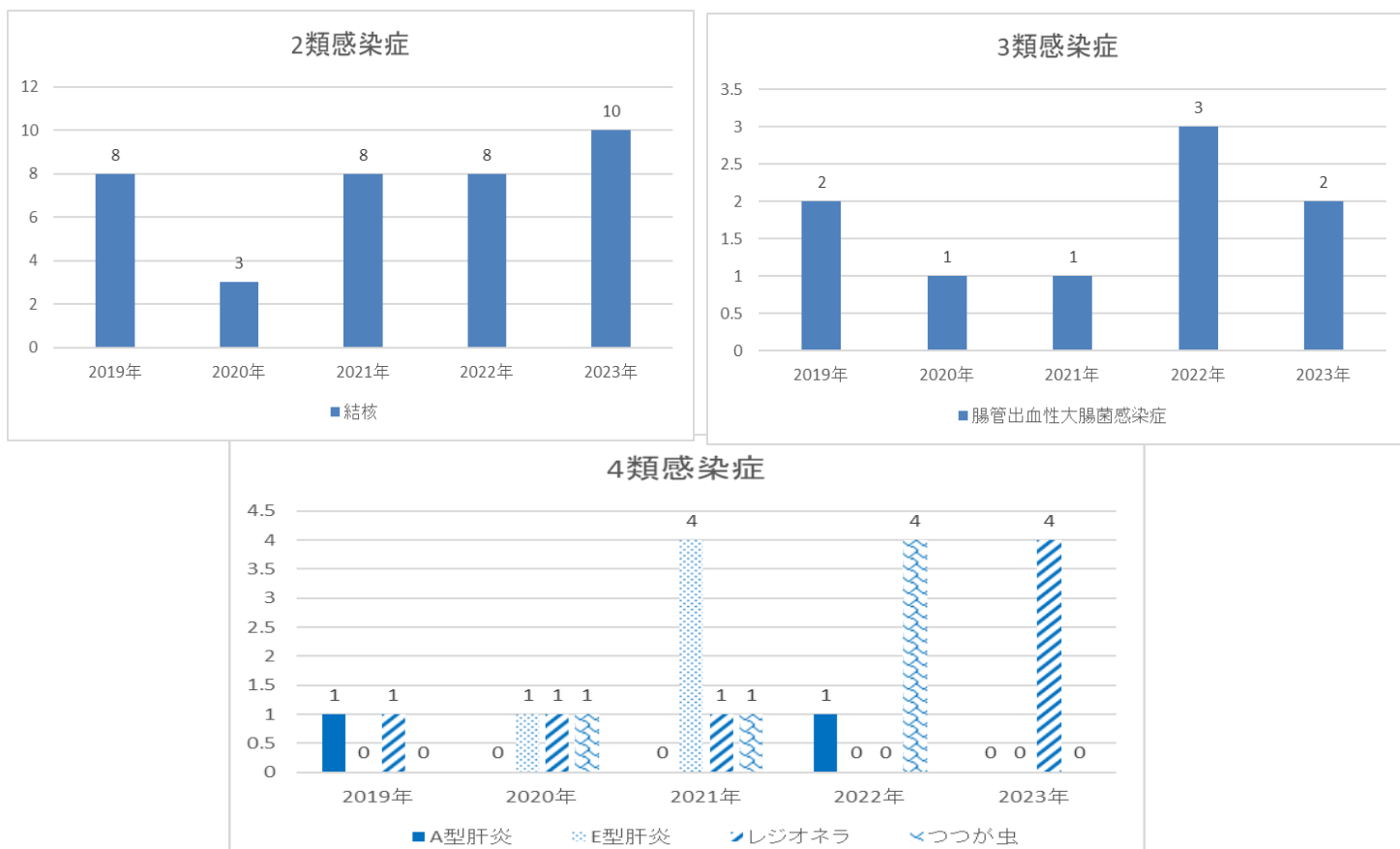
## 7. 感染対策上問題となる環境や業務内容についての見直し、改善、指導

- (1) 6に関する見直し、改善、指導
- (2) 看護部感染管理委員と協力し、病棟の手指衛生ラウンド、感染対策室でリハビリ室の手指衛生ラウンドを実施し、遵守率向上を目指した対策の実施、評価を行っています。

## 8. 感染防止マニュアル改訂、作成

- (1) 器材やガイドラインの変更に伴う感染防止マニュアルの改訂・作成
- (2) 新興、再興感染症に関する情報収集、職員への情報提供

## 9. 感染症法による主な発症届 報告



**5類感染症**

感染症名	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	2	1	0	2
梅毒	0	2	1	2	3
急性脳炎	3	2	1	0	1
HIV	2	4	3	1	1
麻疹	2	0	0	0	0
風疹	1	0	0	0	0
水痘	0	0	0	2	0
侵襲性肺炎球菌	2	5	1	4	1
侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	2	0
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	1	0	0	2
百日咳	7	0	0	0	0
急性弛緩性麻痺	0	0	0	0	1

## (9) 研究センター

当院は、三重県北勢地域における総合病院であり、さまざまな疾病の拠点病院の指定を受けています。特に、がん、消化器疾患、感染症疾患を中心に幅広い、豊富な臨床症例があり、研究部門では、環境が整備され、その臨床的特徴を生かして、消化器疾患、感染症疾患分野における最先端の研究を展開しています。

このような活発な研究活動をもとに国立大学法人 三重大学と連携大学院の協定を締結し、2011年4月より三重大学医学系研究科 臨床医学講座 病態解析内科学分野を開設しております。これまでに、1名が医学博士号を取得されました。現在は3名の連携大学院生が在籍し、臨床に直結する研究（トランスレーショナルリサーチ）を基本に最先端かつオリジナルの臨床研究を積極的に進めています。

研究内容の概要は、以下の通りです。

1. 腸内フローラと生活習慣病の関連
2. 腸内フローラの変化と大腸がん発がんに関する研究
3. ピロリ菌が全身疾患におよぼす影響
4. 腸内真菌と全身免疫能に関する研究
5. 薬剤反応と自己免疫性疾患の関連
6. HIV と感染症に関する研究
7. 肝炎ウイルスの新規治療法に関する研究
8. 消化器疾患や肝疾患の新規画像診断の開発
9. 止血異常症の病態解析
10. 前血栓状態の解析
11. 抗凝固療法モニター

特に本年度は、血小板活性化マーカーである soluble C-type lectin-like receptor 2 (sCLEC-2)測定や凝固波形解析 (CWA) により、脳梗塞の診断がより簡便に行えることを報告しました。また、COVID-19 感染症では血小板の活性化が認められ、血小板の活性化が COVID-19 重症化の原因の一つである可能性を示しました。また、担癌患者では過凝固状態が存在し、過凝固状態と血栓症発症との関係を CWA にて示し、CWA により血小板と止血異常の関係も報告しました。大出血や血栓症の予知につながる研究を進めていきたいと考えています。

## (10) 学会・研究会発表及び論文発表実績

### 呼吸器内科

---

#### <学会・総会>

●第 63 回日本呼吸器学会学術講演会 2023 年 4 月 28 日～30 日

東京国際フォーラム

・「実臨床における PD-L1 陽性の進行・再発非小細胞肺癌に対する免疫チェックポイント阻害薬を用いた 1 次治療の検討」

児玉秀治、三木寛登、後藤広樹、増田和記、寺島俊和、藤原篤司、吉田正道

●第 16 回日本緩和医療薬学会年会 2023 年 5 月 26 日～28 日

神戸国際会議場/神戸商工会議所会館

・「臍頭部癌の右前胸部皮膚転移部の疼痛に対して、リドカイン混合ワセリンが著効した 1 例」

藤井稚奈、宮本翔子、山川智一、秦いづみ、北山智美、今出雅博、小林佑佳、酒井美紀子、佐貫直子、児玉秀治

●第 28 回日本緩和医療学会学術講演会 2023 年 6 月 30 日～7 月 1 日

神戸国際会議場/神戸国際展示場/ポートピアホテル

・「緩和照射に対する病病連携の取り組み」

児玉秀治、野呂綾、山中豊、酒井美紀子、小林佑佳、谷口智香子、山川智一、宮本翔子、藤井稚奈、秦いづみ、北山智美、今出雅博

●第 45 回呼吸療法医学会学術集会 2023 年 8 月 5 日～6 日

ウイंकあいち（愛知県産業労働センター）

・「APRV にて管理し得た RSV 肺炎による小児 ARDS の 1 例」

児玉秀治、藤原篤司、吉田正道、荻野仁志、鈴木尚史、中里綾香、濱野愛、藤澤淳子、林良一、小林舞、栗原康輔、山下敦士、山口佳子、大森雄介、西森久史、太田穂高、杉山謙二、富田正樹、山本章貴

#### <学会・地方会>

●第 141 回日本結核・非結核抗酸菌症病学会東海支部学会

●第 123 回日本呼吸器学会東海地方会

●第 26 回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会中部支部会

2023 年 6 月 3 日～4 日 名古屋市中小企業振興会館

・「潰瘍性大腸炎治療中にアザチオプリンが被疑薬と考えられる薬剤性肺障害を生じた 1 症例」

三木寛登、後藤広樹、児玉秀治、藤原篤司、吉田正道

・「神経性食思不振症に合併した慢性肺アスペルギルス症による肺病変が体重増加とともに改善した 1 例」

後藤広樹、三木寛登、児玉秀治、藤原篤司、吉田正道

●第142回日本結核・非結核抗酸菌症病学会東海支部学会

●第124回日本呼吸器学会東海地方会

●第27回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会中部支部会

2023年11月11日～12日 浜松市浜北文化センター

・「M. parascrofulaceum による肺非結核性抗酸菌症の1例」

後藤大基、三木寛登、後藤広樹、児玉秀治、藤原篤司、吉田正道

・「侵入門戸不明のMSSA菌血症により前縦隔膿瘍を生じた1例」

三木寛登、後藤広樹、児玉秀治、藤原篤司、吉田正道

・「ベンラリズマブ併用によりOCSから離脱できた再燃性好酸球性肺炎の1例」

後藤広樹、三木寛登、児玉秀治、藤原篤司、吉田正道

・「Atezolizumab投与中に掌蹠膿疱症を発症した肺腺癌の1例」

児玉秀治、三木寛登、後藤広樹、藤原篤司、吉田正道

●第9回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会東海支部学術集会 2023年4月15日

農業屋コミュニティ文化センター（松阪市）

・「当院におけるクリニカルパスを用いた間質性肺疾患の評価入院について」

後藤広樹、三木寛登、児玉秀治、藤原篤司、吉田正道、村田淳一郎、石井千菊、小泉花奈恵、杉村沙樹、野瀬聖子

<研究会、シンポジウム>

●第4回三重Asthma Forum（WEB開催） 2023年5月17日

・「デュピルマブが有効だったアトピー性皮膚炎、慢性副鼻腔炎合併の気管支喘息の1例」

後藤 広樹

●間質性肺疾患多職種連携セミナー（WEB開催） 2023年8月23日

・「当院におけるクリニカルパスを用いた間質性肺疾患の評価入院について」

後藤 広樹

●TSLP Symposium in MIE（WEB開催） 2023年11月10日

・「当院におけるテゼペルマブの使用経験」

後藤 広樹

●次世代肺癌セミナー（WEB開催） 2023年3月14日

・「非小細胞肺癌 術後補助化学療法について自施設例をもとに考える」

三木 寛登

●重症喘息治療Up to Date Seminar 2023（四日市都ホテル、WEB） 2023年3月23日

・「デュピクセントの使用経験とその導入について」

藤原 篤司

●TSLP symposium 2<sup>nd</sup> season(津都ホテル+WEB 開催) 2023年5月12日

・「当院での Tezepelumab 投与症例について」

三木 寛登

●Next Generation Lung Cancer Seminar in Mie(津都ホテル+WEB 開催) 2023年10月13日

・「最適なIV期非小細胞肺癌治療を考える」

三木 寛登

<講演>

●GSK Respiratory Seminar in Mie (四日市都ホテル、WEB) 2023年2月15日

・「LAMA を加えた喘息治療～実臨床に生かすトリプル製剤～」

吉田 正道

●四日市医師会 肺がん検診に関する症例検討会・読影講習会 2023年3月15日

・「肺がん検診のための胸部 X 線読影」

吉田 正道

●GSK Respiratory Seminar (四日市都ホテル、WEB) 2023年4月12日

・「末梢血好酸球数を意識した重症喘息の治療戦略」

吉田 正道

●Severe Asthma Symposium (ホテルグリーンパーク津、WEB) 2023年6月14日

・「重症喘息治療における血中好酸球数 150 の意義とは」

吉田 正道

●GSK Severe Asthma Webinar (四日市都ホテル、WEB) 2023年10月8日

・「抗 IL-5 療法の対象となる喘息症例について考える」

吉田 正道

●Severe Asthma Symposium (四日市シティホテル、WEB) 2023年10月27日

・「重症喘息治療における血中好酸球数 150 の意義とは」

吉田 正道

●令和5年度ぜん息予防等講演会(四日市市総合会館) 2023年11月23日

・「喘息・COPD と上手につき合うために」

吉田 正道

## <論文・症例報告>

### ●顎骨壊死の症状出現前に骨シンチグラフィで下顎骨への集積が確認された肺癌骨転移の3例

児玉秀治, 吉田正道, 三木寛登, 後藤広樹, 増田和記, 寺島俊和, 藤原篤司. 肺癌 2023; 63(1): 101-6.

### ●播種性骨髄癌腫症を診断し得た去勢抵抗性前立腺癌の1剖検例

児玉秀治, 吉田正道, 後藤大基, 和田英夫, 福留寿生. 臨床と研究 2023; 100(5): 611-4.

### ●放射線治療によりリンパ浮腫が改善し一時退院が可能となった肺扁平上皮がん後腹膜リンパ節転移の1例

児玉秀治, 佐貫直子, 酒井美紀子, 山川智一, 宮本翔子, 藤井稚奈, 秦いづみ, 北山智美, 今出雅博, 吉田正道. Palliat Care Res 2023; 18(2): 111-6.

### ●全肝照射により多発肝転移が縮小した治療抵抗性の進展型小細胞肺癌の1例

児玉秀治, 吉田正道, 三木寛登, 後藤広樹, 増田和記, 藤原篤司, 南平結衣, 佐貫直子, 後藤大基, 鶴賀龍樹. 肺癌 2023; 63(7): 959-64.

## 消化器内科

---

### <学会発表>

#### ●第3回 北勢肝細胞癌治療フォーラム(三重) 2023年1月26日

・「当院におけるアテゾリズマブ/ベバシズマブ併用療法の現況」

中澤祐一, 白木克哉, 小林真悠, 島田康彬, 水谷広樹, 西浦祐貴, 菅大典, 森谷勲, 山中豊, 井上英和

#### ●第1回 三重消化器内科談話会 2023年1月28日

・「横隔膜交通症による胸水貯留により挿管管理を要した1例」

山本真優, 水谷広樹, 島田康彬, 小林真悠, 中澤祐一, 西浦祐貴, 菅大典, 森谷勲, 山中豊, 井上英和, 白木克哉

#### ●LENVIMA-TACE sequential 療法について考える会(三重) 2023年3月13日

・「当院における縮小傾向を得られた LEN-TACE 治療経験からの考察」

水谷広樹, 白木克哉, 小林真悠, 島田康彬, 中澤祐一, 西浦祐貴, 菅大典, 森谷勲, 山中豊, 井上英和

#### ●第109回 日本消化器病学会総会(長崎) 2023年4月8日

・「膵癌患者における血小板活性化とトロンビンバーストによる過凝固能状態の検討」

小林真悠, 福井俊介, 島田康彬, 中澤祐一, 水谷広樹, 西浦祐貴, 菅大典, 森谷勲, 山中豊, 井上英和, 和田英夫, 白木克哉



●第304回 肝胆膵疾患研究会 2023年6月2日

- ・「Hemosaccus pancreatics を呈した総肝動脈仮性動脈瘤破裂の一例」

田中皓太、島田康彬、小林真悠、中澤祐一、水谷広樹、西浦祐貴、森谷勲、山中豊、井上英和、白木克哉

●第59回 日本肝臓学会総会(奈良) 2023年6月15日

- ・「凝固波形解析(Clots waveform analysis:CWA)による肝細胞癌患者の凝固能の評価」

福井俊介、白木克哉、井上英和、山中豊、森谷勲、菅大典、水谷広樹、中澤祐一、島田康彬、小林真悠

- ・「当院における薬物誘発性自己免疫性肝炎の臨床的特徴」

池田昂平、福井俊介、小林真悠、島田康彬、中澤祐一、水谷広樹、西浦祐貴、菅大典、森谷勲、山中豊、井上英和、白木克哉

●第138回 日本消化器病学会東海支部例会(愛知) 2023年6月17日

- ・「挿管管理を要し、ソナゾイド造影検査で確定診断を得た横隔膜交通症の1例」

山本真優、白木克哉、井上英和、山中豊、森谷勲、西浦祐貴、水谷広樹、中澤祐一、島田康彬、小林真悠

●薬物 Sequence Seminar in 北勢(肝細胞癌治療 up to date) 2023年8月28日

- ・「当院におけるCRを目指したLEN-TACE治療経験からの考察」

水谷広樹、小林真悠、島田康彬、中澤祐一、西浦祐貴、森谷勲、山中豊、井上英和、白木克哉

●第305回 肝胆膵疾患研究会 2023年11月28日

- ・「インスリノーマの1例」

島田康彬、小林真悠、中澤祐一、水谷広樹、西浦祐貴、森谷勲、山中豊、井上英和、白木克哉

<論文>

●Efficacy of Endoscopic Resection for Rectal Neuroendocrine Tumors Smaller than 15 mm.

Hamada Y, Tanaka K, Mukai K, Baba Y, Kobayashi M, Tominaga S, Kawabata H, Sawai S, Kaneko M, Sugimoto S, Inoue H, Mimuro M, Tamaru S, Nakagawa H.

Dig Dis Sci. 2023 Jul;68(7):3148-3157. doi: 10.1007/s10620-023-07914-4. Epub

2023年 Apr 6. PMID: 37024740

●**Demographic Trends and Changes in the Pre- and In-Hospital Medical Management of Acute Myocardial Infarction During the First 12 Months of the COVID-19 Pandemic in Mie Prefecture - Report From the Mie ACS Registry.**

Takasaki A, Kurita T, Yanagisawa M, Ino A, Hiramatsu D, Ikami A, Ito H, Kato T, Fukuoka S, Sugimoto T, Nakata T, Masuda J, Tanabe M, Kakimoto H, Dohi K.  
Circ Rep. 2022 Aug 18;4(9):412-421.

●**Clot Waveform Analysis for Hemostatic Abnormalities.**

Wada H, Shiraki K, Matsumoto T, Shimpo H, Shimaoka M.  
Ann Lab Med. 2023 Nov 1;43(6):531-538. doi: 10.3343/alm.2023年.43.6.531. Epub 2023年 Jun 30. PMID: 37387486

●**Thrombotic Mechanism Involving Platelet Activation, Hypercoagulability and Hypofibrinolysis in Coronavirus Disease 2019.**

Wada H, Shiraki K, Shimpo H, Shimaoka M, Iba T, Suzuki-Inoue K.  
Int J Mol Sci. 2023 Apr 28;24(9):7975. doi: 10.3390/ijms24097975.  
PMID: 37175680

●**Predictive prognostic biomarkers in patients with COVID-19 infection.**

Fukui S, Ikeda K, Kobayashi M, Nishida K, Yamada K, Horie S, Shimada Y, Miki H, Goto H, Hayashi K, Nakazawa Y, Mizutani H, Kamon T, Tanigaito Y, Kodama S, Kato T, Nishiura Y, Suga D, Terashima T, Ichikawa Y, Moritani I, Yamamoto A, Takaba K, Yasumoto K, Wada H, Shiraki K.  
Mol Med Rep. 2023 Jan;27(1):15. doi: 10.3892/mmr.2022.12902. Epub 2022 Dec 1.  
PMID: 36453231

●**The Detection of Hypercoagulability in Patients with Acute Cerebral Infarction Using a Clot Waveform Analysis.**

Kamon T, Horie S, Inaba T, Ito N, Shiraki K, Ichikawa Y, Ezaki M, Shimpo H, Shimaoka M, Nishigaki A, Shindo A, Wada H.  
Clin Appl Thromb Hemost. 2023 Jan-Dec;29:10760296231161591. doi: 10.1177/10760296231161591.  
PMID: 36872898

## 循環器内科

---

### <学会発表>

●**第249回 日本内科学会東海地方会 2023年2月19日 名古屋JPタワー**

・「心嚢水排液直後に左室収縮障害(Pericardial Decompression Syndrome ; PDS)をきたした1例」

大須賀一輝、谷垣内佑典、樂家僚亮、林恒賢、加藤誉史、増田純、牧野克俊

●第 161 回 日本循環器学会東海地方会 2023 年 6 月 3 日

・「好酸球性心筋炎の加療中に大動脈弁に血栓形成を来した一例」

西田圭吾 樂家僚亮 林 恒賢、加藤誉史 谷垣内佑典 増田 純 牧野克俊

・「埋込み型ループレコーダ(ILR)により心原性失神の診断に至りペースメーカー(PM)留置を行った 2 例」

樂家 僚亮、山田 啓太、林 恒賢、加藤 誉史、谷垣内 佑典、増田 純 、牧野 克俊

●第 250 回 日本内科学会東海地方会 2023 年 6 月 25 日 柿安シティホール

・「生前に診断し得た乳癌の遠隔期再発に伴う肺腫瘍血栓性微小血管症(PTTM)の一例」

高木 里英子、林 恒賢、樂家 僚亮、西田 圭吾、加藤 誉史、谷垣内 佑典、増田 純、牧野 克俊

・「心疾患を合併した糖尿病に対する経口 GLP-1 受容体作動薬の使用経験」

山田啓太、増田 純、樂家僚亮、林 恒賢、谷垣内佑典、加藤誉史、牧野克俊

●第 27 回 日本心不全学会 2023 年 10 月 6 日 パシフィコ横浜

・「僧帽弁逸脱症に対する僧帽弁形成術後に生じた HFworEF に対してエプレレノンが著効した一例」

加藤誉史、大泉博暉、樂家僚亮、山田啓太、林恒賢、谷垣内佑典、増田純、牧野克俊

●第 251 回 日本内科学会東海地方会 2023 年 10 月 15 日 ウィンク愛知

・「キョウチクトウ中毒により多彩な不整脈を認めた一例」

田中皓大、林 恒賢、大泉博暉、樂家僚亮、山田啓太、加藤誉史、谷垣内佑典、増田純、牧野克俊

●第 49 回 日本心血管インターベンション学会東海北陸地方会 2023 年 11 月 10 日

名古屋コンベンションホール

・「脳出血急性期に発症した ST 上昇型急性冠症候群に対して primary PCI を実施した 1 例」

谷垣内佑典、大泉博暉、樂家僚亮、山田啓太、林恒賢、加藤誉史、増田純、牧野克俊

・「Bio Freedom ULTRA の新たな可能性」 モーニングセミナー

増田 純

<研究会発表>

●第 308 回四日市循環器懇話会 2023 年 3 月 9 日

・「コロナ禍前後での虚血性心疾患患者の特徴と予後について」

加藤誉史

●北勢地区 地域連携講演会 2023 年 9 月 26 日

・「糖尿病、CKD 患者の下肢のしびれ・痛み それ虚血症状ではないですか？」

-ASO の早期発見・治療に向けて-

増田 純

●Cardiology GLP-1 Seminar 2023年6月29日 桑名メディアライブ

- ・「循環器医から見た経口 GLP-1 製剤の有用性とその使用経験」

増田 純

●亀山医師会 学術講演会 2023年10月19日 亀山医師会館

- ・「循環器内科医から見た腎性貧血治療」

増田 純

●循環器疾患シンポジウム 2023年11月24日 WEB開催

- ・「急性冠症候群治療における現状と課題」

増田 純

●北勢地区 CRAS 学術講演会 2023年11月28日 プラトンホテル四日市

- ・「循環器専門医から見た腎性貧血治療の重要性」

増田 純

●Cardiologist optimal treatment strategy forum 2023年11月30日 WEB開催

- ・「OCTによるプラーク評価と PCSK9 阻害薬の可能性」

増田 純

<論文>

●Prognostic Impact of Prehospital Simple Risk Index in Patients With ST-Elevation Myocardial Infarction.

Moriwaki K, Kurita T, Hirota Y, Ito H, Ishise T, Fujimoto N, Masuda J, Ishikura K, Tanigawa T, Yamada N, Kawasaki A, Dohi K.

Circ J. 2023 Apr 25;87(5):629-639.

## 脳神経内科

---

<学会・研究会発表>

●第17回 日本血栓止血学会標準化委員会シンポジウム 2023年2月18日 (web開催)

- ・「CWAによる脳梗塞症例の過凝固状態の診断」

掃部俊貴、和田英夫

●第165回 日本神経学会東海・北陸地方会 2023年3月11日 名古屋

- ・「多重アシル CoA 脱水素酵素欠損症ミオパチーの一例」

堀江将太郎、稲葉智哉、掃部俊貴、伊藤 伸朗

## <論文発表>

Kamon T, Horie S, Inaba T, Ito N, Shiraki K, Ichikawa Y, Ezaki M, Shimpo H, Shimaoka M, Nishigaki A, Shindo A, Wada H. The Detection of Hypercoagulability in Patients with Acute Cerebral Infarction Using a Clot Waveform Analysis. Clin Appl Thromb Hemost. 29: 1-9, 2023

## 消化器・一般外科

---

### <学会・研究会発表>

#### ●第95回日本胃癌学会総会 北海道・札幌市 2023年2月23日～25日

胃癌手術症例における体組成が術後短期・長期成績に与える影響

三重県立総合医療センター消化器・一般外科/小児外科

毛利 靖彦, 家城 英治, 畠村 麻生, 山本 晃, 辻浦 誠浩, 横江 毅, 尾嶋 英紀, 内田 恵一

#### ●第95回日本胃癌学会総会 北海道・札幌市 2023年2月23日～25日

十二指腸腺腫に対する LECS 術後の2つの合併症管理に苦慮した1例 十二指腸縫合部通過障害と化膿性脊椎炎

三重県立総合医療センター消化器・一般外科

辻浦 誠浩, 家城 英治, 畠村 麻生, 山本 晃, 横江 毅, 尾嶋 英紀, 毛利 靖彦

#### ●第123回日本外科学会定期学術集会 東京都・品川 2023年4月27日～29日

大腸癌手術症例における術前 BMI, 大腰筋筋肉量, 筋肉内脂肪含有量, 小野寺の PNI が術後短期, 長期成績に与える影響

三重県立総合医療センター消化器・一般外科/小児外科

毛利 靖彦, 家城 英治, 畠村 麻生, 山本 晃, 辻浦 誠浩, 横江 毅, 尾嶋 英紀, 内田 恵一

#### ●第38回日本臨床代謝栄養学会学術集会 兵庫県・神戸市 2023年5月9日～10日

合同シンポジウム6 多角的多面的アプローチによる栄養管理と外科感染症対策

胃・大腸外科における周術期栄養管理および感染症対策

三重県立総合医療センター消化器・一般外科/小児外科

毛利靖彦, 横山歩乃花, 家城英治, 畠村麻生, 山本 晃, 辻浦誠浩, 横江 毅, 尾嶋英紀, 内田恵一

#### ●日本臨床外科学会三重県支部会 第298回三重外科集談会 三重県・津市 2023年6月10日

Nivolumabによる術後分子標的療法を導入した直腸悪性黒色腫の一例

県立医療センター 外科(1)、三重大学 腫瘍内科(2)

横山歩乃加, 尾嶋英紀, 齋藤佳菜子, 山本 晃, 辻浦誠浩, 横江 毅, 内田恵一, 毛利靖彦

●第60回日本外科代謝栄養学会学術集会 東京都・千代田区 2023年7月6日～8日

亜鉛欠乏症の治療により改善が得られた慢性貧血・低アルブミン血症を呈した直腸癌術後人工肛門形成状態の1例

三重県立総合医療センター消化器・一般外科/小児外科

家城 英治, 毛利 靖彦, 畠村 麻生, 山本 晃, 辻浦 誠浩, 横江 毅, 尾嶋 英紀, 内田 恵一

●第60回日本外科代謝栄養学会学術集会 東京都・千代田区 2023年7月6日～8日

人工肛門造設および在宅静脈栄養を要した放射線性腸炎の一例

三重県立総合医療センター消化器・一般外科/小児外科

畠村 麻生, 毛利 靖彦, 家城 英治, 山本 晃, 辻浦 誠浩, 横江 毅, 尾嶋 英紀, 内田 恵一

●第60回日本外科代謝栄養学会学術集会 東京都・千代田区 2023年7月6日～8日

胃癌手術症例における筋肉量・筋肉の質が術後成績に与える影響

三重県立総合医療センター消化器・一般外科/小児外科

毛利 靖彦, 家城 英治, 畠村 麻生, 山本 晃, 辻浦 誠浩, 横江 毅, 尾嶋 英紀, 内田 恵一

●第78回日本消化器外科学会総会 北海道・函館市 2023年7月12日～14日

胃癌手術症例における筋肉量および筋肉内脂肪が術後成績に与える影響

三重県立総合医療センター消化器・一般外科/小児外科

毛利 靖彦, 家城 英治, 畠村 麻生, 山本 晃, 辻浦 誠浩, 横江 毅, 尾嶋 英紀, 内田 恵一

●第78回日本大腸肛門病学会学術集会 熊本県・熊本市 2023年11月10日～11日

大腸癌切除例における悪液質指標(Cachexia Index)が術後成績に与える影響

三重県立総合医療センター消化器・一般外科/小児外科

毛利 靖彦, 横山 歩乃加, 山本 晃, 橋本 清, 辻浦 誠浩, 横江 毅, 尾嶋 英紀, 内田 恵一

●日本臨床外科学会三重県支部会 第299回三重外科集談会 三重県・津市 2023年12月3日

尿路感染症を契機とする感染性心内膜炎に合併した脾膿瘍の1例

県立医療センター 外科、県立医療センター 心臓血管外科

横山歩乃加、山本晃、澤田康裕、田邊信、橋本清、森本雄貴、横江毅、尾嶋英紀、内田恵一、毛利靖彦

●第36回日本外科感染症学会 福岡県・北九州市 2023年12月15日～16日

シンポジウム1 ゼロを実現可能にする SSI バンドル対策の提唱 消化管手術における SSI バンドルケアの効果

三重県立総合医療センター消化器・一般外科、小児外科

毛利靖彦、山本真優、横山歩乃加、山本 晃、橋本 清、横江 毅、尾嶋英紀

●第36回日本外科感染症学会 福岡県・北九州市 2023年12月15日～16日

ワークショップ5 高齢・サルコペニア患者における外科感染症対策 大腸癌切除例における術前サルコペニア、術前炎症反応が術後成績に与える影響

三重県立総合医療センター消化器・一般外科

毛利靖彦、横山歩乃加、山本 晃、橋本 清、横江 毅、尾嶋英紀、内田恵一

●第36回日本外科感染症学会 福岡県・北九州市 2023年12月15日～16日

委員会企画2-2: 概説「周術期感染管理マニュアル」 大腸手術における周術期感染予防対策

三重県立総合医療センター消化器・一般外科

毛利靖彦、横山歩乃加、山本 晃、橋本 清、横江 毅、尾嶋英紀、内田恵一

●第36回日本外科感染症学会 福岡県・北九州市 2023年12月15日～16日

第436回ICD講習会

「大腸周術期感染管理対策および治療」

三重県立総合医療センター消化器・一般外科、小児外科

毛利靖彦、尾嶋英紀、山本 晃、横山歩乃加、橋本 清、横江 毅、内田恵一

<論文>

● 特集：周術期感染管理マニュアル 大腸手術における周術期感染管理

三重県立総合医療センター 外科、日本外科感染症学会周術期管理マニュアル委員会

毛利 靖彦, 山本 晃, 尾嶋 英紀, 大毛 宏喜, 森兼 啓太, 真弓 俊彦, 種本 和雄, 久保 正二, 小野 聡, 佐々木 淳一, 岡本 好司, 草地 信也, 北川 雄光

● Recent evidence for subcutaneous drains to prevent surgical site infections after abdominal surgery: A systematic review and meta-analysis.

Ishinuki T, Shinkawa H, Kouzu K, Shinji S, Goda E, Ohyanagi T, Kobayashi M, Kobayashi M, Suzuki K, Kitagawa Y, Yamashita C, Mohri Y, Shimizu J, Uchino M, Haji S, Yoshida M, Ohge H, Mayumi T, Mizuguchi T.

World J Gastrointest Surg. 2023 27; 15(12): 2879-2889.

● **Symptom palliation with QUAD Shot radiation therapy to penile metastasis derived from descending colon cancer: a case report.**

Yamamoto A, Ieki H, Shimamura M, Tsujiura M, Yokoe T, Sanuki N, Ojima E, Uchida K, Mohri Y.

Int Cancer Conf J

. 2023

30;12(3):210-215

## 乳腺外科

---

### <学会発表>

● **第31回日本乳癌学会学術総会 2023年6月29日～7月1日 横浜（現地開催）**

【ポスター275】症例報告（薬物療法）12 座長：山下雅子

● **第85回日本臨床外科学会総会 2023年11月16日～18日 岡山（現地開催）**

【ポスター発表】

・「当院における腋窩リンパ節郭清術に対する LigaSure™ の有用性の検討」

東千尋、大西春佳、山下雅子

三重県立総合医療センター 乳腺外科

### <研究会>

● **オンコプラスチックサージャリーミーティング in 四日市 2023年6月8日**

・「当院における下部領域乳癌に対する volume replacement technique を用いた温存術」

講演演者：山下 雅子

● **Weekly Oncology Webinar(WOW) がん医療セミナー 2023年4月27日**

Best of WOW! アンコール講演

「続・乳房をきれいに温存する～乳房オンコプラスチックサージャリー」

講演演者：山下 雅子

### <論文>

● **英文雑誌：**

Ganglioside GD2 Expression Is Associated With Unfavorable Prognosis in Early Triple-negative Breast Cancer.

Higashi C, Saito K, Kozuka Y, Yuasa H, Nakamura K, Ishitobi M, Ishihara M, Mizuno T, Tawara I, Fujiwara H, Ogawa T.

Anticancer Res. 2023 Sep; 43(9): 4045-4053.



## 小児外科

---

### <発表>

●厚生労働省科学研究費 難治性疾患政策研究事業「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」令和4年度第2回総会 2023年1月26日 (ZOOM web)

・「非特異性多発性小腸潰瘍症に対する取り組みのまとめ」

内田恵一、梅野淳嗣、細江直樹、井上幹大、江崎幹宏、大宮直木、中山佳子、松本主之、田口智章

・「非特異性多発性小腸潰瘍症の臨床徴候の調査」

梅野淳嗣、冬野雄太、鳥巢剛弘、内田恵一、江崎幹宏、梁井俊一、大宮直木、久松理一、渡辺憲治、細江直樹、緒方晴彦、平井郁仁、久部高司、松井敏幸、八尾恒良、松本主之、CEAS study group

・「小児潰瘍性大腸炎・小児クローン病治療指針の改訂」

清水俊明、水落建輝、清水泰岳、虻川大樹、新井勝大、工藤孝広、熊谷秀規、石毛崇、岩間達、内田恵一、井上幹大、国崎玲子、長沼誠、渡辺憲治、中村志郎、久松理一

●第52回日本小児消化管機能研究会 2023年2月11日、東京

・「当科における小児潰瘍性大腸炎に対する外科治療」

小池勇樹、内田恵一、松下航平、横田一樹、長野由佳、佐藤友紀、東浩輝、大北喜基、間山裕二

・「重症心身障がい児に発症した炎症性腸疾患に対する外科治療」

井上幹大、土屋智寛、村山未佳、近藤靖浩、直江篤樹、渡邊俊介、安井稔博、松下航平、小池勇樹、内田恵一、鈴木達也

●三重県立総合医療センター出前教室 2023年5月14日、四日市、イオン泊

・「子どもの危険な消化管異物」

内田恵一

●第298回三重外科集談会

・「Nivolumabによる術後分子標的療法を導入した直腸悪性黒色腫の一例」

横山歩乃加、尾嶋英紀、斎藤佳菜子、山本晃、辻浦誠浩、横江毅、内田恵一、毛利靖彦

●北勢小児医会 2023年6月15日19時～ web

小児腫瘍形成性虫垂炎に対する待機的虫垂切除

内田恵一

●令和5年度厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業

「希少難治性消化器疾患の長期的QOL向上と小児期からのシームレスな医療体制構築」(研究代表者 田口 智章) 課題番号 23FC1028 令和5年度 第1回 班会議 日時:2023年6月20日

・「非特異性多発性小腸潰瘍症」

内田恵一、梅野淳嗣、水落建輝、松本主之

●厚生労働省科学研究費 難治性疾患政策研究事業難治性炎症性腸管障害に関する調査研究班 令和5年度第1回総会 2023年7月23日

・「非特異性多発性小腸潰瘍症（田口班連携プロジェクト）非特異性多発性小腸潰瘍症に関する研究班連携プロジェクト」

内田恵一、松本主之、梅野淳嗣、細江直樹、井上幹大、江崎幹宏、大宮直木、中山佳子、水落建輝、田口智章

●厚生労働省科学研究費 難治性疾患政策研究事業難治性炎症性腸管障害に関する調査研究班 令和5年度第1回総会 2023年7月23日

・「非特異性多発性小腸潰瘍症の臨床徴候の調査」

梅野淳嗣、鳥巢剛弘、内田恵一、江崎幹宏、梁井俊一、大宮直木、久松理一、渡辺憲治、細江直樹、緒方晴彦、平井郁仁、久部高司、松井敏幸、八尾恒良、松本主之、CEAS study group

●第78回日本消化器外科学会 2023年7月12日

一般演題 95

・「ミニオーラル P095-5 非特異性多発性小腸潰瘍症に対する厚生労働省難治性疾患政策研究事業研究班の取り組み」

内田恵一、家城英治、鳶村麻生、山本晃、辻浦誠治、横江毅、尾嶋英紀、毛利靖彦、田口智章

●第39回日本小児外科学会秋季シンポジウム シンポジウム2（小児外科における手術部位感染の現状と予防対策）

・「小児外科患者において術後感染症合併所を予防するためのこれまでの取り組み」

井上幹大、内田恵一、村山未佳、土屋智寛、直江篤樹、渡邊俊介、安井稔博、松下航平、小池勇樹

●令和5年度厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業

「希少難治性消化器疾患の長期的QOL向上と小児期からのシームレスな医療体制構築」（研究代表者 田口智章） 課題番号 23FC1028 令和5年度 第2回 班会議 日時：2023年11月30日

・「非特異性多発性小腸潰瘍症」

内田恵一、梅野淳嗣、水落建輝、松本主之

<座長>

●第23回小児IBD研究会 2023年3月5日 久留米

外科セッション

●第60回日本小児外科学会 2023年6月1日 大阪

一般演題 3 消化管 1

●第36回日本小児救急医学会 2023年7月22日 千葉

ポスターセッション、消化器

●第 50 回日本小児栄養消化器肝臓学会 教育セミナー 3 (武田薬品工業) 10 月 21 日  
仙台

●第 79 回直腸肛門奇形研究会 2023 年 10 月 27 日 博多、要望演題 1 (総排泄外反症)

<論文>

1: Koike Y, Yin C, Sato Y, Nagano Y, Yamamoto A, Kitajima T, Shimura T, Kawamura M, Matsushita K, Okugawa Y, Amano K, Okita Y, Ohi M, Inoue M, Uchida K, Hirayama M, Toiyama Y. Promoter methylation levels of microRNA-124 in non-neoplastic rectal mucosa as a potential biomarker for ulcerative colitis-associated colorectal cancer in pediatric-onset patients. *Surg Today*. 2023 Aug 23. doi: 10.1007/s00595-023-02738-1. Epub ahead of print. PMID: 37610628.

2: Yamamoto A, Ieki H, Shimamura M, Tsujiura M, Yokoe T, Sanuki N, Ojima E, Uchida K, Mohri Y. Symptom palliation with QUAD Shot radiation therapy to penile metastasis derived from descending colon cancer: a case report. *Int Cancer Conf J*. 2023 Mar 30;12(3):210-215.

3: Yamamoto H, Sakamoto H, Kumagai H, Abe T, Ishiguro S, Uchida K, Kawasaki Y, Saida Y, Sano Y, Takeuchi Y, Tajika M, Nakajima T, Banno K, Funasaka Y, Hori S, Yamaguchi T, Yoshida T, Ishikawa H, Iwama T, Okazaki Y, Saito Y, Matsuura N, Mutoh M, Tomita N, Akiyama T, Yamamoto T, Ishida H, Nakayama Y. Clinical Guidelines for Diagnosis and Management of Peutz-Jeghers Syndrome in Children and Adults. *Digestion*. 2023;104(5):335-347.

4: Matsushita K, Uchida K, Koike Y, Inoue M, Nambu R, Muise AM, Toiyama Y. Lymphoma of the colon in a 5-year-old female with ulcerative colitis. *Pediatr Int*. 2023 Jan;65(1):e15468.

5: Inoue M, Uchida K, Nagano Y, Matsushita K, Koike Y, Okita Y, Suzuki T, Toiyama Y. Preoperative myopenia and myosteatorsis and their impact on postoperative complications in children with inflammatory bowel disease. *Surg Today*. 2023 Apr;53(4):483-489.

6: Yoneda K, Amari S, Mikami M, Uchida K, Yokoi A, Okawada M, Furukawa T, Toyoshima K, Inamura N, Okazaki T, Yamoto M, Masumoto K, Terui K, Okuyama H, Hayakawa M, Taguchi T, Usui N, Isayama T. Development of mortality prediction models for infants with isolated, left-sided congenital diaphragmatic hernia before and after birth. *Pediatr Pulmonol*. 2023 Jan;58(1):152-160.

7：内田恵一、【小児の治療方針】消化器 急性虫垂炎、小児科診療 86、638-640、2023

8：川瀬 弘一、内田 正志、内田 恵一、谷水 長丸、廣部 誠一、矢ヶ崎 英晃、渡部 誠一  
【急性虫垂炎：診断, 治療, 研究】小児急性虫垂炎診療ガイドラインと今後の展望、小児外科  
55、696-698、2023

#### <著書>

- 1, 内田恵一、遺糞症・便失禁の A to Z、十河剛 編 3 それ以外の場合—外科的疾患との関連、1 章便失禁（遺糞症）の病態 P13-22, 2023、診断と治療社、東京
- 2, 内田恵一、遺糞症・便失禁の A to Z、十河剛 編 4 小児外科医の視点、2 章便失禁（遺糞症）の診断 P113-142, 2023、診断と治療社、東京
- 3, 内田恵一、遺糞症・便失禁の A to Z、十河剛 編 4 小児外科医の視点、3 章便失禁（遺糞症）の治療 P203-226, 2023、診断と治療社、東京
- 4, 内田恵一、遺糞症・便失禁の A to Z、十河剛 編 4 小児外科医の視点、4 章便失禁（遺糞症）の予後 P244-250, 2023、診断と治療社、東京

## 呼吸器外科

---

### <学会発表>

●第 40 回日本呼吸器外科学会総会 2023 年 7 月 13 日～14 日 新潟コンベンションセンター

・「COVID-19 回復期に肺の嚢胞性変化を来して気胸を発症した 1 手術例」

鈴木仁之、伊藤大介、庄村 心、井上健太郎

●第 40 回日本呼吸器外科学会学術集会 2023 年 7 月 13 日～14 日 新潟

・「肝性胸水を伴う横隔膜交通症に対する 1 手術例」

庄村心、鈴木仁之、伊藤大介

●第 66 回関西胸部外科学会学術集会

・「重複大動脈弓を合併した右中葉切除の 1 切除例」

伊藤大介、庄村心、鈴木仁之

●第 40 回呼吸器外科学会学術集会

・「嚢胞性腫瘍像を呈した限局性悪性胸膜中皮腫の 1 手術例」

伊藤大介、庄村心、鈴木仁之

### <論文>

●冠血行再建に低侵襲冠状動脈バイパス術を用いた大理石骨病患者の 1 例

鈴木仁之、伊藤 大介、田邊 信、庄村 心、井上 健太郎、澤田康裕

胸部外科 76(2), 148-51, 2023

● 異所性心嚢内甲状腺腫の1手術例

鈴木仁之、伊藤 大介、庄村 心、井上健太郎、島本 亮  
日本呼吸器外科学会雑誌 37(5), 437-41, 2023

脳神経外科

---

<学会・研究会発表>

●Stroke 2023 2023年3月16日～18日

・「脊椎脊髄手術に対する抗血栓薬の周術期管理」

山本篤志

●Stroke2023 2023年3月18日

・「頸部内頸動脈 near occlusion に対する Staged angioplasty の有用性」

梅田靖之、黒田祐輔、後藤英希、寺島美生、亀井裕介

●第38回日本脊髄外科学会 2023年6月15日～16日

・「コンドリアーゼによる椎間板内酵素注入療法の転帰に関する因子の検討」

山本篤志

●The 14<sup>th</sup> Annual Meeting of Asia Spine 2023年6月16日～17日

・「preoperative management of antithrombotic agent for spine surgery」

山本篤志

●三重脊椎脊髄外科研究 2023年7月14日

・「胸椎硬膜背側椎間板ヘルニアの解剖学的検討」

山本篤志

●白浜ワークショップ 2023年7月15日

・「ICA near occlusion に対して Staged Angioplasty を施行した1例」

梅田靖之、中井亨、山本篤志、亀井祐介

●中部血管内治療地方会 2023年7月29日

・「Offset を用いた contact aspiration を第一選択とした経皮的血栓回収術の有用性」

梅田靖之、中井亨、山本篤志、寺島美生、山本章貴、亀井裕介

●第70回中部脊髄外科ワークショップ 2023年8月5日

・「胸椎硬膜背側椎間板ヘルニアの一例」

山本篤志

●集団会 2023年9月1日

・「内頸動脈偽閉鎖に対する Staged Angioplasty」

中井亨

●大塚高血圧セミナー 2023年9月6日

- ・「脳卒中の血圧管理 脳卒中ガイドライン2023改訂から導く降圧療法」
- 梅田靖之、

●MNCセミナー 2023年9月8日

- ・「救急外来での脳卒中診療」

梅田靖之、

●第30周年記念日本脊椎・脊髄神経手術手技学会 2023年9月15日～16日

- ・「胸椎硬膜背側椎間板ヘルニアの一例」

山本篤志

●中部地方会 2023年9月16日

- ・「ICAD related LVO に対する Stent retriever Angioplasty」

中井亨

●第82回日本脳神経外科学会 2023年10月25日～27日

- ・「脊椎脊髄手術に対する抗血栓薬の周術期管理」

山本篤志

●脳神経外科総会ポスター 2023年10月25日～27日

- ・「内頸動脈偽閉塞に対する Staged Angioplasty」

梅田靖之

●第56回柔道整復師学会 東海学術大会 特別講演 2023年10月29日

- ・「頭部外傷と脊椎外傷」

亀井祐介

●第58回日本脊髄障害医学会 2023年11月16日～17日

- ・「脊椎脊髄手術に対する抗血栓薬の周術期管理」

山本篤志

●JSNET2023 2023年11月23日

- ・「AXS offset デリバリーアシストカテーテルを用いた contact aspiration を第一選択とした経皮的血栓回収術の有用性」

梅田靖之、中井亨、山本篤志、寺島美生、山本章貴、亀井裕介

●同門会 2023年12月9日

- ・「当院脳血管内治療における Angio-Seal 使用時の穿刺部合併症」

中井亨

## 小児科

---

### <学会・研究会発表>

●三重小児アトピー性皮膚炎治療を考える会 2023年5月11日

- ・「当院でリンヴォックを使用している13歳男児例」

鈴木尚史

●三重大学小児科学教室学会 2023年6月4日

- ・「先天性腎性尿崩症の1歳6ヶ月男児例」

中里綾香

●北勢地区小児科臨床懇話会 2023年7月5日

- ・「当院におけるジファミラストの使用経験」

鈴木尚史

●第59回周産期・新生児医学会学術集会 名古屋国際会議場 2023年7月11日

- ・「臨床的診断に至らず遺伝子検査にて確定診断したCHARGE症候群の1例」

濱野 愛, 山下敦士, 大森雄介

●中部日本小児科学会 2023年8月20日

- ・「COVID-19に合併した非典型溶血性尿毒症症候群の一男児例」

中里綾香

●第72回日本アレルギー学会学術大会 2023年10月20日

- ・「原因が特定できなかったスティーヴンス・ジョンソン症候群/中毒性表皮壊死症の1例」

鈴木尚史

## 産婦人科

---

### <学会・研究会発表>

●第63回 日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会 2023年9月16日 びわ湖大津プリンスホテル

- ・「子宮内外同時妊娠の一例」

河村卓弥, 手嶋将人, 玉石希絵, 古橋英美, 竹内紗織, 大里和広, 朝倉徹夫

●東海産婦人科内視鏡手術研究会 2023年10月28日 名古屋コンベンションホール

- ・「正常妊娠確認後に腹腔内出血を認め正所異所同時妊娠の診断に至った一例」

手嶋将人, 竹内紗織, 玉石希絵, 浪崎景加, 古橋英美, 河村卓也, 朝倉徹夫, 大里和広

### <論文執筆>

●抗PD-1抗体Pembrolizumabと経口マルチキナーゼ阻害薬Levatinibの併用療法中に腸管穿孔を来した1例

玉石希絵, 榎本尚助 近藤英司, 池田智明ら

三重県産婦人科医報 41号 121-128 ページ 2023年3月1日発行

Therapeutic Effect of Nicotinamide Mononucleotide for Hypoxic-Ischemic Brain Injury in Neonatal Mice

Takuya Kawamura, Gagandeep Singh Mallah, Maryam Ardalan, Tetyana Chumak, Pernilla Svedin, Lina Jonsson, Seyedeh Marziyeh Jabbari Shiadeh, Fanny Goretta, Tomoaki Ikeda, Henrik Hagberg, Mats Sandberg and Carina Mallard  
America society for neurochemistry

Published: October 3, 2023

DOI: 10.1177/17590914231198983

## 整形外科

---

### <学会・研究会発表>

●第28回東海関節鏡研究会 2023年1月14日 愛知県名古屋市

・「関節鏡下ないしは小切開で行うフィブリン糊を用いた自家培養軟骨移植術（ACI）の術後短期成績」

服部佳生、北尾淳、奥山典孝、柿本拓也、服部徹也、寺田有輝

●第53回日本人工関節学会 2023年2月17日～18日 神奈川県横浜市

・「セメントプレッシャーライゼーションセットを使用したTKAの脛骨コンポーネントにおけるセメントマントル厚の検討」

柿本拓也、北尾淳、奥山典孝、服部徹也、服部佳生、寺田有輝、須藤啓広

●第53回日本人工関節学会 2023年2月17日～18日 神奈川県横浜市

・「仰臥位レジストレーションが可能である小型ナビゲーションシステムを用いた側臥位THAのカップ設置の精度の検討」

服部徹也、北尾淳、奥山典孝、柿本拓也、服部佳生、須藤啓広

●第46回日本骨・関節感染症学会 2023年6月23日～24日 三重県津市

・「インプラント抜去を要した人工膝関節術後感染や骨破壊を伴う化膿性膝関節炎に対して抗生剤含有セメントモールドスペーサーを用いた4例」

服部佳生、北尾淳、奥山典孝、柿本拓也、服部徹也、寺田有輝

●第46回日本骨・関節感染症学会 2023年6月23日～24日 三重県津市

・「小児化膿性距舟関節炎の1例」

柿本拓也、北尾淳、須藤啓広

●日本スポーツ整形外科学会 2023年 2023年6月29日～7月1日 広島県広島市

・「自家培養軟骨移植後5年で過形成による症状を生じた1例」

服部徹也、北尾淳、柿本拓也、服部佳生、須藤啓広



●第16回東海関節研究会 2023年7月22日 愛知県名古屋市

- ・「UKA および TKA 術後1年における Forgotten joint score-12 (FJS-12) の比較」  
服部徹也、北尾淳、奥山典孝、柿本拓也、服部佳生、寺田有輝

●第141回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会 2023年10月6日～7日 兵庫県神戸市

- ・「内側開大・外側閉鎖式高位脛骨骨切り術後感染に対しイリザロフ創外固定器を用いて治療した2例」  
寺田有輝、北尾淳、奥山典孝、柿本拓也、服部徹也、服部佳生

●第50回日本股関節学会学術集会 2023年10月27日～28日 福岡県福岡市

- ・「片側発症後2ヶ月で対側に発症した小児股関節炎の一例」  
服部徹也、北尾淳、須藤啓広

●第32回三重関節鏡・関節外科研究会 2023年11月9日 三重県津市

- ・「内側開大型高位脛骨骨切り術 (HTO) に内側半月板後根断裂 (MMPRT) 修復術と Centralization を併用した治療経験」  
服部佳生、北尾淳、奥山典孝、柿本拓也、服部徹也、寺田有輝

●第1回日本膝関節学会 2023年12月8日～9日 神奈川県横浜市

- ・「自家培養軟骨 (JACC) 移植術の中期成績-5年経過例の検討」  
柿本拓也、北尾淳、服部徹也、服部佳生、須藤啓広

●第1回日本膝関節学会 2023年.12.8～9 神奈川県横浜市

- ・「前十字靭帯再建後6ヶ月時点の膝蓋下脂肪体線維化と術後臨床成績との関連」  
服部佳生、北尾淳、奥山典孝、柿本拓也、服部徹也、寺田有輝

<論文発表>

●化膿性膝関節炎に対し抗菌薬含有セメントスペーサーを用いてADL低下を来さず2期的にTKAを行った1例 (原著論文)

三重県立総合医療センター 整形外科

服部佳生、北尾淳、奥山典孝、柿本拓也、服部徹也、寺田有輝

東海関節 (1883-6798) 14巻 Page 89-93 (2022.12)

上記1題前年度未収分論文

●不安定型転子部骨折における後外側骨片の整復位評価 (原著論文)

三重県立総合医療センター 整形外科

服部徹也、北尾淳、須藤啓広

Hip Joint (0389-3634) 49巻1号 Page148-151 (2023.8)

- TKA 術後踵骨不全骨折をきたした 2 例 (原著論文)  
三重県立総合医療センター 整形外科  
寺田有輝、北尾淳、奥山典孝、柿本拓也、服部徹也、服部佳生  
中部日本整形外科災害外科学会雑誌(0008-9443) 66 巻 2 号 Page323-324(2023. 3)
  
- 仰臥位レジストレーションが可能である小型ナビゲーションシステムを用いた側臥位  
THA のカップ設置の精度の検討  
三重県立総合医療センター 整形外科  
服部徹也、北尾淳、奥山典孝、柿本拓也、服部佳生、須藤啓広  
日本人工関節学会誌 53 : 301-302 2023
  
- セメントプレッシャーライゼーションセットを使用した TKA の脛骨コンポーネントにお  
けるセメントマントル厚の検討  
三重県立総合医療センター 整形外科  
柿本拓也、北尾淳、奥山典孝、服部徹也、服部佳生、寺田有輝、須藤啓広  
日本人工関節学会誌 53 : 449-450 2023
  
- 人工膜 VS 自家骨膜 自家培養軟骨 JACC 移植術後成績比較  
三重県立総合医療センター 整形外科  
北尾淳、柿本拓也、服部徹也、服部佳生、須藤啓広  
JOSKAS 48(1):58-89 2023
  
- 特発性脛骨内顆骨壊死に対して逆行性自家骨軟骨柱移植術および高位脛骨骨切り術を  
行った 2 例  
三重県立総合医療センター 整形外科  
柿本拓也、北尾淳、服部徹也、服部佳生、須藤啓広  
JOSKAS 48(1):64-65 2023
  
- 後十字靭帯大腿骨付着部裂離骨折を合併した区域性移動性骨萎縮症の 1 例  
三重県立総合医療センター 整形外科  
服部徹也、北尾淳、柿本拓也、服部佳生、須藤啓広  
JOSKAS 48(1):146-147 2023
  
- 膝蓋骨骨折術後に折損した軟銅線が関節内に迷入し関節血腫を生じた 1 例  
三重県立総合医療センター 整形外科  
柿本拓也、北尾淳、須藤啓広  
骨折 45 (1) : 177-181 2023

## 皮膚科

---

### <学会発表>

- 第23回三重大学皮膚科同門会学会 2023年2月12日 ホテルグリーンパーク津/WEB

・「当院の褥瘡診療について」

加古智子

- 第122回日本皮膚科学会総会 教育講演 2023年6月4日 パシフィコ横浜/WEB

・「ガイドラインに則った褥瘡診療の要点」

加古智子

## 泌尿器科

---

### <学会・研究会発表>

転移性去勢感受性前立腺癌に対する upfront ARSI 治療の臨床成績

東 真一郎, 大和 俊介, 西川 武友, 加藤 桃子, 舛井 覚, 佐々木 豪, 西川 晃平, 小島 崇宏, 大西 毅尚, 松浦 浩, 井上 貴博

日本癌治療学会学術集会抄録集 61 回 Page P30-2(2023. 10)

免疫チェックポイント阻害薬による転移性腎細胞癌の予後改善効果の検討

西川 晃平, 田中 しおり, 北野 剛士, 加藤 学, 小島 崇宏, 中谷 穂, 松本 龍貴, 芝原 拓児, 宮地 志穂里, 神田 英輝, 松浦 浩, 服部 優奈, 田端 勇作, 大和 俊介, 井上 貴博

日本癌治療学会学術集会抄録集 61 回 Page P6-3(2023. 10)

精巣上体原発と考えられた平滑筋肉腫の1例

筏井 亮太, 神田 英輝, 渡邊 晋, 松浦 浩

泌尿器科紀要(0018-1994)69巻4号 Page113-116(2023. 04)

200W Cyber TM を用いた経尿道的ツリウムレーザー前立腺蒸散術(ThuVAP)の有用性と安全性に関する多施設共同前向き研究(CS-ThuVAP)

篠原 雅岳, 平尾 佳彦, 北城 守文, 小谷 典之, 坂 宗久, 長谷川 徹, 寺戸 三千和, 阿部 裕典, 荻島 達也, 宮内 聡秀, 神田 英輝, 高柳 明夫, 宮崎 淳

泌尿器外科(0914-6180)36巻11号 Page1246-1253(2023. 11)

## 麻酔科

---

### <学会・研究会発表>

- 第21回日本麻酔科学会 東海北陸支部学術集会 2023年9月2日 浜松

・「先天性第V因子欠損症患者に対し凝固管理を行った心拍動下冠動脈バイパス手術の麻酔経験」

川島志保里

- 第21回日本麻酔科学会 東海北陸支部学術集会 2023年9月2日 浜松

・「糖尿病ケトアシドーシスによる心室細動に左星状神経節ブロックが有効であったと考えられた1例」

西川理絵

●第 127 回日本産科麻酔学会学術集会 2023 年 12 月 2 日 大阪

・「高度肥満 (BMI43) を伴う前置癒着胎盤症例に対する Cesarean Hysterectomy の麻酔経  
験」

庄村千恵子

<論文>

●浸潤子宮頸がん合併妊娠に対する帝王切開同時広汎子宮全摘術の麻酔管理

麻酔 2023 ; 72 : 114-8

庄村千恵子

## 耳鼻咽喉科

---

<学会発表>

●アレルギー疾患症例検討会 2023 年 11 月 1 日 Zoom 発表

・「アレルギー疾患の既往無く MRI の造影剤にて重篤なアナフィラキシーショックを来した  
一例」

鈴木恵理

## 看護部

---

<学会・研究会発表>

●第 5 回 三重看護研究会学術集会 2023 年 5 月 27 日

・「COVID-19 の影響で臨地実習の経験が半分以下となった新人のリアリティショックに関  
する研究」

井上真帆 ・ 齋藤 さやか ・ 佐藤 規子

●第 70 回 日本小児保健協会学術集会

・「日常生活のなかで頑張れる力となっていることに焦点を当てて」

中村安寿 ・ 宮崎つた子 (三重県立看護大学)

●第 21 回 日本看護技術学会学術集会

・「騒音曝露中に行う暗算負荷が皮膚血流量や皮膚温に及ぼす影響」

村木結南 ・ 大西範和 (三重県立看護大学)

●第 43 回 日本看護科学学会学術集会 2023 年 12 月 9 日～10 日

・「臨地実習で学生がえたアハ体験」

後藤志保 ・ 難波浩子 (三重県立看護大学)

## 中央放射線部

---

<講師>

●東海四県診療放射線技師学術大会 2023 年 2 月 11 日 web 開催

・「肝臓 超音波検査」

安本浩二

●中部超音波検査フォーラム 2023年3月18日 名古屋

・「実技講習会講師」

安本浩二

●三重県超音波研究会 2023年8月6日 三重大学

・「救急エコーライブデモンストレーション 腹部領域

『こんな画像に要注意！腹痛患者の超音波検査』

安本浩二

●中部超音波検査フォーラム 2023年8月26日 名古屋

・「実技講習会講師」

安本浩二

●放射線技術学会中部支部超音波部会 2023年9月26日 金沢医科大学

・「実技講習会講師」

安本浩二

●日本がん検診学会 東海北陸支部地方会 2023年12月9日 名古屋

・「超音波研修委員会 教育講演

『腹部超音波検査のポイントや工夫』

安本浩二

●中部キャノンCTユーザー会 ユーザー発表 2023年9月9日 名古屋

・「当院CT室の紹介と救急検査の一例」

恒川和弘

●東海 synergy 2023年7月22日 名古屋

・「SSh\_mFFE」

寺林諒

●RTG 5<sup>th</sup> 2023年10月5日 Web開催

・「器用貧乏なSSh\_mFFE」

寺林諒

●日本診療放射線技師会MRI基礎講習 2023年12月2日

・「MRI基礎講習 画像評価」

寺林諒

<座長等>

●日本診療放射線技師会学術大会 2023年9月29日 熊本

・「一般演題座長」

安本浩二

●日本超音波検査学会中部地方会 2023年10月8日 伊勢

・「教育講演座長」

安本浩二

●日本診療放射線技術学会学術大会 2023年10月27日 名古屋

・「一般演題座長」

安本浩二

●第7回三重県診療放射線技師会学術大会 2023年12月10日 鈴鹿医療科学大学

・「教育講演座長」

刀根淳也

<一般演題>

●日本超音波検査学会学術集会 2023年6月10日 大阪国際会議場

・「2機種間の肝硬度値の比較検討」

安本浩二

●第7回三重県診療放射線技師会学術大会 2023年12月10日 鈴鹿医療科学大学

・「飽和パルス辺縁の信号抑制」

寺林諒

●第24回 三重県超音波研究会 2023年8月6日 三重大学

・「超音波断面積を用いたアキレス腱肥厚評価の cut off 値の検討」

石橋幸也

## 中央検査部

---

<学会・研究会発表>

【国際学会発表】

Wada H: Anti Xa assays: current role in antithrombotic therapy. 12th Congress of The Asian-Pacific Society of Thrombosis and Haemostasis (APSTH) from October 18th to 21st 2023 at the Borneo Convention Centre Kuching (BCKC), Sarawak, Malaysia.

【国内学会・研究会】

●第17回日本血栓止血学会 SSC シンポジウム 2023年2月18日 東京

・「CWA による自己免疫性後天性凝固異常症の診断 CWA 解析の UPDATE」

和田英夫

●第45回三重県医学検査学会 2023年2月19日 鈴鹿市

・「血液培養陽性検体における複数菌検出の割合とその傾向」

星野美月、海住博之、秦由佳、東 薫、高橋あけみ

●三重県臨床検査技師会 リーダー育成研修会 2023年2月28日 Web開催

- ・「指導者の役割」

坂下文康

●第23回TTMフォーラム 2023年3月4日 Web開催

- ・「DIC ならびにDIC基礎疾患におけるsCLEC-2/血小板数比の検討」

池田望、市川由布子、江崎実、白木克哉、和田英夫

●第109回日本消化器病学会総会 2023年4月6日～8日 Web開催

- ・「食道 *Candida* 症例の臨床的検討」

高羽桂、福井俊介、小林真悠、島田康彬、中澤祐一、水谷広樹、西浦祐貴、菅大典、山中豊、井上英和、白木克哉

●第45回日本血栓止血学会学術集会、日本血栓止血学会・日本救急医学会、ジョイントシンポジウムDICの再評価 2023年6月15日～17日 北九州市

- ・「DIC診断・治療における臨床検査の役割」

和田英夫

●第45回日本血栓止血学会学術集会、日本血栓止血学会・日本救急医学会、ジョイントシンポジウムCOVID-19 associated coagulopathy と血栓止血関連検査 2023年6月15日～17日 北九州市

- ・「COVID-19の止血異常と血小板活性化」

和田英夫

●第24回日本検査血液学会学術集会 2023年7月29日 名古屋市

- ・「DIC ならびにDIC基礎疾患におけるsCLEC2/血小板比の検討」 市川由布子、池田望、江崎実、白木克哉、和田英夫

●三重県臨床検査技師会 令和5年度第1回臨床微生物部門勉強会 2023年8月3日 津市

- ・「皮膚・創部の処理方法 皮膚軟部組織の微生物検査」

海住博之

●令和5年度第3回三重県臨床検査技師会神経生理分野勉強会 2023年10月24日 Web開催

- ・「脳波検査の基礎」

伊藤美紀

●第 49 回日本心血管インターベンション治療学会東海北陸地方会 2023 年 11 月 10 日～11 日 名古屋市

・「キョウチクトウ起因による高度房室ブロックの治療経験」

渡部汐美、白前達大、秋本里紗、鈴木田明美、高橋あけみ、田中素子、坂下文康、寺村郁哉、出口勝博、増田純

●第 70 回日本臨床検査医学会学術集会 2023 年 11 月 17 日～18 日 長崎市

・「急性脳梗塞に対する sCLEC-2 と D-dimer による診断」

池田望、市川由布子、江崎実、白木克哉、新保秀人、和田英夫

●令和 5 年度日本臨床衛生検査技師会 精度管理調査総合報告会 2023 年 11 月 25 日 千葉市

・「神経生理分野報告」

坂下文康

●第 60 回日本臨床神経生理学会技術講習会 2023 年 12 月 2 日 福岡市

・「神経伝導検査のピットフォール」

坂下文康

●三重県臨床検査技師会 第 1 回 神経生理分野勉強会 2023 年 12 月 9 日 四日市市

・「神経伝導検査」ハンズオンセミナー

坂下文康

●令和 5 年度三重県精度管理調査報告会 2022 年 12 月 17 日 津市

・「凝固検査分野報告」

池田 望

<論文・執筆>

I 論文

a) 監修

和田英夫他 11 名：病気が見える、Vol. 血液 改訂第 3 版、メディックメディア社、pp1-333、2023

b) 和文

- 1) 和田英夫、市川由布子、江崎実： COVID-19 の止血異常と血小板活性化、日本検査血液学会雑誌第 2023；24：448-459
- 2) 和田英夫、江崎実、市川由布子、池田望： 修正凝固波形解析、血栓止血誌、2023；34：36-42

c) 欧文論文

- 1) Biomarkers of Hypercoagulability in COVID-19.  
Wada H. J Clin Med. 2023 May 17;12(10):3525. doi: 10.3390/jcm12103525. PMID: 37240631



- 2) Diagnostic and treatment guidelines for thrombotic thrombocytopenic purpura (TTP) in Japan 2023.  
Matsumoto M, Miyakawa Y, Kokame K, Ueda Y, Wada H, Higasa S, Yagi H, Ogawa Y, Sakai K, Miyata T, Morishita E, Fujimura Y; For TTP group of Blood Coagulation Abnormalities Research Study Team, Research on Rare and Intractable diseases, Health and Labour Sciences Research Grants from the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan. *Int J Hematol.* 2023 Nov;118(5):529–546. doi: 10.1007/s12185-023-03657-0. Epub 2023 Sep 10. PMID: 37689812
- 3) Clot Waveform Analysis for Hemostatic Abnormalities.  
Wada H, Shiraki K, Matsumoto T, Shimpo H, Shimaoka M. *Ann Lab Med.* 2023 Nov 1;43(6):531–538. doi: 10.3343/alm.2023.43.6.531. Epub 2023 Jun 30. PMID: 37387486
- 4) Platelet Activation and Thrombosis in COVID-19.  
Iba T, Wada H, Levy JH. *Semin Thromb Hemost.* 2023 Feb;49(1):55–61. doi: 10.1055/s-0042-1749441. Epub 2022 Jun 23. PMID: 35738296
- 5) Thrombotic Mechanism Involving Platelet Activation, Hypercoagulability and Hypofibrinolysis in Coronavirus Disease 2019.  
Wada H, Shiraki K, Shimpo H, Shimaoka M, Iba T, Suzuki-Inoue K. *Int J Mol Sci.* 2023 Apr 28;24(9):7975. doi: 10.3390/ijms24097975. PMID: 37175680
- 6) Predictive prognostic biomarkers in patients with COVID-19 infection.  
Fukui S, Ikeda K, Kobayashi M, Nishida K, Yamada K, Horie S, Shimada Y, Miki H, Goto H, Hayashi K, Nakazawa Y, Mizutani H, Kamon T, Tanigaito Y, Kodama S, Kato T, Nishiura Y, Suga D, Terashima T, Ichikawa Y, Moritani I, Yamamoto A, Takaba K, Yasumoto K, Wada H, Shiraki K. *Mol Med Rep.* 2023 Jan;27(1):15. doi: 10.3892/mmr.2022.12902. Epub 2022 Dec 1. PMID: 36453231
- 7) The Detection of Hypercoagulability in Patients with Acute Cerebral Infarction Using a Clot Waveform Analysis.  
Kamon T, Horie S, Inaba T, Ito N, Shiraki K, Ichikawa Y, Ezaki M, Shimpo H, Shimaoka M, Nishigaki A, Shindo A, Wada H. *Clin Appl Thromb Hemost.* 2023 Jan–Dec;29:10760296231161591. doi: 10.1177/10760296231161591. PMID: 36872898
- 8) Plasma Soluble Fibrin Is Useful for the Diagnosis of Thrombotic Diseases.  
Ezaki M, Wada H, Ichikawa Y, Ikeda N, Shiraki K, Yamamoto A, Moritani I, Shimaoka M, Shimpo H. *J Clin Med.* 2023 Mar 30;12(7):2597. doi: 10.3390/jcm12072597. PMID: 37048680
- 9) Super Formula for Diagnosing Disseminated Intravascular Coagulation Using Soluble C-Type Lectin-like Receptor 2.  
Yamamoto A, Wada H, Tomida M, Ichikawa Y, Ezaki M, Shiraki K, Shimaoka M, Iba T, Suzuki-Inoue K, Kawamura M, Shimpo H. *Diagnostics (Basel).* 2023 Jul 6;13(13):2299. doi: 10.3390/diagnostics13132299. PMID: 37443690
- 10) "Communication from the Scientific and Standardization Committee of the International Society on Thrombosis and Hemostasis on sepsis-induced coagulopathy in the management of sepsis": Comment from Wada et al.

- Wada H, Matsumoto T, Shiraki K. *J Thromb Haemost.* 2023 Jun;21(6):1677–1678. doi: 10.1016/j.jth.2023.02.024. PMID: 37179075
- 11) The Evaluation of Clot Waveform Analyses for Assessing Hypercoagulability in Patients Treated with Factor VIII Concentrate.  
Matsumoto T, Wada H, Shiraki K, Suzuki K, Yamashita Y, Tawara I, Shimpo H, Shimaoka M. *J Clin Med.* 2023 Sep 30;12(19):6320. doi: 10.3390/jcm12196320. PMID: 37834964
- 12) Clinical Significance of Plasma Tenascin-C Levels in Recipients With Prolonged Jaundice After Living Donor Liver Transplantation.  
Shinkai T, Kuriyama N, Usui M, Hayasaki A, Fujii T, Iizawa Y, Tanemura A, Murata Y, Kishiwada M, Katoh D, Matsumoto T, Wada H, Yoshida T, Isaji S, Mizuno S. *Transplant Proc.* 2023 May;55(4):913–923. doi: 10.1016/j.transproceed.2023.01.028. Epub 2023 Mar 25. PMID: 36973145
- 13) Sepsis-Associated DIC with Decreased Levels of Antithrombin and Fibrinogen is the Target for Combination Therapy with Thrombomodulin Alfa and Antithrombin.  
Wada H, Kawasugi K, Honda G, Kawano N, Uchiyama T, Madoiwa S, Takezako N, Suzuki K, Seki Y, Ikezoe T, Iba T, Okamoto K. *TH Open.* 2023 Feb 22;7(1): e65–e75. doi: 10.1055/a-2009–9073. eCollection 2023 Jan. PMID: 36846833
- 14) Soluble C-type lectin-like receptor 2 in stroke (CLECSTRO) study: protocol of a multicentre, prospective cohort of a novel platelet activation marker in acute ischaemic stroke and transient ischaemic attack.  
Uchiyama S, Suzuki-Inoue K, Wada H, Okada Y, Hirano T, Nagao T, Kinouchi H, Itabashi R, Hoshino H, Oki K, Honma Y, Ito N, Sugimori H, Kawamura M. *BMJ Open.* 2023 Sep 18;13(9):e073708. doi: 10.1136/bmjopen-2023-073708. PMID: 37723115
- 15) The antithrombin activity recovery after substitution therapy is associated with improved 28-day mortality in patients with sepsis-associated disseminated intravascular coagulation.  
Iba T, Tanigawa T, Wada H, Levy JH. *Thromb J.* 2023 Nov 2;21(1):112. doi: 10.1186/s12959-023-00556-6. PMID: 37919722
- 16) Application of a scoring system in Japanese patients diagnosed with atypical hemolytic uremic syndrome to assess the relationship between the score and clinical responses to eculizumab.  
Wada H, Teranishi H, Shimono A, Kato N, Maruyama S, Matsumoto M. *Thromb J.* 2023 Apr 18;21(1):43. doi: 10.1186/s12959-023-00489-0. PMID: 37072821
- 17) Reply to Ishikura, H. What Does Soluble C-Type Lectin-like Receptor 2 (sCLEC-2) × D-Dimer/Platelet (PLT) (sCLEC-2 × D-Dimer/PLT) Mean for Coagulation/Fibrinolysis Conditions? Comment on "Yamamoto et al. Super Formula for Diagnosing Disseminated Intravascular Coagulation Using Soluble C-Type Lectin-like Receptor 2. *Diagnostics* 2023, 13, 2299".  
Wada H, Yamamoto A, Shiraki K, Shimpo H. *Diagnostics (Basel).* 2023 Dec 25;14(1):42. doi: 10.3390/diagnostics14010042. PMID: 38201352

## 薬剤部

---

### <学会・研究会発表>

●第16回日本緩和医療薬学会年会 2023年5月26日～28日

- ・「ポスター発表 「腓頭部癌の右前胸部皮膚転移部の疼痛に対して、リドカイン混合ワセリンが著効した1例」

藤井 稚奈

●日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部合同学術大会 2023 2023年11月12日

- ・「一般演題 「当院入院症例における COVID-19 治療薬の使用実績調査と薬剤師の介入について」

大野 航輝

## 地域連携課

---

### <学会発表>

●日本精神分析学会 第69回大会 2023年11月3日～5日 広島国際会議場・広島市文化交流会館 11月4日 口頭発表(事例研究)

- ・「死に向かう患者への心理療法の設定の意義」

今出雅博

●日本心理臨床学会 第42回大会 2023年9月1日～3日 パシフィコ横浜 9月3日 口頭発表(事例研究)

- ・「「抱えること」をめぐる心のやりとり～タビストック方式乳幼児観察における、ある親子の関わりから～」

仙波あゆみ

## 研究センター

---

### II. 論文

#### a) 監修

和田英夫他11名: 病気が見える、Vol. 血液 改訂第3版、メディックメディア社、pp1-333、2023

#### b) 和文

18) 和田英夫、市川由布子、江崎実: COVID-19 の止血異常と血小板活性化、日本検査血液学会雑誌第2023; 24: 448-459

19) 和田英夫、江崎実、市川由布子、池田望: 修正凝固波形解析、血栓止血誌、2023; 34: 36-42

#### c) 欧文論文

1) Biomarkers of Hypercoagulability in COVID-19.

Wada H. J Clin Med. 2023 May 17;12(10):3525. doi: 10.3390/jcm12103525. PMID:

37240631

- 2) Diagnostic and treatment guidelines for thrombotic thrombocytopenic purpura (TTP) in Japan 2023.  
Matsumoto M, Miyakawa Y, Kokame K, Ueda Y, Wada H, Higasa S, Yagi H, Ogawa Y, Sakai K, Miyata T, Morishita E, Fujimura Y; For TTP group of Blood Coagulation Abnormalities Research Study Team, Research on Rare and Intractable diseases, Health and Labour Sciences Research Grants from the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan. *Int J Hematol.* 2023 Nov;118(5):529-546. doi: 10.1007/s12185-023-03657-0. Epub 2023 Sep 10. PMID: 37689812
- 3) Clot Waveform Analysis for Hemostatic Abnormalities.  
Wada H, Shiraki K, Matsumoto T, Shimpo H, Shimaoka M. *Ann Lab Med.* 2023 Nov 1;43(6):531-538. doi: 10.3343/alm.2023.43.6.531. Epub 2023 Jun 30. PMID: 37387486
- 4) Platelet Activation and Thrombosis in COVID-19.  
Iba T, Wada H, Levy JH. *Semin Thromb Hemost.* 2023 Feb;49(1):55-61. doi: 10.1055/s-0042-1749441. Epub 2022 Jun 23. PMID: 35738296
- 5) Thrombotic Mechanism Involving Platelet Activation, Hypercoagulability and Hypofibrinolysis in Coronavirus Disease 2019.  
Wada H, Shiraki K, Shimpo H, Shimaoka M, Iba T, Suzuki-Inoue K. *Int J Mol Sci.* 2023 Apr 28;24(9):7975. doi: 10.3390/ijms24097975. PMID: 37175680
- 6) Predictive prognostic biomarkers in patients with COVID-19 infection.  
Fukui S, Ikeda K, Kobayashi M, Nishida K, Yamada K, Horie S, Shimada Y, Miki H, Goto H, Hayashi K, Nakazawa Y, Mizutani H, Kamon T, Tanigaito Y, Kodama S, Kato T, Nishiura Y, Suga D, Terashima T, Ichikawa Y, Moritani I, Yamamoto A, Takaba K, Yasumoto K, Wada H, Shiraki K. *Mol Med Rep.* 2023 Jan;27(1):15. doi: 10.3892/mmr.2022.12902. Epub 2022 Dec 1. PMID: 36453231
- 7) The Detection of Hypercoagulability in Patients with Acute Cerebral Infarction Using a Clot Waveform Analysis.  
Kamon T, Horie S, Inaba T, Ito N, Shiraki K, Ichikawa Y, Ezaki M, Shimpo H, Shimaoka M, Nishigaki A, Shindo A, Wada H. *Clin Appl Thromb Hemost.* 2023 Jan-Dec;29:10760296231161591. doi: 10.1177/10760296231161591. PMID: 36872898
- 8) Plasma Soluble Fibrin Is Useful for the Diagnosis of Thrombotic Diseases.  
Ezaki M, Wada H, Ichikawa Y, Ikeda N, Shiraki K, Yamamoto A, Moritani I, Shimaoka M, Shimpo H. *J Clin Med.* 2023 Mar 30;12(7):2597. doi: 10.3390/jcm12072597. PMID: 37048680

- 9) Super Formula for Diagnosing Disseminated Intravascular Coagulation Using Soluble C-Type Lectin-like Receptor 2.  
Yamamoto A, Wada H, Tomida M, Ichikawa Y, Ezaki M, Shiraki K, Shimaoka M, Iba T, Suzuki-Inoue K, Kawamura M, Shimpo H. *Diagnostics (Basel)*. 2023 Jul 6;13(13):2299. doi: 10.3390/diagnostics13132299. PMID: 37443690
- 10) "Communication from the Scientific and Standardization Committee of the International Society on Thrombosis and Hemostasis on sepsis-induced coagulopathy in the management of sepsis": Comment from Wada et al.  
Wada H, Matsumoto T, Shiraki K. *J Thromb Haemost*. 2023 Jun;21(6):1677-1678. doi: 10.1016/j.jth.2023.02.024. PMID: 37179075
- 11) The Evaluation of Clot Waveform Analyses for Assessing Hypercoagulability in Patients Treated with Factor VIII Concentrate.  
Matsumoto T, Wada H, Shiraki K, Suzuki K, Yamashita Y, Tawara I, Shimpo H, Shimaoka M. *J Clin Med*. 2023 Sep 30;12(19):6320. doi: 10.3390/jcm12196320. PMID: 37834964
- 12) Clinical Significance of Plasma Tenascin-C Levels in Recipients With Prolonged Jaundice After Living Donor Liver Transplantation.  
Shinkai T, Kuriyama N, Usui M, Hayasaki A, Fujii T, Iizawa Y, Tanemura A, Murata Y, Kishiwada M, Katoh D, Matsumoto T, Wada H, Yoshida T, Isaji S, Mizuno S. *Transplant Proc*. 2023 May;55(4):913-923. doi: 10.1016/j.transproceed.2023.01.028. Epub 2023 Mar 25. PMID: 36973145
- 13) Sepsis-Associated DIC with Decreased Levels of Antithrombin and Fibrinogen is the Target for Combination Therapy with Thrombomodulin Alfa and Antithrombin.  
Wada H, Kawasugi K, Honda G, Kawano N, Uchiyama T, Madoiwa S, Takezako N, Suzuki K, Seki Y, Ikezoe T, Iba T, Okamoto K. *TH Open*. 2023 Feb 22;7(1):e65-e75. doi: 10.1055/a-2009-9073. eCollection 2023 Jan. PMID: 36846833
- 14) Soluble C-type lectin-like receptor 2 in stroke (CLECSTRO) study: protocol of a multicentre, prospective cohort of a novel platelet activation marker in acute ischaemic stroke and transient ischaemic attack.  
Uchiyama S, Suzuki-Inoue K, Wada H, Okada Y, Hirano T, Nagao T, Kinouchi H, Itabashi R, Hoshino H, Oki K, Honma Y, Ito N, Sugimori H, Kawamura M. *BMJ Open*. 2023 Sep 18;13(9):e073708. doi: 10.1136/bmjopen-2023-073708. PMID: 37723115
- 15) The antithrombin activity recovery after substitution therapy is associated with improved 28-day mortality in patients with sepsis-associated disseminated intravascular coagulation.  
Iba T, Tanigawa T, Wada H, Levy JH. *Thromb J*. 2023 Nov 2;21(1):112. doi: 10.1186/s12959-023-00556-6. PMID: 37919722

16) Application of a scoring system in Japanese patients diagnosed with atypical hemolytic uremic syndrome to assess the relationship between the score and clinical responses to eculizumab.

Wada H, Teranishi H, Shimono A, Kato N, Maruyama S, Matsumoto M. *Thromb J*. 2023 Apr 18;21(1):43. doi: 10.1186/s12959-023-00489-0. PMID: 37072821

17) Reply to Ishikura, H. What Does Soluble C-Type Lectin-like Receptor 2 (sCLEC-2)  $\times$  D-Dimer/Platelet (PLT) (sCLEC-2  $\times$  D-Dimer/PLT) Mean for Coagulation/Fibrinolysis Conditions? Comment on "Yamamoto et al. Super Formula for Diagnosing Disseminated Intravascular Coagulation Using Soluble C-Type Lectin-like Receptor 2. *Diagnostics* 2023, 13, 2299".

Wada H, Yamamoto A, Shiraki K, Shimpo H. *Diagnostics (Basel)*. 2023 Dec 25;14(1):42. doi: 10.3390/diagnostics14010042. PMID: 38201352

## II. 発表

### a) 国際学会発表

1) Wada H: Anti Xa assays: current role in antithrombotic therapy. 12th Congress of The Asian-Pacific Society of Thrombosis and Haemostasis (APSTH) from October 18th to 21st 2023 at the Borneo Convention Centre Kuching (BCKC), Sarawak, Malaysia.

### b) 国内学会

1) 和田英夫: CWA による自己免疫性後天性凝固異常症の診断 CWA 解析の UPDATE、第 17 回日本血栓止血学会 SSC シンポジウム、2023 年 2 月 18 日 (東京)

2) 和田英夫: DIC 診断・治療における臨床検査の役割、第 45 回日本血栓止血学会学術集会、日本血栓止血学会・日本救急医学会、ジョイントシンポジウム DIC の再評価 (北九州)2023 年 6 月 15-17

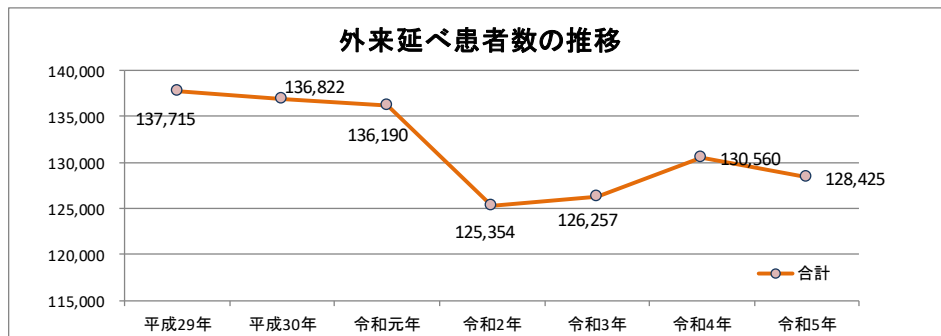
3) 和田英夫: COVID-19 の止血異常と血小板活性化、第 45 回日本血栓止血学会学術集会、日本血栓止血学会・日本検査血液学会、ジョイントシンポジウム COVID-19 associated coagulopathy と血栓止血関連検査(北九州)2023 年 6/15-17

#### 4. 統計データ

##### (1) 患者統計

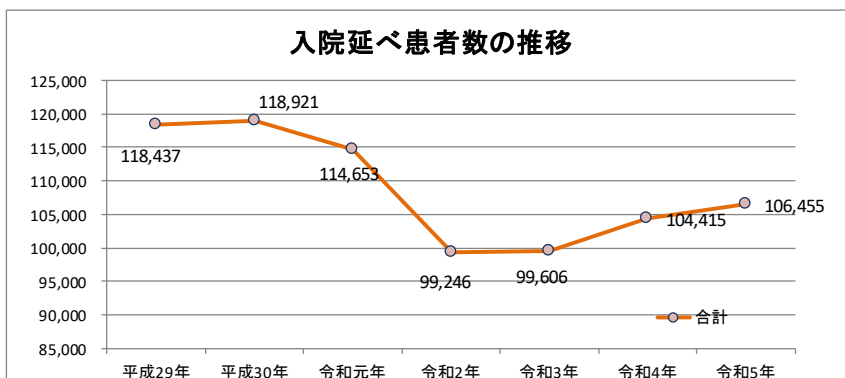
《診療科別外来延べ患者数》

診療科	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
内科	5,871	7,079	7,217	6,613	7,331	8,633	6,329
消化器・一般外科	11,436	12,116	11,349	10,178	10,155	10,724	10,484
心臓血管外科	1,097	1,188	1,178	1,076	1,075	1,112	1,110
脳神経外科	5,555	5,131	5,474	5,116	4,961	5,108	5,172
小児科	14,560	13,922	14,852	11,539	11,305	11,620	11,901
産婦人科	18,080	16,840	16,475	13,810	11,938	10,855	10,153
整形外科	12,776	12,995	12,308	12,538	12,493	13,867	13,736
リハ科	0	0	0	0	0	0	0
皮膚科	5,900	6,233	6,239	6,072	6,393	7,058	6,948
泌尿器科	7,817	7,551	7,478	7,481	7,486	7,342	7,434
眼科	2,522	2,521	2,488	2,474	2,415	2,057	2,150
耳鼻咽喉科	4,460	4,299	3,726	3,375	3,570	3,509	3,688
精神科	3,311	3,162	3,045	2,809	2,857	2,784	2,584
放射線科	0	0	0	0	0	0	0
神経内科	3,694	3,553	3,364	3,106	2,675	3,176	3,969
循環器内科	10,115	9,818	8,999	8,873	9,618	10,010	9,604
呼吸器内科	12,063	11,856	12,024	11,775	11,918	12,270	12,736
消化器内科	12,578	11,617	11,466	10,628	10,914	10,961	10,784
呼吸器外科	292	394	363	308	308	254	274
放射線診断科	1,690	1,697	1,795	1,444	1,597	1,672	1,657
放射線治療科	1,342	1,458	1,990	1,614	1,777	1,513	1,444
乳腺外科	2,097	2,548	2,798	3,076	3,606	3,909	4,122
救急・集中治療科	459	703	636	502	791	904	912
小児外科		141	926	942	969	1,029	996
形成外科				5	105	193	238
合計	137,715	136,822	136,190	125,354	126,257	130,560	128,425



《診療科別入院延べ患者数》

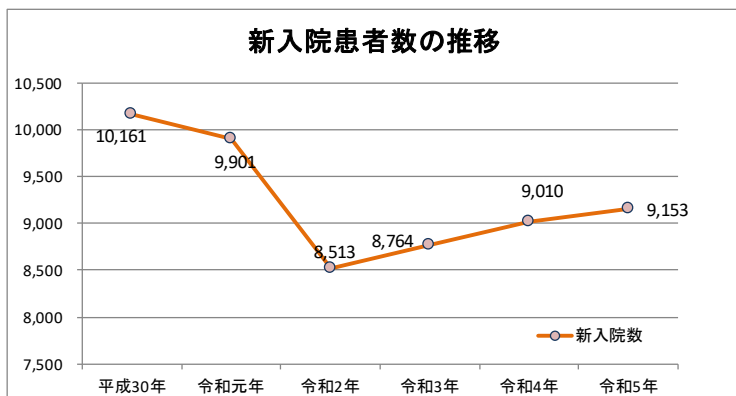
科	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
内科	0	0	0	0	54	2,237	392
消化器・一般外科	14,775	14,039	12,241	11,193	11,157	11,006	10,972
心臓血管外科	1,799	2,226	2,007	1,268	1,087	1,877	2,379
脳神経外科	12,195	12,352	12,012	9,437	11,327	11,450	11,710
小児科	11,939	13,450	12,364	8,799	8,526	8,240	7,352
産婦人科	12,789	12,731	11,213	9,369	9,239	9,656	8,842
整形外科	12,522	12,210	13,252	12,234	12,348	12,590	13,025
リハ科	0	0	0	0	0	0	0
皮膚科	496	369	321	397	274	165	59
泌尿器科	2,279	2,142	2,811	3,098	3,471	3,264	3,923
眼科	5	6	0	0	4	0	0
耳鼻咽喉科	392	332	366	262	323	350	320
精神科	0	0	0	0	0	0	0
神経内科	7,316	7,212	6,742	5,910	4,008	7,236	9,799
循環器内科	12,933	11,101	11,218	9,454	10,414	10,230	10,987
呼吸器内科	15,184	14,624	14,458	13,755	12,663	12,452	12,574
消化器内科	11,890	13,367	12,486	10,818	11,334	10,622	10,619
呼吸器外科	1,136	1,609	1,174	1,132	1,096	940	1,282
放射線診断科	0	0	0	0	0	0	0
放射線治療科	0	0	0	0	0	0	0
乳腺外科	511	592	705	782	644	886	832
救急・集中治療科	276	501	792	717	1,086	796	1,033
小児外科		58	491	621	551	418	355
形成外科						0	0
合計	118,437	118,921	114,653	99,246	99,606	104,415	106,455





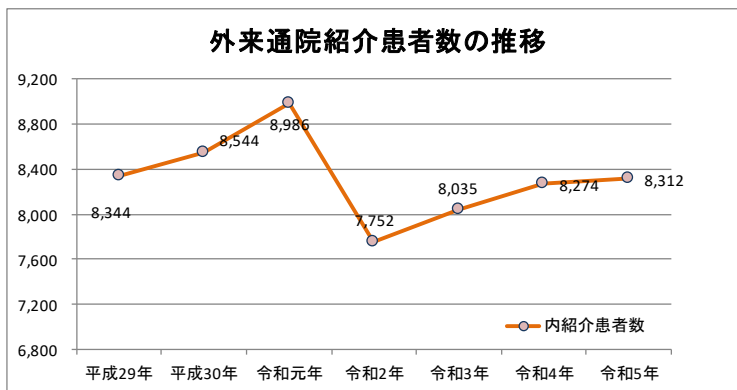
《入退院状況》

	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
新入院数	10,009	10,161	9,901	8,513	8,764	9,010	9,153
内紹介入院数	1,564	1,661	1,615	1,117	1,156	1,248	1,233
内救急入院数	3,893	3,933	3,819	3,218	3,352	3,728	3,828
転科入院数	379	396	374	442	596	396	391
退院数	9,986	10,195	9,895	8,534	8,787	8,930	9,173
内死亡退院数	438	434	396	364	343	471	470
転科退院数	379	396	374	442	596	396	391
平均在院日数	11.8	11.7	11.6	11.6	11.4	11.7	11.6



《外来通院状況》

	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
初診数	20,418	20,269	19,851	16,294	18,197	19,463	18,076
内紹介患者数	8,344	8,544	8,986	7,752	8,035	8,274	8,312
内救急患者数	9,154	9,257	8,819	6,773	7,538	8,041	7,733
平均通院日数	6.7	6.8	6.9	7.7	7.0	6.8	7.1













c-1130	その他の器疾患	男	13	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	1	0	0	0
		女	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0
c-1131	その他の消化器系の疾患	男	131	0	37	0	0	2	0	0	3	0	0	0	3	3	2	81	0	0	0	0	0
		女	62	0	15	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	5	2	32	0	0	0	0	3
c-1201	皮膚及び皮下組織の感染症	男	59	0	1	1	1	15	0	6	0	4	0	1	0	9	10	10	1	0	0	0	0
		女	49	0	1	0	2	18	2	1	0	0	0	2	0	5	3	9	5	0	0	0	1
c-1202	アトピー性皮膚炎	男	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
c-1203	接触皮膚炎	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1204	その他の皮膚炎及び湿疹	男	7	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0
		女	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4	0	0	0	0	0
c-1205	乾せん及びその他の丘疹落せつ性障害	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1206	じんま疹	男	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
		女	4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0
c-1209	ざ瘡<アクネ>	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1212	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	男	18	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	5	4	4	0	0	1	2	0
		女	27	1	1	0	0	2	0	3	0	0	0	0	2	5	7	6	0	0	0	0	0
c-1301	関節リウマチ	男	17	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	10	4	0	0	0	0	0	0
		女	23	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	5	10	3	0	0	1	0	0
c-1302	痛風	男	6	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	1	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
c-1303	その他の炎症性多発性関節障害	男	18	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	4	3	5	2	1	0	0	0	0
		女	20	1	0	0	1	1	0	2	0	1	0	0	5	2	2	5	0	0	0	0	0
c-1304	関節症	男	74	0	0	0	0	0	74	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	131	0	0	0	0	0	130	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
c-1305	四肢の後天性変形	男	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	9	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
c-1306	膝内障	男	16	0	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	21	0	0	0	0	0	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1307	関節痛	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1308	その他の関節障害	男	17	0	0	0	0	1	0	15	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	15	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
c-1309	全身性エリテマトーデス<SLE>	男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
c-1310	乾燥症候群[シェーグレン症候群]	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
c-1312	その他の全身性結合組織障害	男	29	0	2	0	0	16	0	0	1	0	0	0	1	2	5	2	0	0	0	0	0
		女	22	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	1	9	2	0	0	0	0	0
c-1313	脊椎障害(脊椎症を含む)	男	110	0	0	0	93	0	1	0	0	0	0	0	2	4	2	6	2	0	0	0	0
		女	48	0	0	0	36	0	0	0	0	0	0	0	3	1	5	3	0	0	0	0	0
c-1314	椎間板障害	男	22	0	0	0	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
		女	10	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
c-1316	腰痛症及び坐骨神経痛	男	8	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	3	2	0	0	0	0	0	0
		女	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
c-1317	その他の背部痛	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
		女	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
c-1318	その他の脊柱障害	男	5	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
c-1319	軟部組織障害	男	78	0	5	2	0	1	0	13	0	3	0	0	3	21	15	12	1	0	2	0	0
		女	51	2	1	0	0	1	1	5	0	1	0	0	6	14	9	10	0	0	0	0	1
c-1321	骨粗しょう症	男	4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0
		女	10	0	0	0	1	0	0	3	0	0	0	0	0	2	0	4	0	0	0	0	0
c-1322	その他の骨の密度及び構造の障害	男	3	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	4	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
c-1323	骨髄炎	男	9	0	0	1	0	0	0	7	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
		女	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1325	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	男	18	0	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	26	0	0	0	0	0	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1401	急性及び急速進行性腎炎症候群	男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1402	ネフローゼ症候群	男	5	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
c-1403	その他の糸球体疾患	男	5	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
c-1404	腎尿管管間質性疾患	男	69	0	3	0	0	15	0	0	0	27	0	0	5	5	7	5	1	0	1	0	0
		女	57	0	2	0	0	6	4	0	0	21	0	0	8	4	9	3	0				





### (3) 図書蔵書状況

蔵書状況（2023年12月31日現在）

	図書	視聴覚資料	計
外国	77冊	0枚	77点
国内	1250冊	174枚	1424点
合計	1327冊	174枚	1501点

雑誌受入数

洋雑誌	1誌 ※1
和雑誌	46誌 ※2
計	47誌

※1 2018年度より、ClinicalKey契約済。

※2 2020年度より、MedicalOnline契約済。